日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業計画】

第１回　近代国家と憲法
第２回　日本国憲法制定の経緯
第３回　日本国憲法の基本原理
第４回　人権の歴史
第５回　人権の内容・享有主体
第６回　人権規定の効力
第７回　生命・自由・幸福追求権
第８回　法の下の平等
第９回　信教の自由と政教分離
第10回　表現の自由
第11回　人身の自由と刑事手続
第12回　国会・内閣
第13回　司法制度
第14回　地方自治
第15回　期末試験

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第２版）（初谷良彦著　成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

第１回　民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
第２回　近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
第３回　現代民主主義の問題点
第４回　国家の正統性について
第５回　国家と社会契約の思想
第６回　議会制民主主義の歴史
第７回　議院内閣制と大統領制
第８回　多数決原理と民主主義
第９回　代議制民主主義と選挙制度
第10回　現代の民主主義体制
第11回　人権総論
第12回　人間の尊厳と人権
第13回　障害者の国務請求権
第14回　少数者の人権
第15回　平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説　デモクラシーと国家（初谷良彦他　成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために改造し続けて来たことの問題である。そして、自然への関わり方は、「自然観」によって規定されている。だから、自然との関わり方・自然観は、人間の生き方を反映している。自然との関わり方を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。ところで近代的な自然科学的な自然観の以前に自然観の長い歴史が知的遺産として横たわっている。そこから学ばない手はない。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1．なぜ自然の哲学か
2．神話的自然観－ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり－
3．ソクラテス以前の自然哲学－タレスからアナクサゴラスまで－
4．ソフィストとソクラテス・プラトン
5．アリストテレス
6．デカルト
7．カント
8．シェリングとロマン主義的自然観
9．進化論的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史　上・下（シュヴェーグラー　岩波文庫）
西洋哲学史（岩崎武雄　有斐閣）
哲学の原風景（荻野弘之　NHKライブラリー）
野生の歌が聞こえる（レオポルド　講談社学術文庫）
エマソン論文集　上（エマソン　岩波文庫）

生命倫理学

加藤太喜子

【授業の概要】

生命科学の進歩と発達に伴い、倫理的・法的・社会的視点の重要性が指摘されるようになった。新旧さまざまな問題を挙げながら、依拠する規範のあり方をともに考えたい。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1．生命倫理学の成り立ち
2．インフォームド・コンセント
3．脳死と移植医療
4．生殖医療
5．代理母
6．人工妊娠中絶
7．出生前診断
8．優生思想とは
9．よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著　講談社現代新書）
クローン人間（粥川準二著　光文社新書）

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行ないます。

第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統のもつ意味を考えたいと思います。

さらに、本年度は、儒教を原始仏教との比較で考えます。仏教をぬきにしては東洋における「宗教的人間」を語ることができないからです。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

1．釈尊の歴史的実像（磯部隆著　大学教育出版）
2．孔子と古代オリエント（磯部隆著　大学教育出版）

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をすべきかを考える。

1．倫理的視点から見た現代の社会問題
2．倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3．倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4．社会の安全性と科学技術者の責任
　クローン技術はどのように応用されるべきか?
5．環境倫理の主張
　自然保護は何をめざしているのか?
6．インターネット時代の倫理
　知的財産は誰のものか?
7．内部告発と社会の浄化
　内部告発は行なうべきか?

【評価方法】

小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義　倫理学の視座（新田孝彦著　世界思想社）
先端技術と人間　21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著　NHKライブラリー）
環境と倫理　自然と人間の共生を求めて（加藤尚武編　有斐閣アルマ）

ジェンダーと社会Ⅰ

北仲千里

【授業の概要】

男らしさ、女らしさは最近大きく変わってきています。しかし、現在でも人生の始まりから最後まで、雨が降った時さす傘の色からくしゃみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の差異と平等は、今日大きな社会問題にもなっています。この講義では、社会学的な見方をベースに「男であること、女であること」や家族、そしてセクシュアリティにまつわるテーマを考えていきます。

【授業計画】

まず最初にジェンダーという考え方についてとりあげます。そのことと家族に関するテーマは深く関係しあっています。また性別の問題と性（セクシュアリティ）の問題は、深く関わり合い、私たちの心のどこか深い部分、自己意識にまで影響を及ぼしているといえるかもしれません。そうしたテーマをビデオを見たり、統計で確かめたり、新聞を読んだりしながら2・3週ずつ取り上げていきます。

テーマ1　ジェンダーとは何か
　「ジェンダー」概念1　身体の違いとジェンダー
　「ジェンダー」概念2「差別」と「区別」
テーマ2　ジェンダーと結婚・家族
　（1）「専業主婦」の社会学
　（2）結婚と社会
　（3）家庭の中のジェンダー
　（4）家族をめぐる社会問題
テーマ3　働くこと、働かないこととジェンダー
　（1）男女の賃金と働き方
　（2）家事労働と職業労働
テーマ4　セクシュアリティの社会学
　（1）性の規範とジェンダー
　（2）レイプやストーカー犯罪と社会
　（3）セクシュアル・ハラスメント
　（4）同性愛は異常かそれとも純粋な愛か

【評価方法】

講義中に数回行うミニレポートと、期末の試験との両方で評価します。
単なる「出席点」というのはありません。
期末試験の際は、持ち込み自由とします。

【テキスト】

教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学～ジェンダー論入門～（伊藤公雄・國信潤子著　有斐閣）
新訂　ジェンダーの社会学（江原由美子・山田昌弘著　放送大学テキスト）

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸　山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、<女/男>の規範がどのようにテクストにおりこまれているかを読み解き、さらにテクストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション
第2回　〈ことば〉とジェンダー
第3回　〈書く女〉の登場（1）
第4回　〈書く女〉の登場（2）
第5回　女性を描く男性作家のまなざし（1）
第6回　女性を描く男性作家のまなざし（2）
第7回　母と娘の物語（1）
第8回　母と娘の物語（2）
第9回　家族の物語
第10回　文学の政治性
第11回　文学と映像文化
第12回　まとめ
＊内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　女性学・男性学の誕生
第３回　男女をめぐる国際比較
第４回　作られる「女らしさ」「男らしさ」
第５回　恋愛と結婚
第６回　リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
第７回　女性と労働
第８回　男性と労働
第９回　家族をめぐる諸問題（１）
第10回　家族をめぐる諸問題（２）
第11回　将来展望・男女のライフスタイル
第12回　まとめ

【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート（２～３回）の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大儲けした場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業計画】

第１回　導入（情報社会と知的財産・契約）
第２回　特許というシステム
第３回　著作権というシステム
第４回　Webへの写真掲載と肖像権
第５回　インターネット上の名誉毀損
第６回　オンラインショッピングと契約法
第７回　オンラインショッピングと契約法
第８回　インターネット犯罪
第９回　著作権ビジネス
第10～12回　その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

大衆文化論

岡本信也

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業計画】

第１回　大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
第２回　モダン都市の文化現象を考える。洋装化しはじめる衣風俗、喫茶店や食堂（デパート）など。
第３回　戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
第４回　映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
第５回　大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
第６～８回　身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
第９回　現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
第10回　続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
第11回　自由討議「市民文化とは何か」
第12～13回　テーマごとに報告（型式は随時）する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【参考文献・資料】

しぐさの日本文化（多田道太郎著　筑摩書房）
戦後日本の大衆文化史（鶴見俊輔著　岩波書店）
超日常観察記（岡本信也・靖子著　情報センター出版局）

文化人類学

稲村哲也

【授業の概要】

人間は無意識のうちに、生れ育った文化によって自己が形成される。世界の民族の生活や価値観の多様性と共通性を知り、文化とは何かを考える。

【授業計画】

この授業では、教授者が設立に携った野外民族博物館や、現地調査を行った様々な民族・社会の事例を取りあげて比較しながら、世界の民族文化の多様性の基底に通じる共通性、規則性、モデルなどを分析する。とくに、生業形態、家族と親族、結婚、宗教と儀礼などを考察する。

１～２：アメリカ先住民：先住民からみたアメリカの歴史、北西海岸インディアン、ナバホ族などの文化
３～４：南米先住民：インカ帝国とスペインによる征服、ケチュア族の文化、日本人のペルーへの移住など
５　：日本の先住民：アイヌの歴史と文化と現状
６～７：遊牧民の文化：モンゴル、アラブの遊牧民の生活と文化など
８～９：身内と他人（家族・親族、婚姻、カーストなど）：中国漢民族の家族と親族、インドの家族とカースト制度
10～11：宗教と儀礼：ネパールの仏教とヒンドゥー教を中心に
12～13：人の一生と通過儀礼：成人式、結婚式、葬式など

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末にリトルワールドを見学して書くレポートによる

【テキスト】

リトルワールド・ガイドブック（野外民族博物館リトルワールド）

【参考文献・資料】

授業時に適宜、配布、紹介する。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1．異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2．異文化交流史における本講義の位置付け
3．前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4．近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5．異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1．出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2．学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際政治論

若松孝司

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

以下の項目について講義を行う。

1）冷戦とは何か
2）パレスチナ・イスラエル問題
3）北朝鮮とはどんな国なのか
4）誰がフセインをつくったか
5）アメリカ合衆国とテロリズム
6）わかりにくいアジア情勢
7）民族紛争

【評価方法】

出席と筆記試験によって成績評価を決定する。詳細は講義のはじめに説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

国際交流論

ブイ チ トルン

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業計画】

1．ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2．国際交流・国際協力活動とは
3．国際交流・国際協力活動の領域
　（1）　海外との交流
　　・　姉妹都市交流
　　・　青少年交流
　　・　文化・芸術交流
　　・　NGOの国際協力活動
　　・　自治体の国際協力活動
　（2）　多文化共生
　　・　自治体と外国籍住民
　　・　NPOと外国籍住民
　（3）　異文化理解
　　・　国際理解セミナー
　　・　JETプログラム
　　・　地球市民教育
4．国際文化交流と草の根交流
5．国際交流・国際協力活動の新課題
　　・　事業評価
　　・　IT戦略

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」
（毛受敏浩編著　明石書店）

初めての外国語１（ドイツ語）

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

（1）自己紹介、他人の紹介の練習
（2）数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
（3）冠詞の用法と表現練習
（4）名詞・人称代名詞の用法と表現練習
（5）動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオやCDを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。このクラスでは、受講生のみなさんは毎回、ペアを組んでもらいます。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価する。

【テキスト】

行ってらっしゃい！（西村祐子/Rudolf Petrik著　朝日出版社）

初めての外国語２（フランス語）

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？イラストや写真が多い教科書の「はじめてのパリ」が首都のパリでの様々な発見への旅先案内人になりながら実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいます。会話とコミュニケーションを中心にフランスの慣習を述べながらすぐ使えるフランス語を楽しく学びます。

【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。
様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Partir pour Paris（はじめてのパリ）（大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著　朝日出版社）

初めての外国語４（スペイン語）

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1．スペイン語とスペイン語圏の世界
2．スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3．挨拶、自己紹介の仕方
4．名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5．形容詞（性数の一致）
6．人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7．数詞と時刻の表現
8．スペイン語の手紙の書き方
9．旅行に役立つスペイン語会話
10．まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史１（日本）

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や・親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業計画】

（1）戸と戸籍と姓
（2）明治民法の成立と日本近代の「家制度」
（3）婚姻の諸形態１＜妻問婚の特徴＞
（4）婚姻の諸形態２＜婿取婚と嫁取婚の成立＞
（5）前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
（6）イエの成立と展開１　貴族社会とイエ
（7）イエの成立と展開２　開発領主とイエ
（8）イエの成立と展開３　主従制と家父長制の展開
（9）東アジア諸国の家族・親族制度と日本

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史２（郷土）

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてヴィデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著　山川出版社）
愛知県の歴史（三鬼清一郎編　山川出版社）
東海・近代へのまなざし（都築亨・大嶋光義編　中部日本教育文化会）

日本と外国の歴史３（東洋）

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業計画】

1．期間計画指示・授業内容の説明
2．歴史学とは何か？：歴史リテラシーを身につけよう
3．現代中国の雰囲気を知ろう
4．アジアを考えるということ：日本においてアジアの歴史を学ぶとは？
5．中国近現代史への眼差し：歴史観の諸相
6．中国の近代：「近代」という時代をどう考えるか？
7．中国の近代と日本：東アジアの近代を日本との関係から考える
8．近代日本の中国観
9．日中戦争を考える：南京事件をめぐる歴史認識の溝
10．「文革」、「改革開放」、「六四」：東西冷戦構造の狭間で
11．「台湾」という問題
12．現代中国と日本：特に歴史認識問題をめぐって
13．21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末レポート（人数によってはテスト）、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業計画】

1　イントロダクション
2　地域社会の歴史と構造１
3　地域社会の歴史と構造２
4　コミュニティの概念
5　コミュニティの組織論
6　地方分権とコミュニティ
7　コミュニティとネットワーキング１
8　コミュニティとネットワーキング２
9　コミュニティ活動と実践例 1
10　コミュニティ活動と実践例２
12　まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

日本と外国の歴史４（西洋）

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心にした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業計画】

1．はじめに－国民国家とは何か
2．近代国民アイデンティティ形成の前段階
（1）「個人」の覚醒：ルネサンス
（2）「他者」の認識：大航海時代
（3）普遍性の否定：宗教改革
3．イギリスの国民国家
（1）イギリス国教会の成立と絶対主義国家
（2）二つの市民革命－「イングランド」から「イギリス」へ
（3）パクス・ブリタニカージェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4．アメリカ合衆国の国民国家
（1）対イギリス独立革命
（2）フロンティア開拓時代の「他者」認識
（3）奴隷制と南北戦争
5．フランスの国民国家
（1）ルイ14世治下における絶対主義の確立
（2）フランス革命とナポレオン
（3）「国民」の創出－「単一にして不可分のフランス」成立
6．ドイツの国民国家
（1）三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
（2）対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
（3）ビスマルクによる「ドイツ」統一
7．おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより綜合的に行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

○国民国家とナショナリズム（谷川稔　山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編　青木書店）
その他講義中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業計画】

1．中国の少数民族の構成
2．儒教、仏教と道教の相異
3．中国の年中行事
4．南北食文化の比較
5．中医学と西洋医学
6．気の文化と気功術
7．飲茶の文化と歴史
8．伝統武術と映画
9．少数民族の音楽
10．少数民族の服装
11．中国人の姓の色々
12．中国の名勝物語
13．中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然　東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇　河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興　河北大学出版社）

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。
“Free, Fair, Global”の３つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。
第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について、「日本経営品質賞基準」を参考に学習します。
（Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。）

【授業計画】

第１講　Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
第２講　企業活動の環境変化
　　Free, Fair、Global－規制緩和と自己責任
第３講　制度変革と企業活動
第４講　企業を取り巻く社会システムの変化
　　環境、労働市場、金融市場の進化とFinancial Literacyなど
第５講　市場（マーケット）について
第６講　企業の組織（その１）
　　ビジネスとは何か?会社とは何か?（その法的要件）
第７講　企業の組織（その２）
　　組織の分解と再編、財務の重要性
第８講　企業のマネジメント
第９講　主要産業の動向
第10講　求められる企業経営：「日本経営品質賞基準」と
　　「Malcolm Baldrige National Quality Program」
第11講　マネジメント：リーダーシップと企業の社会的責任
第12講　市場と顧客本位の経営－企業戦略：人材、プロセス、情報
第13講　総括（テストと評価）

【評価方法】

学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反省させない）

【テキスト】

ビジネスの世界（伊藤義明著　（印刷予定））

【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業計画】

第１回　受講生に、すべての授業で学ぶ内容をまとめた［病気とくすりについて］の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
第２～３回　くすりの基礎知識として、投与法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など２回にわたり解説
第４回　くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
第５～６回　近年発売されたピルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
第７回　頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
第８回　アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
第９回　病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
第10～13回　成人病検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端の医療用医薬品が効くしくみを解説

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介する。

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、こころの病はもはや人ごとではない。なぜ多くの人のこころが病んでいくのだろうか。そもそも”こころ”とは一体何なのだろうか。この授業では、こころに影響を及ぼす様々な要因について、主に心理学モデルや幾つかの事例などをもとに論じながら、こころの健康（メンタルヘルス）について考える。

【授業計画】

1．こころの構造～心理モデル
2．こころの病～歴史・分類・症状
3．こころの発達
4．パーソナリティからこころを考える
5．ストレスのメカニズムとコーピング
6．ライフスタイルと健康
7．病と性格・行動パターン
8．脳とこころ～認知障害から見たこころの風景
9．社会の変化がもたらすこころの問題
10．こころの病を解決するために～心理療法
11．こころの健康を考える～セルフケアを中心に

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。
心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業計画】

概論：第１回　心の病：その歴史
　　第２回　精神症状のとらえ方
　　第３回　精神障害の種類と分類
　　第４回　ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：第５回　青年期、思春期にはじまる統合失調症
　　第６回　感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
　　第７回　ストレスとその反応：神経症と心身症
　　第８回　やまらない、止まらない：薬物依存
　　第９回　眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
　　第10回　大人とは異なる児童・小児の障害
　　第11回　老人と高齢者の病：器質性障害
総論：第12回　病を前にして：治療、面接、カウンセリング
　　第13～14回　心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
　　第15回　期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改定　大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編　岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著　医学書院）
図解雑学　心の病と精神医学（景山任佐著　ナツメ社）

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

第１～４回　現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生活と健康
生活習慣の修正
第５～８回　運動不足とその影響
ウエイトコントロール
運動・スポーツと疾病予防
発汗と水分・栄養補給
疲労とその予防・回復
第９～12回　身体の仕組みと働き
大学生の体格・体力
心と体の変化
運動・スポーツの効果と安全性
運動処方
第13～終了　ライフスタイルと健康
まとめ

【評価方法】

授業内の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜　指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

健康と運動

鶴原香代子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本的技能とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。

第１回　教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、施設・用具について理解する。
・バドミントンの特徴や歴史的ゲームの追体験を行う（VTR）
第２～３回　シャトルに慣れる
・ラケッティング
・ストローク練習（アンダーハンド、サイドハンド、オーバーヘッド）
第４～７回　ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サービスからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、プッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム（シングルス）
第８～11回　フォーメーションと戦術
・サービス（コースを決めて打ち分ける）
・ゲームの進め方（ルールの理解・審判）
・ゲーム（シングルス・ダブルス）の実践
第12～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解と技能の習得（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜　指示する。

スポーツ科学

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしいスポーツ実践の大切さを認識するため、以下の計画で実施する。

第１回　教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
第２回～最終授業
カロリーカウンター（万歩計）を利用して運動量を知り、自己管理の能力を身に着ける。
基本的動作から実践的な練習をすることにより各種スポーツの特性を理解し、技能と知識を身につける。
前半は、主にニュースポーツ（ミニテニス、ソフトバレー、ユニホック、インディンアカ、フライングディスク等）を展開する。
また、ソフトバレーからバレーボールへと発展していくことも考えている。
後半は、卓球を展開する。
１～２．導入、ラケッティング
フォアハンド、バックハンド
３～４．サービスとレシーブ
ゲームの進め方
フォーメーションと戦術
５～最終授業
ゲーム（ダブルス、シングルス、審判）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、学習意欲（30%）、種目理解度（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

現代社会と福祉

見平 隆

【授業の概要】

現代社会において、なぜ「福祉」が必要なのか。当然のように「福祉」ということばが一般化しているが、そもそも「福祉とは何なのか」を考えるとき現代社会のしくみが見えてくる。人々が生活を営むには「福祉」は避けられない問題であるが、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれながら講義する。

【授業計画】

1．現在の生活から社会の現状を知る
2．ライフサイクルと福祉の関わりを考える
3．日本と世界の福祉の歴史をふり返る
4．日本と世界の福祉の現状を知る
5．現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6．これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて１回から数回講義するが、授業についての質問、感想などを適宜出してもらい、授業に反映したい。配布プリントを講義ノートとして使ってもらう。

【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

講義プリントを授業計画にそって配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業計画】

1．ボランティアの思想
2．イギリスのボランティア
3．アメリカのボランティア（1）
4．アメリカのボランティア（2）
5．アメリカのボランティア（3）
6．日本のボランティアの変遷
7．特定非営利活動促進法（NPO法）
8．日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9．日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10．日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11．日本のボランティア活動（4）難民とボランティア
12．日本のボランティア活動（5）開発とボランティア
13．ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物　30%。
期末レポート　70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

○ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編　世界思想社）
○フィランソロピーの思想：NPOとボランティア
（林雄二郎他　日本経済評論社）他

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業計画】

1．視覚障害概要
2．視覚障害者のコミュニケーション方法
3．点字の概要
4．点字演習
5．聴覚障害概要
6．聴覚障害者のコミュニケーション方法
7．手話の概要
8．手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1．スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2．スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3．スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4．スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5．スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6．スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8．スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

第1回　1．生物界の分類
　　2．生物の進化
第2－6回　3．植物と人の関わり
　　1）農耕の始まり
　　2）世界の農耕文化
　　3）日本農耕文化の起源と発展
　　4．人が手を加えた植物一作物
　　1）作物とは?
　　2）世界の作物の起源
第7－8回　5．作物改良の原理と方法
　　1）作物改良の原理
　　（1）メンデルの法則一遺伝学
第9回　　（2）遺伝の物質的基礎
第10回　　2）作物の改良方法
第11−12回　6．バイオテクノロジー
　　1）バイオテクノロジーとは?
　　2）作物の改良とバイオテクノロジー
　　（1）細胞・組織培養
　　（2）遺伝子操作
　　（3）バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
　　（1）倫理
　　（2）安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著　開成出版）

生き物の世界

鹿島英佑　瀬川正夫

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

〔植物コース〕第１回～第７回

都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。

植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要さを学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

〔動物コース〕第８回～第15回

動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、学校での動物飼育管理、人畜共通感染症、野生動物保護、自然環境の保全の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、動物との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

【テキスト】

不要

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業計画】

第１講　序論：自然に学ぶ
第２講　森林破壊：森はいのちの母である
第３講　砂漠化：世界は水を失いつつある
第４講　地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
第５講　大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
第６講　フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
第７講　いのちのしくみ１：細胞レベル
第８講　いのちのしくみ２：個体レベル
第９講　環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
第10講　環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
第11講　生態系のバランス：人の手で壊される自然
第12講　生命の多様性：大量絶滅
第13講　環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

－地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために－

1．宇宙観の変遷
2．宇宙を観測する手段
3．太陽系を探る
4．星の世界
5．銀河から宇宙へ
6．宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

（1）宇宙論のすべて（池内了　新書館）
（2）星と宇宙の物理学読本（並木雅俊　丸善）
（3）見えてきた宇宙の神秘（野本陽代　草思社）
（4）太陽　－その素顔と地球環境との関わり－（ケネス.R.ラング著　渡辺尭・桜井邦朋訳　シュプリンガー・フェアラーク東京）

食品の科学

来住準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

淑徳花子さんは健康に人一倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろう大家族の一員です。一緒に淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回２つの類似した食品を提示し、受講者にその１つを選択してもらいます。なお、テーマによりVTR視聴や簡単な実験を実施します。

1．食情報選択のヒント：リスクvs.ハザード
2．トースト：バターvs.マーガリン　（実験）バターをつくろう
3．水：ミネラルウォーターvs.水道水
4．学生食道：洋食vs.和食　（実験）人造いくらをつくろう
5．ガム：グリーンガムvs.キシリトールガム　（実験）むし歯になり易さ度チェック
6．紅茶飲料：ティオvs.ジャワティ　（実験）お酒の強さ度チェック
7．牛肉：近江牛vs.近江和牛
8．レタス：減農薬vs.低農薬
9．バナナ：フィリピンvs.台湾
10．牛乳：ホモvs.ノンホモ（消費期限vs.賞味期限）
11．機能性食品：健康食品vs.トクホ
12．環境ホルモン：母乳vs.人工乳
13．健康常識クイズ

【評価方法】

出席（20%）、毎回の提出物（60%）、期末レポート（20%）。

学習のフィードバックのため、毎回の提出物には質問などへの回答やコメントを書いて返却します。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

暮らしの化学

永井愼一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学、未来をひらく化学などの分野から数例をあげ、図やイラストを多用しながらこれはなぜ？どうして？という［素朴な疑問］に答える。また、かってマスコミやテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶ。さらに、病院・診療所でうける検査値の見かたと最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介。

文学１（日本）

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

1．文学とは何か
2．明治期の文学
3．坪内逍遥．二葉亭四迷
4．三輪弘忠．巌谷小波
5．大正期の文学
6．小川未明．鈴木三重吉
7．千葉省三．浜田廣介
8．少年詩．童謡．金子みすゞ
9．昭和期の文学
10．佐藤紅緑．江戸川乱歩
11．宮澤賢治
12．新美南吉．坪田謙治
13．平成期の文学
14．創作方法理論
15．試験

【評価方法】

定期試験．レポート．出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著　中日文化　2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学２（中国）

河井昭乃

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業計画】

1．外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2．漢字の特徴
3．中国における「詩」の誕生
4．古詩から近体詩へ
5．近体詩の形式；押韻・平仄・対句
6．代表的作家の作品の鑑賞；李白・杜甫・白居易
7．中国における「歌枕」；西域・長江流域・長安洛陽

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

文学３（欧米）

隈井清臣

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

第１回　受講に関するガイダンスと参考書目紹介
第２回　欧米の文学の特長について
第３～６回　小説について
第７～８回　詩について
第９～11回　劇について
第12回　散文について
第13回　結びと推薦書目紹介

【評価方法】

作品を読んで提出するリポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

現代英米文学作品解説（稲村松雄著　北星堂書店）
英米文学の名作を知る本（渡辺恵子編　研究社）
現代の英米作家100人（木内徹他編著　鷹書房弓プレス）

現代の芸術１（書道）

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術２（音楽）

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

第１回　名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
第２回　声の出るしくみを知る
第３回　腹式呼吸と身体のつかい方の練習
第４回　ビデオ鑑賞
第５回　発声練習と歌唱
第６回　ビデオ鑑賞
第７・８回　ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
第９～12回　各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術３（美術）

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業計画】

前半

キュビスム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として（樹脂パテ）等を各自が購入する。

【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術４（映画）

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業計画】

ミュージカル映画の楽しさを味わおう。たとえばミュージカル映画の代表的傑作『雨に唄えば』は、映画の歴史の教科書のような側面をもっている。映画の歴史がはじまって現在は約110年だが、大きなヤマは二つあった。一つは映画が「音」を持ったことで、サイレントからトーキーの出現である。二つは「色」を持ったことであり、白黒からカラーになったことである。『雨に唄えば』はミュージカルの歌と踊りに酔いながら、同時に1927年のトーキー出現という映画技術の決定的革新についても教えてくれる映画である。

参考上映する作品として検討中のもの

＊『ウエスト・サイド物語』
＊『ロミオとジュリエット』
＊『キス・ミー・ケイト』
＊『雨に唄えば』
＊『パリの恋人』
＊『掠奪された七人の花嫁』
＊『トップ・ハット』
＊『ブラス!』
＊『ザッツ・エンタテインメント』
＊『コーラスライン』その他

木曜日昼食時に「映画雑談会」を有志で実施する。

【評価方法】

＊学期末のテスト　＊随時提出のレポート　＊出席　＊テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。４年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

現代の芸術４（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】
映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業計画】
授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。
課題：「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする：
1）「駅馬車」（STAGECOACH, 1939年作品、監督：John Ford）
2）［マルタの鷹］（MALTESE FALCON, 1941年作品、監督：John Huston）
3）「市民ケーン」（CITIZEN KANE, 1941年作品、監督：Orson Welles）
4）「第三の男」（THE THIRD MAN, 1949年作品、監督：Carol Reed）

現代の芸術４（映画）の学期末評価は３つの宿題に基づく（学期末試験はなし）：
宿題１：「マルタの鷹」の対極的分析の図（文章化する必要はない）
宿題２：「市民ケーン」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）
宿題３：「第三の男」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）：この三つ目の宿題は学期末試験として扱われる

＊今学期学ぶこと：
1）映画分析ための技術：
　a．セグメンテーション（SEGMENTATION＝映画を見ながら、ノーツの取り方）
　b．対極的分析法（映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること）
2）典型的なハリウッド映画（1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターⅢ」等にいたるまで）のスタイルとストーリーの語り方：
　a．「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
　b．FABULA（ファビュラ）＝観客が頭の中で作る“映画のストーリーの世界”対SUZHET（シュージェット、つまり”プロット”）＝画面から与えられた（“映画のストーリーの世界”を作るための"材料“やヒント
　c．ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
　d．ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
3）ハリウッド映画におけるGENRE（ジャンル）の役割

【評価方法】
出席と宿題によって、評価される

【テキスト】
テキストはありません。教材は適時配布します。

伝統芸能

安田文吉

【授業の概要】
日本の伝統芸能である歌舞伎を中心に、能・狂言・人形浄瑠璃（文楽）も併せて、その歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどによる鑑賞と研究も行う。

【授業計画】
1．芸能とは
2．芸能の発生
3．民俗芸能・伝統芸能
4．歌舞伎の成立　Ⅰ
5．歌舞伎の成立　Ⅱ
6．歌舞伎の女方
7．歌舞伎の荒事
8．歌舞伎の和事
9．歌舞伎の舞台
10．地芝居の楽しみ
11．能・狂言
12．人形浄瑠璃（文楽）
13．日本伝統芸能の特色と意味

猶、御園座十月の「十八代目中村勘三郎襲名披露吉例顔見世」興行、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演（十二月）などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】
レポート

【テキスト】
歌舞伎入門（おうふう）
歌舞伎のたのしみ（北白川書房）

【参考文献・資料】
その都度紹介する

現代の芸術５（演劇）

海上宏美

【授業の概要】
現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業計画】
1．現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2．身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3．戯曲＝テクストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲＝テクストの位置の変遷を概説する。
4．演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5．演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】
レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

【テキスト】
テキストは使用しない。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

現代マナー論

犬飼詠映

【授業の概要】
人間関係の円滑や親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
　　マナーとは
第２回　第一印象の重要性
第３回　好印象の鍵を握る５つのポイント
第４回　効果的表現方法（1）
第５回　敬語と言葉遣い
第６回　気持ちが伝わる会話術
第７回　電話応対
第８回　訪問と来客応対
第９回　文書のマナー
第10回　慶弔マナー
第11回　効果的表現方法（2）
第12回　セルフプロデュース

【評価方法】
出席状況、受講態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業中にその都度指示する。

現代マナー論

市原江美

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

1．マナーとは
2．第一印象の重要性
3．人と接するときの５つのポイント
4．コミュニケーションマナー１（電話応対のマナー）
5．コミュニケーションマナー２（来客応対のマナー）
6．コミュニケーションマナー３（訪問のマナー）
7．コミュニケーションマナー４（慶弔マナー）
8．コミュニケーションマナー５（文書のマナー）
9．効果的なコミュニケーション
10．自己理解と他者理解

【評価方法】

出席状況、受講態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

佐々木紀子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

1．社会におけるマナーとは
2．社会人と学生の違い
3．第一印象の重要性
4．基本をしっかり押さえる
（1）挨拶と返事
（2）表情
（3）態度
（4）身だしなみ
（5）言葉づかいと話し方
5．応用力をつける
（1）電話応対
（2）訪問と来客応対

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。
詳しくは第１講で説明するので、必ず出席すること。

【テキスト】

授業中に指示する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業計画】

第１回　人は言葉の織物である。（伝達と表現１）
第２回　現代の口語表現について。（伝達と表現２）
第３回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、形容修辞法など具体的に講義。
この間に
課題を３回提出し、短文（２～３枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、３回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊指示します。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業計画】

1．どこからどこまでがメディアなのか
2．「編集」がもつ創造力
3．「伝える」と変化する
4．人を動かす力
5．自分との対話
6．「コンセプト」の功罪
7．共感する/させる
8．心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

生涯学習論

五島敦子

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性と重要さが強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業計画】

1　生涯学習の理念
2　発達段階と発達課題
3　高齢期の課題と学習支援
4　職業人の学習機会
5　ボランティアとNPO
6　大学開放の進展
7　男女共同参画社会に向けた学習支援
8　生涯学習政策の動向と課題

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著　有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著　ミネルヴァ書房）

一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

1．ガイダンス、心理学とは
2．無意識の世界,1
3．無意識の世界,2
4．ストレスとタイプA性格
5．錯視の不思議
6．学習,1
7．学習,2
8．パーソナリティ,1
9．パーソナリティ,2
10．対人関係,1
11．対人関係,2
12．集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

a．知覚と感覚
b．ノンバーバルコミュニケーション
c．愛着
d．アイデンティティ
e．学習と記憶
f．忘却と変容
g．防衛機制と無意識
h．心理療法
i．心理テスト
j．個人・社会・環境

以上について、それぞれ１～２回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

1．国内政治と国際政治
　a　国際社会とは?
　b　国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
　c　トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
　d　イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2．古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
　a　市民社会と大衆社会
　b　立法国家と行政国家
3．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
　d　議会制デモクラシー
4．戦後国際社会と日本の政治
　a　冷戦構造と55年体制
　b　利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著　岩波ブックレットNo.564）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業計画】

1．経済のしくみの全体像
　マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2．日本の経済と景気
　日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3．個人のくらしと経済
　個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4．企業の経済活動
　企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5．政府の経済活動
　財政のしくみと役割り、わが国の財政事情と財政政策、など。
6．金融のしくみと経済
　お金と金融機関の役割り、中央銀行の役割りと金融政策、金融のビッグバン、など。
7．日本と世界の経済
　経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割り、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

（1）入門の入門　経済のしくみ（大和総研著　日本実業出版社）
（2）入門　経済学（伊藤元重著　日本評論社）

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

1　確率
2　統計、偏差値
3　ベクトル
4　微分
5　積分
6　物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生物学

多田萬里子

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

【授業計画】

1．生物の歴史
2．生物の多様性
3．生命の単位
　生体を構成する物質
　細胞の構造と機能
4．代謝：生命維持のエネルギー
5．からだのなかの情報系
6．恒常性の維持：ホメオスタシス
7．個体の発生、生殖と分化
8．遺伝情報の伝達　遺伝子の働き
9．生体防御機構　血液のはたらき
10．生命を操作する技術
　遺伝子組み換え食品、クローン動物
11．生物と環境

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

特に定めない
講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

受講者の理解度をもとに、適宜紹介する。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

1　はじめに
2　運動と力、力学的エネルギー
3　振動と波動、光と電磁波
4　もののかたち、圧力、強さ
5　流れ、層流と乱流、カオス
6　熱とエネルギー、熱機関
7　電気と磁気
8　相対性理論
9　量子力学、粒子性と波動性
10　素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クオーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三　日本実業出版社）

統計学

下木戸隆司

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業計画】

・データの性質と基礎統計量
　連続量と離散量、平均、分散、度数分布表、相関
・確率変数と確率分布
　確率、正規分布、二項分布、ポワソン分布
・母集団と標本
　無作為抽出、不偏推定値、中心極限定理
・統計的推測
　点推定、区間推定、大数の法則
・統計的検定の考え方
　仮説検定、棄却域、過誤確率
・統計的検定の実例
　t検定、分散分析、カイ二乗検定

授業は基本的に上記の順で行うが、受講者の理解や関心にあわせて内容が変化することもある。

【評価方法】

定期試験の他、課題レポートが課されることもある。成績はこれらの結果から総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。

【参考文献・資料】

随時授業で紹介を行う。

英語コミュニケーション1（TOEIC Ⅰ）

山田久美子　DYCUS, David C.　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4．Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2（Listening Ⅰ）

横関美津紀　SUTHONS, Philip　他

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．ディクテーション
4．シャドーイング
5．短文・長文の暗唱
6．ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3（Listening Ⅱ）

石橋千鶴子　SUTHONS, Philip　他

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4．ディクテーション
5．シャドーイング
6．短文・長文の暗唱
7．ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4（Reading Ⅰ）

福本明子　STEPHENSON, Brett　他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1．社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5（TOEIC Ⅱ）

太田晶子　DYCUS, David C.　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6（Oral Communication Ⅰ）

WILLIAMS, Allen D.　他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7（Oral Communication Ⅱ）

HARRIS, Richard S.　他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8（Reading Ⅱ）

隈井清臣　CURRAN, Beverley　他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1．長文の大意把握
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC Ⅰ G

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）

・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）

・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）

・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅰ H

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）

・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）

・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）

・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ G

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）

・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）

・演習（リスニング・Reading）（30分）

・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ H

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）

・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）

・演習（リスニング・Reading）（30分）

・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2005 A

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、１回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日５限（担当教員：難波豊子）、木曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2005 B

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、１回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日５限（担当教員：難波豊子）、木曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

中国語読解１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　人称代名詞・“是”
第六課　指示代名詞・数詞・量詞
第七課　形容詞と形容詞述語文
第八課　動詞述語文
第九課　“有”・年月日
第十課　場所・時間・数量
第十一課　前置詞（介詞）・“了”
第十二課　能願動詞

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解１Ｂ（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．今天星期几？　曜日と疑問詞利用の疑問文
3．我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4．我学习中文专业。能願動詞“能”
5．現在幾点？　時間表現、語気助詞“了”
6．我的家庭。介詞“在”
7．谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8．邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9．中間テスト
10．我的大学。伝聞の表現
11．找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12．喜欢什么？　過去の経験表現「V+“过”」
　　結果や程度表現「V+“得”」
13．帮我。能願動詞“会”
14．暇期做什么？　結果補語“好”
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースＡ　※聴解中心

河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の２級か３級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“了”や“过”の使い方など
2．“时点”の言い方や“时段”の言い方など
3．“小时”や“钟头”の使い方など
4．“方位词表”について
5．“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6．“该”や“应该”の使い方など
7．介词の“朝”、“向”と“往”の使い方
8．比較表現について
9．“是字句”について
10．“愿意”や“想”の使い方など
11．“趋向补语”について
12．“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
　　授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースＢ　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK基礎コースＡ>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK基礎コースＡ>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“我”と“你”；“左右”と“前后”など
2．“是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3．“了”；“形容词谓语句”など
4．“动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5．“数量补语”；“头”と“面”など
6．“有字句”；结构助词“地”など
7．“量词的重叠”；“把字句”など
8．“从”と“离”；“一边～一边～”など
9．“都”と“一共”；“程度补语”など
10．“被字句”；“在・正・正在”など
11．“趋向补语”；“多么”など
12．“复合趋向补语”；“是～还是～”など
　　授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解３

大森信徳　河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには＜HSK初等コースA＞か、＜HSK初等コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話３＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．应该感谢谁。
3．一件小事。
4．生日宴会。
5．中国人的问候语。
6．在中国过春节。
7．修自行车的张师傅。
8．自行车上的宝宝座儿。
9．雨披。
10．服装与色彩。
11．逛商场。
12．一个特别的“村”
13．学汉语趣事。
14．まとめ
15．復習・テスト

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学のための中国語読解３（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

中国語会話３

曹 志偉

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

【授業計画】

中国語会話２を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話３（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA　※聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の４級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK初等コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

大森信徳　河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等上級コースA＞か、＜HSK中等上級コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話４＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2．連動文の構成。主語+動詞フレーズ１+動詞フレーズ２。
3．動詞の繰り返しの構造。AA式：说说;A-A式：说一说等等。
4．挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5．構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6．名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7．「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8．疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9．副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10．方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11．語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12．形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13．比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14．特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解４（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

HSK 中等上級コースA　※聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の５級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HKS中等上級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

曹 志偉

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

【授業計画】

中国語会話３を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話４（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等上級コースA＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

中国語作文１

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース１Ａ　※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース１Ｂ　※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース１Ａ＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース１Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門１

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

中国語作文２

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース２Ａ　※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース２Ｂ　※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門２

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等高級コース２Ａ＞か、＜HSK中等高級コース２Ｂ＞と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには＜中国語作文２＞と並行した履修が望ましい。

韓国語能力試験対策 1

キム ソヨン

【授業の概要】
韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】
ねらいの試験で要求される1,000語程度の基本語彙とその語彙量に相当する120項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音と表記、文法、助詞、読解と表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの練習も平行する。

第１回　授業の概要説明、前期の復習
　　完全制覇５級・挨拶言葉１
第２回　挨拶言葉２、ハングルのカタカナ表記
第３回　日本語のハングル表記、基本語彙と文法１
第４回　基本語彙と文法２、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第５回　漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第６回　韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第７回　完全制覇４級・基本語彙と文法１
第８回　基本語彙と文法２・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第９回　基本語彙と文法３・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回　基本語彙と文法４・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回　韓国語の発音、応用問題１
第12回　応用問題２
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験５級・４級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

尹 大辰

【授業の概要】
韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】
ねらいの試験で要求される1,500から3,000語程度の活用語彙とその語彙量に相当する180～250項目ほどの文法力を着実に身につけるために、基礎表現、発音、読解と活用表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業の概要説明、３級完全制覇１・基本語彙と文法２
第２回　基本語彙と文法２、韓国語文の日本語文訳
第３回　各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
第４回　尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
第５回　各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
第６回　試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
第９回　各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
第10回　直接話法と間接話法１
第11回　直接話法と間接話法２
第12回　直接話法と間接話法３、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験３級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

尹 大辰

【授業の概要】
韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】
ねらいの試験で要求される3,000から4,000語程度の活用語彙とその語彙量に相当する240～300項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業の概要説明、各種発音ルール
第２回　受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
第３回　読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
第４回　各種活用表現１
第５回　各種活用表現２、注意すべき用言とその用例１
第６回　注意すべき用言とその用例１、慣用表現、まとめ、中間テスト
第７回　模擬試験１、解答と解説
第８回　模擬試験２、解答と解説
第９回　模擬試験３、解答と解説
第10回　聞き取り・書き取り模擬試験１、解答と解説
第11回　聞き取り・書き取り模擬試験２、解答と解説
第12回　聞き取り・書き取り模擬試験３、解答と解説
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
ハングル能力検定試験準２級合格をめざして（李昌烈　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

情報技術基礎 I

西荒井学　他

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

【授業計画】

1．コンピュータの歴史、原理
2．情報の表現（2進数、16進数）
3．ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4．情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5．情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6．情報収集と分析
7．情報ツールとマナー
8．インターネット基本操作1（電子メール）　実習
9．インターネット基本操作2（WWW）　実習
10．EXCEL基本操作1　実習
11．EXCEL基本操作2　実習
12．EXCEL基本操作3　実習
13．EXCEL基本操作4　実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎I（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

情報技術基礎II

西荒井学　他

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業計画】

1．Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）　実習
2．Windows基本操作2　実習
3．WORD基本操作1　実習
4．WORD基本操作2　実習
5．WORD基本操作3　実習
6．WORD基本操作4　実習
7．プレゼンテーションの概要
8．POWERPOINT基本操作1　実習
9．POWERPOINT基本操作2　実習
10．POWERPOINT基本操作3　実習
11．総合課題（プレゼンテーション資料作成1）　実習
12．総合課題（プレゼンテーション資料作成2）　実習
13．情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Iと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎II（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

情報技術基礎III

上原 衛　他

【授業の概要】

情報技術基礎I、情報技術基礎IIを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

【授業計画】

1．デスクトップの高度操作
2．ファイルの高度操作
3．ネットワークの操作
4．学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5．ビジネス情報処理（EXCEL）
6．マクロ操作（1）
7．マクロ操作（2）
8．ACCESSの概要
9．ACCESSの基本操作（1）
10．ACCESSの基本操作（2）
11．ACCESS総合演習（1）
12．ACCESS総合演習（2）
13．まとめ

【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。なお、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎I」と「情報技術基礎II」で習得した知識、技術が必要となる。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著.近代科学社）

ネットワーク技術入門

三和義秀　他

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業計画】

1．ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2．ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3．ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4．ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5．ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6．HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7．HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8．HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9．CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10．CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11．CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12．CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13．セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎I」、「情報技術基礎II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ（三和義秀著　共立出版）

プログラミング入門

三和義秀　他

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASICまたはC言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

【授業計画】

1．システム開発におけるプログラミング
2．プログラミング言語の概要
3．プログラミングの基礎、手順
4．アルゴリズムとフローチャート
5．データ構造とデータ型
6．順次構造
7．選択構造
8．繰り返し構造（1）
9．繰り返し構造（2）
10．配列の操作
11．関数の利用
12．事務計算
13．技術計算

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。またコンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクまたはMOが必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指定する

CG 入門

川澄未来子　他

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス（CG）を含むディジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、ディジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス1：基礎編
6. コンピュータグラフィックス2：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

『ビジュアル情報表現』－ディジタル映像表現・Webデザイン入門－（CG－ARTS協会）

情報数学入門

親松和浩　他

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1．命題と制御処理
2．集合と写像
3．データの表現法と2進法
4．情報量/計算量の評価
5．三角関数
6．2次元ベクトル
7．2次元図形の表現法
8．行列
9．2次元図形の変換
10．3次元ベクトル
11．3次元図形の表現法
12．3次元図形の変換

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

人工知能入門

高橋信明　他

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業計画】

1．人工知能の基本原理と考え方
2．知識と知識表現
3．述語論理と導出原理
4．問題解決
5．探索法とアルゴリズム
6．プロダクションシステム
7．意味ネットワーク
8．推論
9．自然言語処理
10．人工知能用言語
11．エキスパートシステム
12．ニューラルネットワーク
13．人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

1）情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
2）上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
3）プログラミングに必要な論理的思考能力
4）プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

ステップ1　コンピュータ科学基礎
ステップ2　データベース技術
ステップ3　コンピュータシステムの開発と運用
ステップ4　ネットワーク技術
ステップ5　情報と経営
ステップ6　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

1）ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
2）内部設計書・プログラム設計書の作成能力
3）プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
4）ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
5）プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

ステップ1　コンピュータ科学基礎上級
ステップ2　コンピュータシステム上級
ステップ3　システムの開発と運用
ステップ4　ネットワーク技術
ステップ5　データベース技術
ステップ6　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解読することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1．CG概論、CG検定試験2級対策
2．各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
3．VisualC++によるGUIプログラミング
4．VisualC++によるインターフェースの設計
5．平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
6．平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
7．平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
8．平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
9．平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
10．平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
11．演習
12．まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編　CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版　CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

○入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
○基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥　CQ出版社）

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1．CG検定試験1級の概要と対策
2．VisualC++によるGUIプログラミング
3．平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4．平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5．平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6．平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7．平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
8．平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
9．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編　CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版　CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

○コンピュータグラフィックス理論と実践
（J.D.Foley、A.v.Dam、S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
○基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥　CQ出版社）

実用日本語演習Ⅰ（生活実用文）

大西和美　人見恭司　日比野浩信　矢頭 純

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第１回に先立ち、テキストの「語彙〈ことばの読み書き〉」を、各自自習しておくこと。

第１～４回　敬語
第５～６回　手紙文
第７～９回　文の書き方
第10～11回　自己表現
第12回　小論文

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、最終レポートなどによる。

【テキスト】

実践国語表現（市川毅他　おうふう）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

加藤良徳

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２～５回　テキストを利用して、正確で分かりやすい文を書く基礎練習を行う。
第６～９回　テキストを利用して、場面・用途別の文書作成の練習を行う。
第10～12回　個別の課題により、文書作成を行う。
ロールプレイング形式を取り入れる。
※第２～12回では、毎回、言葉の知識についての小テストを行う。

【評価方法】

小テストの平均点、授業態度、第10～12回の課題の達成度、期末試験を総合して評価する。

【テキスト】

書き込み式　日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会　三弥井書店）

【参考文献・資料】

各自、国語辞典を用意すること。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

桑本いづみ

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1. はじめに/ビジネス文書とは
2. 正確でわかりやすい文章を書くには
3. 礼儀正しい文章を書くには
4. ビジネス文書の書式と構成要素
5. 社内文書の作成―通知文・通達文
6. 社内文書の作成―依頼文・案内文
7. 社内文書の作成―報告書・議事録
8. 社外文書の作成―取引文書（通知状・注文状）
9. 社外文書の作成―取引文書（依頼状・照会状）
10. 社外文書の作成―社交文書（案内状・招待状）
11. 社外文書の作成―社交文書（礼状・祝い状）
12. 一般の文書、はがき、封筒の書き方
13. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務（石井典子・三村善美著　早稲田教育出版）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

下村養子

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第１講　はじめに/郵便の知識と文書の取扱い
第２講　用字・用語の使い分けと敬語表現
第３講　ビジネス文書の書式と文章のまとめ方
第４講　社内文書の作成－連絡文書（通知状）
第５講　社内文書の作成－連絡文書（通知状）
第６講　社外文書の作成－社交文書（案内・招待状）
第７講　社外文書の作成－社交文書（案内・招待状）
第８講　社外文書の作成－取引文書（依頼状）
第９講　社外文書の作成－取引文書（照会状）
第10講　社外文書の作成－社交文書（礼状・挨拶状）
第11講　社外文書の作成－はがき
第12講　官公庁報告書/FAXと電子メール/帳票化
第13講　単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配付。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

高宮貴代美

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1．はじめに/ビジネス文書とは
2．ビジネス文書の基礎知識
3．社内文書の書き方
4．社内文書の作成－案内文・通知文
5．社内文書の作成－報告書・議事録
6．社外文書の書き方
7．敬語表現
8．社外文書の作成－取引文書（案内状・依頼状）
9．社外文書の作成－社交文書（祝い状・礼状）
10．社外文書の作成－社交文書（見舞状）
11．一般の文書
12．はがき・封筒の書き方
13．単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務（石井典子・三村善美著　早稲田教育出版）

実用筆記演習Ⅰ（速記）

田辺則男

【授業の概要】

速記方式という実用的な記号の体系の基礎を演習形式で学び、日常生活において速記を応用する技術を身につける。

【授業計画】

1．速記法の成り立ちと役割
　『速記の知識』日本速記120年記念会発行・社団法人日本速記協会
2．速記文字の演習『１巻～２巻』
3．速記文字と国語表記
4．言葉の聴き取り能力と国語表記能力の養成
5．速記の目的と学習計画の指示
6．テキストによる速記文字の習得と演習
7．速記実務における国語能力（言葉の聴取能力）
8．速記実務における専門知識（言葉の理解能力）
9．速記実務における国語表記（話し言葉から読む言語へ）
10．新聞記事『主に社説』の書き取りと要約（NIE）

【評価方法】

1．出席状況及び受講態度による評価
2．平常点及び授業内容の理解度、課題点による評価
3．速記技術の習得度及び国語表記能力による評価

【テキスト】

速記テキスト１巻～５巻（日本速記研究所刊）

【参考文献・資料】

速記の知識（(社) 日本速記協会内・日本速記120年会発行）
国語表記能力シート　適宜授業中に配布する

実用筆記演習Ⅱ（習字）

青木順子

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

毛筆と硬筆を使い、学校で教えるひらがな・カタカナ・漢字の書き方を学ぶとともに、一般的社会で必要とされる実用書写の知識を習得する。従って、講義と実技を並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。こくご10マスノート・書道用具一式が必要。

1．用具説明　参考資料の説明
　文字を書く　言葉を書く　字形・字体・書体
2．墨をする　姿勢と筆の持ち方
　名前を書く　活字と手書き文字
3．漢字を書く（1）筆順と漢字の部首名
4．漢字を書く（2）基本点画
　とめ　はね　はらい　おれ　まがり　そり
5．漢字を書く（3）字形　点画の長短・方向など
6．漢字を書く（4）中心線　文字の大小　字配り
7．カタカナを書く
8．ひらがなを書く（1）まがり　折り返し　結び
9．ひらがなを書く（2）字形
10．漢字かな交じりの言葉を書く（1）
11．漢字かな交じりの言葉を書く（2）
12．まとめと提出

【評価方法】

出席状況、毎時間の提出物、実技作品、受講態度などにより総合評価する。

【テキスト】

書写指導　中学校編（萱原書房）
ペン字のレッスン１　入門編（二玄社）

【参考文献・資料】

硬筆字典（二玄社）
文字の書き方字典（木耳社）

《その他》
書写検定試験（１級・２級）を受験し、実力をためす。

実用筆記演習Ⅱ（習字）

福島千家

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

第１回　年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。
第２回～10回
　書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。
第11回～最終回
　応用問題を出して各自に表現をさせ実力を身につけさせる。又手紙文の練習も実施させる。

【評価方法】

授業態度平常点・課題・出席状況

【テキスト】

ペン字テキスト、基本編・ペン字三体（氏田菖軒著　書道教育社）

実用筆記演習Ⅲ（書道）

青木順子

【授業の概要】
行書体、草書体、隷書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】
書の歴史・文化・理論などを学びながら技術技法ならびに芸術的な感性を習得する。従って、講義と実技を並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。書道用具一式が必要。

1．芸術としての書　日常生活の中の書
　書道用具（文房四宝）参考資料の説明
2．文字の成り立ち　書体・書風
　書の古典　中国の書と日本の書
　書道用具の使い方　姿勢・執筆　基本点画
　墨をする　名前を書く　篆書を書く
3．画仙紙に書く　書線の性質　隷書を書く
　用墨法　用筆法・運筆法　技法と裏ワザ
4．字形を整える　筆順　行書・草書を書く
　構成法　字配り　墨づき　余白の美
5．書の創作と表現（1）集字する　一字書
6．書の創作と表現（2）題材を選ぶ　漢字かな交じり
7．書の創作と表現（3）構想を練る　形式を決める　四字熟語を書く
8．書の創作と表現（4）草稿作り　五文字の言葉を書く
9．書の創作と表現（5）表現の工夫　推敲する
10．書の創作と表現（6）卒意の書
11．書の創作と表現（7）書き込む　清書する
12．書の鑑賞　作品の発表と評価　まとめ提出

【評価方法】
出席状況、毎時間の提出物、実技作品、受講態度などにより総合評価する。

【テキスト】
書法の美（二玄社）

【参考文献・資料】
新書道字典（二玄社）、五体字類（西東書房）、書道字典（角川書店）
書体小字典（東京堂出版）などの書道専門の字典類
その他、各種法帖、書道字典、墨場辞典などの資料

実用筆記演習Ⅲ（書道）

福島千家

【授業の概要】
行書体、草書体、隷書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】
書道用具一式が必要。
第１回　年間の授業計画として使用する教本の説明をする。
第２回～10回
　書写の重要なポイントの説明をしながら実技をし、一人一人について添削指導をする。
第11回～最終回
　練習をした字句を使用して必要な熟語を構成して簡単な文章又は手紙文の練習をする。又篆書体によって自分の印鑑を読める様にする。

【評価方法】
出席状況・平常点・課題とによる。

ディベート入門

渡辺真澄

【授業の概要】
討論・議論における効果的な論理の展開や修辞法、相手の論理や趣旨の理解や検証の方法等を演習形式で学ぶ。

【授業計画】
ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業ではディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

第１回　ディベートの概要
第２回　スピーチ実践（1）：ラベリング・ナンバリング
第３回　スピーチのレトリック
第４回　スピーチ実践（2）：テーマスピーチ
第５回　ディベートの論理的推論
第６回　ディベート論題決定のブレインストーミング
第７回　プレゼンテーション実践：グループ発表
第８回　グループリサーチ
第９回　立論の作成と反駁の準備
第10回　ディベート実践（1）：ディベートの試合
第11回　ディベート実践（2）：ディベートの試合
第12回　論題研究（積極的安楽死）
第13回　ディベート実践（3）：ディベートの試合
第14回　ディベート実践（4）：ディベートの試合
第15回　まとめ

"There are only two parts to a speech：
You make a statement and you prove it."
(ARISTOTLE, RHETORIC.)

【評価方法】
出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。

【参考文献・資料】
頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　講談社）

英会話入門

EMORI, Kathleen E.

【Course Content】
基礎的なリスニングおよびスピーキング能力を身につけるための入門講座である。ネイティブスピーカが担当し、スペシャルターム（土曜日）に２限連続で開講することにより、短期間で集中的に、英語コミュニケーション能力の育成を目指す。抽選により受講者を選定し、少人数クラスを編成し、演習形式で学ぶ。

【Schedule】
（4月＆6月）：
Introducing self & others; talking about interests
Conversation initiation & closing strategies; talking about schedule & plans
Developing description skills; talking about preferences & recommendations
Listening for contextual meaning; talking about past experiences

（5月＆7月）：
Illustrating examples & supporting ideas; agreeing & disagreeing
Comparing & contrasting ideas; culture, social, & pop culture issues
Asking for & giving advice; talking about the future
Expression of creative & abstract ideas; group presentation

【Assessment】
Attitude, participation, homework

【Textbooks】
No text required.

【Reference】
To be supplied by the instructor as needed

英会話入門

PICCOLO, Anthony P.

【Course Content】

基礎的なリスニングおよびスピーキング能力を身につけるための入門講座である。ネイティブスピーカが担当し、スペシャルターム（土曜日）に2限連続で開講することにより、短期間で集中的に、英語コミュニケーション能力の育成を目指す。抽選により受講者を選定し、少人数クラスを編成し、演習形式で学ぶ。

【Schedule】

The class will focus on helping students improve their accuracy, fluency, and confidence in speaking English. During the term we will concentrate on the following topics: Family, Work, Restaurants, Movies, Foreign Countries.

Class time will be spent in pair work, small group discussions, and individual presentations.

【Assessment】

Attendance and participation = 50%
Individual presentations = 50%

【Textbooks】

Materials will be provided by the instructor.

【Reference】

None

ライティングⅠ

CURRAN, Beverley

【Course Content】

In this class, students will learn to organize short essays and express their thoughts with clarity and creativity. There will also be attention paid to gathering information from the Internet and then integrating it accurately into an original paper.

【Schedule】

In order to write engaging essays, it is important for students to be interested in the topic, so from the start of this course, students will be encouraged to choose their own topics. There will be two or three projects, depending on individual student's writing pace and process, that will allow students to attempt fiction as well as engage in research.

【Assessment】

Students will be evaluated on their participation, effort, and their writing projects.

【Textbooks】

No text required.

ライティングⅠ

TOFF, Mika

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

・Writing and revising papers on a variety of topics
・Using the computer to write
・Writing and sending e-mail

Students will be encouraged to think about their audience and to make their writing interesting for people to read, and at the same time to increase their vocabulary and knowledge of expressions through reading and through the use of dictionaries.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

No textbook required.

ライティングⅠ

DOIRON, Heather

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

Students will continue to improve their English writing skills on the computer by writing a story about themselves; describing their favourite thing; reviewing a movie; and doing a short Internet research project.

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. There will be no final test.

ライティングII

TOFF, Mika

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

・Writing and revising papers on a variety of topics
・Using the computer to practise basic desktop publishing
・Writing and sending e-mail.

This semester will offer practice so that students can refine their writing skills and take more responsibility in choosing a topic and developing the content.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

To be announced later.

ライティングII

DOIRON, Heather

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

In this course students will use computers to write in English about themselves, and express opinions and ideas. Students will work individually with the guidance of the instructor to improve their language skills. Special attention will be paid to organization and editing to make content more interesting.

Lesson 1 : Basic punctuation.
Lesson 2 : Self-Introductions
Lesson 3 : Self-Introductions
Lesson 4 : organizing information (journals)
Lesson 5 : organizing information (journals)
Lesson 6 & 7 : Internet research project
Lesson 9 : Organizing Internet information
Lesson 9 & 10 Writing
Lesson 11 & 12: Editing & Revision

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. No final test.

時事英語

中村幸子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

ニュース報道のビデオを通して最近の国際社会の諸問題を理解し、実用的な英語力を身に付ける。

第1回　マスメディア英語概論
第2回～13回　Unit毎の演習
第14回　復習
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業態度、提出課題、小テストを5割、単位認定試験の結果を5割として総合的に評価する。

【テキスト】

衛星放送で学ぶ英語2005年版　NewsWatch 4（金星堂）

【参考文献・資料】

授業中に指示。

時事英語

難波豊子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

第1回　ニュース英語の特徴
　1．新聞記事及び放送ニュース、雑誌等の構成
　2．タイトルのつけ方
　3．内容を理解する上での注意点
第2回～5回　第1回の特徴を念頭に置いて、一般的な記事の読解
第6回～8回　文化・科学面
第9回～12回　政治・経済面

但しup-to-dateな記事を取り扱うため、上記区分の変更は有りうる。時々、日英の記事を対照させながら、語彙、表現、背景知識などの強化に努めると同時に、徹底的な読み込みをしてもらう。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語発音トレーニング

中郷 慶

【授業の概要】

日本人が英語を話したり読んだりするときに誤りやすいリズム、イントネーション、発音の問題などに留意し、学生のレベルに合わせながら、演習形式で英語の発音訓練を行う。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴は何かという理論を解説するとともに、それが実践できるようなさまざまな訓練を行う。学習者はそれぞれ、さまざまな発音上の問題を抱えているが、その中には日本人（日本語母語話者）に広く共通する間違いや、思いこみも観察される。例えば、[v] と [b]、see（sea）とsheを正しく発音し分けたり、聞き分けたりすることは、多くの日本人が不得手とする。[v] は上の歯で下唇を噛むとか、[r] は舌を巻いて発音するなども、典型的な思い込みである。そのような理解のどこがどのように間違っているかを考えることも、この授業の大きなテーマのひとつである。

この授業では、映画・ドラマ・歌などを題材としながら、次のような項目を扱う：

1．英語と日本語の発音の違いと特徴
2．英語のリズムとイントネーション
3．日本人（日本語母語話者）が不得手とする発音

授業では、自信を持って発音できるようになるための指導を行うが、発音する力を上達させるためには、週に１回の授業に出席していればよいというものではない。音に対する不断の意識（awareness）とねばり強い実践（practice）が必要となる。課された課題は必ずやってくること。

【評価方法】

出席状況と授業外での課題を指示通りに行っているかを特に重視する。出席状況、課題、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける：*Ways to be better listeners*
（中郷安浩・中郷慶共著　英宝社）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

上級ライティング

TOFF, Mika

【Course Content】

さらに自分の英作文力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will practise writing more extensively and with greater sophistication. Students will refine their skills in written analysis and argument; comparison and contrast; and description. Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization. Emphasis will be placed on interesting content and convincing support in the form of persuasive reasons and vivid examples. There will also be a focus on how to write effective introductions and conclusions.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing the essays.

上級英会話

LEWIS, Paul

【Course Content】

さらに自分の英会話力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

Week 1：General introductory survey of class
Weeks 2-7：Making and using surveys in English
Weeks 8-15：Creating and using questionnaires in English

【Assessment】

Grading will consist of the following components:

Classwork, communication
Particpation
Attendance

No final test will be given, as all assessment is continuous.

【Textbooks】

None. Handouts will be given out where necessary.

【Reference】

None.

中国語読解１Ａ

大森信徳　河井昭乃　楊 衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．母音、数字、挨拶
3．疑問文、形容詞述語文
4．子音、声調、曜日表現
5．省略疑問文、疑問詞疑問文
6．音節、勧誘表現
7．動詞述語文、指示代名詞
8．我姓松本。自己紹介
9．介詞"和"、副詞"也""都"
10．我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11．部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12．我们的大学。介詞"给""在"
13．名詞の修飾表現
14．我的一天。時の表現、方向補語
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ａ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　楊 衛平

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである＜HSK基礎コースA＞＜HSK基礎コースB＞の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課	発音（1）
第二課	発音（2）
第三課	発音（3）
第四課	発音（4）
第五課	あいさつ表現
第六課	時間の表し方
第七課	年齢を言う
第八課	家庭を語る
第九課	自分の家を語る
第十課	学校について語る
第十一課	趣味について語る
第十二課	中国へ行く

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話１Ａ・２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話２

大森信徳　河井昭乃　楊 衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話１をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

第一課	部屋を借りる
第二課	換金する
第三課	道を尋ねる
第四課	交通機関を利用する
第五課	市場での買い物の仕方
第六課	デパート
第七課	ホテル
第八課	郵便局
第九課	電話
第十課	中国人宅に訪問する
第十一課	レストラン
第十二課	スピーチの仕方

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話１Ａ・２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解２

大森信徳　河井昭乃　楊 衛平

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話２＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．就要放暑暇了。語気助詞“了”、介詞“和”
2．伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3．暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4．使役の表現“让”
5．鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6．過去の経験表現「V+“过”」
7．我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8．介詞“离”、連動文
9．終于习慣了。感嘆表現２
10．自己の意見表示
11．我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12．副詞用法の“地”
13．我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14．春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

李 正子　キム ソヨン　パク ヨンソン

【授業の概要】

ハングル（韓国・朝鮮の文字）の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習し、韓国・朝鮮語の文字・音声・表現における全体像がつかめる能力を養成する。入門段階における集中学習の効果（韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば１年間で高校３年の英語力程度の力をつけることができる）をねらい、週２回の履修になっている。

【授業計画】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短いハングル文の読み書きおよび聞きとり、そして簡単な意思表示と会話上の運用などを可能にする。

第１回	授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第２回～第５回	ハングルの読み書き１～４、まとめ １）基本母音字（10個）、挨拶１ ２）基本子音字１（平音９個）、挨拶２ ３）基本子音字２（激音５個）、名詞１ ４）合成子音字（濃音５個）、名詞２
第６回～第８回	ハングルの読み書き５～７ １）合成母音字１（４個）、形容詞１ ２）合成母音字２（７個）、形容詞２ ３）終声子音字（７種）、叙述格助詞「이다」
第９回～第10回	発音のルールとトレーニング１・２、動詞１・２、表現練習、まとめ
第11回～第12回	尊敬形（합쇼체）平叙文・疑問文１・２、助詞１・２
第13回～第14回	尊敬形（합쇼체）否定文、助詞３・４、まとめ
第15回	中間試験
第16回～第17回	上称形（하오체）平叙文・疑問文および否定文、連結語尾１・２
第18回～第20回	１）勧誘および命令文、転成語尾１ ２）禁止および不可能文、変則活用１、転成語尾２ ３）漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回	１）略対上称形（하게체）、転成語尾３ ２）平常形（해라체）、先語末語尾１ ３）曖昧形（반말체）、先語末語尾２
第24回～第24回	１）変則活用２、先語末語尾３ ２）固有数詞、表現練習、まとめ
第26回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

韓国語入門（曺述燮）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

言活（学部固有）

韓国・朝鮮語読解 1

キム ソヨン

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、基礎的な単語で短い文章が書けること、ある程度辞書が使えること、そして韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明、前期の復習
第２回　サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第３回　明日は何をされますか。意図・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第４回　喫茶店で。「으」変則、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第５回　韓国料理屋で。「ㅂ」変則、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第６回　道をたずねる。「르」変則、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第７回　中間試験
第８回　地下鉄の駅で。「ㄹ」変則、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第９回　タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回　郵便局に行く。用言の連体形
第11回　約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回　天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
韓国語中級（李昌圭　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 1

李 正子

【授業の概要】
使用頻度の多い実用会話体の文章を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、初歩的な語句を用いてのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明、こんにちは（안녕하세요?）
第２回　韓国は初めてですか（한국은　처음입니까?）
第３回　ここが寮です（여기가　숙사에요.）
第４回　３月２日からです（３월２일부터에요.）
第５回　どこで売っていますか（어디에서　팔아요?）
第６回　MTって何ですか（MT가　뭐예요?）
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　スタンドランプを見せてください（스텐드　좀　보여주세요.）
第９回　一杯飲みましょう（술　한잔　해요.）
第10回　大学生活はどうですか（학교생활은　어때요.）
第11回　よく聞けば勉強になります（자주　들으면　공부가　되지요.）
第12回　誕生パーティをしましょう（생일　파티를　합시다!）
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
初歩の韓国語会話１（曺述燮・李正子・金賢珍）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

尹 大辰

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明
第２回　初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現、
第３回　順杯、平行動作と逆接の語尾「ー（으）면서」、「ㅂ」変則、動詞の過去の連体形
第４回　会食、補助動詞、引用文縮約形
第５回　業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
第６回　整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　再会（１）、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
第９回　再会（２）、曖昧形（반말체）文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
第10回　日本の取材（１）、「르」変則、目的の表現、義務・必要性の表現
第11回　日本の取材（２）、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形（반말체）文
第12回　整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔、白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

チョ スルソップ

【授業の概要】
使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、そして基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。それにより、平易な語句を用いてのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かる。

第１回　授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう（거기는　가지　맙시다.）
第２回　週末には何をしましたか（주말에는　무엇을　했어요?）
第３回　またお電話いたします（다시　전화하겠습니다.）
第４回　料理とか旅行です（요리나　여행이에요.）
第５回　資料を探しに一緒に行きましょうか（자료　찾으러　같이　갈래요?）
第６回　韓国料理ができますか（한국　음식을　만들　수　있어요?）
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　何をしようと思っていますか（뭘　하려고　합니까?）
第９回　どこにいらっしゃいますか（어디에　계십니까?）
第10回　バスか地下鉄に乗っていきます（버스나　지하철을　타고　가요.）
第11回　過ぎた水曜日からです（지난　수요일부터　그랬어요.）
第12回　このバックいくらだった（이　가방　얼마야?）
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
初歩の韓国語会話（曺述燮・李正子・金賢珍）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解３

尹 大辰

【授業の概要】
わかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】
3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、辞書を引いて新聞、雑誌などを読んである程度理解でき、簡単な手紙を読んだり書いたりするなどの平易な文章による意思伝達が可能であること、そして韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または３級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明
第２回　日本語案内放送、「ㅎ」変則、感動・独白・感想の表現
第３回　日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
第４回　板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
第５回　韓国映画、「ㄹ」変則、推量の表現
第６回　整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　PCバン、「ㅅ」変則、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
第９回　東大門市場、選択の表現
第10回　コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形（반말체）文と敬語体
第11回　あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、「ㄹ」変則
第12回　整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔、白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話３

チョ スルソップ

【授業の概要】
使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】
3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、電話で簡単な会話ができるなどの日常言語生活において語彙の不便がなく、よく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できるほどのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または２級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明
第２回　人参茶の味は（인삼차　맛이　어때?）
第３回　メロドラマがすき（멜로　드라마를　잘　봐.）
第４回　スニーカーが楽です（운동화가　더　편안하지!）
第５回　犬のほうが可愛い（강아지가　더　귀여워.）
第６回　ワインをよく飲む（와인을　즐겨　마셔.）
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　「マンナム」って歌える（만남이라는　노래　부를　수　있어?）
第９回　バラを送るの（장미를　선물　해.）
第10回　泳ぎに行く（수영하러　가!）
第11回　本当のことを言うと…（실은….）
第12回　パンソリの世界（판소리의　세계）
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
大学指定テキスト。未定

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

ロシア語読解Ⅰ

佐藤規祥

【授業の概要】
ロシア語の入門として、文字や単語の読み方、文法の基礎などを学ぶ。

【授業計画】
第１回　アルファベット、母音の発音。
第２回　子音の発音、名詞と代名詞の性。
第３回　子音の同化、平叙文と疑問文。
第４回　イントネーション、所有代名詞。
第５回　あいさつ、自己紹介、人名と敬称。
第６回　人称代名詞、複数形、ジェスチャー。
第７回　動詞の基本形、接続詞の使い方。
第８回　目的語の表し方、生き物を表す名詞。
第９回　所有と場所の表現、自動詞。
第10回　形容詞の形、前置詞。
第11回　過去形、時間の表現。
第12回　完了体、指示代名詞。
第13回　発音の規則、文法のまとめ。

【評価方法】
出席状況、数回の小テスト、予習および定期試験の成績を総合して評価します。

【テキスト】
１年生のロシア語（戸辺又方　白水社）
博友社露和辞典（詳しくは、最初の授業で説明します。）

ロシア語会話Ⅰ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】
ロシア語の入門として、発音や日常会話の基礎を学ぶ。

【授業計画】
1．ロシア語のアルファベット
2．言葉の書き方と読み方、代名詞を習う
3．自己紹介、挨拶
4．数字：時間、値段
5．現在形
6．過去形
7．未来形
8．形容詞
9．文書をつくる、テキストを読む

【評価方法】
理解力確かめるテスト

【テキスト】
ロシア語の教科書

【参考文献・資料】
Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow.
日露・露日辞典　"CONCISE"　三省堂

言活（学部固有）

ロシア語読解Ⅱ

佐藤規祥

【授業の概要】

「ロシア語読解Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法事項を学び、平易な文章を読んで理解する力を身につける。

【授業計画】

第1回　未来形、造格、曜日の表現。
第2回　不定人称文、命令形、与格。
第3回　運動の動詞、目的地と乗り物の表現。
第4回　出発と到着の表現。
第5回　天気と気温の表現。
第6回　感覚と感情の表現、時間を表す副詞。
第7回　許可と禁止を表す文、けがと病気の表現。
第8回　好き嫌いと計画の表現。
第9回　比較級と年齢の表現。
第10回　仮定法、買い物の表現。
第11回　関係代名詞、最上級。
第12回　間説話法。
第13回　文法と表現のまとめ。

【評価方法】

出席状況、数回の小テスト、予習および定期試験の成績を総合して評価します。

【テキスト】

1年生のロシア語（戸辺又方　白水社）

ロシア語会話Ⅱ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

「ロシア語会話Ⅰ」に引き続き、基礎的な会話力を身につける。

【授業計画】

1．家族
2．食事
3．買い物
4．天気
5．季節
6．芸術
7．音楽
8．文学

【評価方法】

理解力を確かめるテスト

【テキスト】

ロシア語の教科書とプリント

【参考文献・資料】

日露・露日辞典　"CONCISE"　三省堂

ロシア語読解Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の文法事項を確認しながら、文章を正しく読みとる力を身につける。

【授業計画】

ロシアのフォークロアやアネクドートなどを中心に、短くてわかりやすい文章をできるだけたくさん読んでいく。

また、講読をしながら、文法事項の復習に力を入れる。

【評価方法】

授業における平常点と期末試験により評価する

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

ロシア語会話Ⅲ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語で自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

1．電話でのお話
2．誕生日に招待
3．お土産
4．いよいよロシアへ出発：飛行機、ホテルなど
5．モスクワ見学
6．劇場

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、プリント

【参考文献・資料】

Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow
日露・露日辞典　"CONCISE"　三省堂

ロシア語読解Ⅳ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、新聞や雑誌の記事、インターネット上の情報、小説などの読解を通じて、ロシア語の実践的な読解力を身につける。

【授業計画】

ロシア語Ⅲにひきつづき、読解力の向上をめざしてさまざまな種類の文章を講読する。

ロシア語Ⅳではとくに時事問題の読解に重点を置き、ロシアの新聞やインターネット上のニュースの読解に挑戦する。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験により評価する。

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

ロシア語会話Ⅳ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、自分の考えや意見を表現する力をさらに向上できるような訓練を演習形式で行う。

【授業計画】

1．スラブ語言葉の祭り
2．ロシア正教協会を訪れる
3．モスクワの詩人たち
4．ロシア作家のチェーホフ
5．休日の計画を立てる
6．買い物

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、等

【参考文献・資料】

Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow.
日露・露日辞典　"CONCISE"　三省堂

表現文化総論

清水良典

【授業の概要】

文学的ないしは創造的な文章表現を対象として、言語を媒介とする創造的行為の原理や仕組みを学ぶ。

【授業計画】

1．創造的表現とは何か
2．小説の表現　その１
3．　　その２
4．小説と映像　その１
5．　　その２
6．映画と演劇　その１
7．　　その２
8．映画とコミック　その１
9．　　その２
10．書物という身体　その１
11．　　その２
12．メディアと文章
13．総括（日本語表現の可能性）

【評価方法】

出席状況および学期末のレポートによって総合的に判断する。

【テキスト】

授業に際してプリントを配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜、指示する。

多元文化総論

皆川修吾

【授業の概要】

多種多様な国家・民族・地域文化の存在、それぞれが自存と共存を模索し、互いに進化し、変容している。そのプロセスを実証的且つ体系的に学ぶ。

【授業計画】

第１講　文化の意味
第２講　文化、社会、個人
第３講　社会科学としての文化論
第４講　文化と地域・階級・性別・職業・世代
第５講　文化と社会成層
第６講　文化とジェンダー
第７講　文化と民族・宗教
第８講　文化とマスメディア
第９講　政治権力と政治文化
第10講　異文化間関係
第11講　多元文化社会（国・国際）の条件と限界
第12講　文化・文明の変容
第13講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

知的複眼思考法（苅谷剛彦著　講談社）
多文化世界（G.ホフステード著　岩井紀子他訳　有斐閣）
文化論のアリーナ（文化論研究会　晃洋書房）
地球時代の民族=文化理論（西川長夫　新潮社）
タテ社会の人間関係（中根千枝　中央公論）
日本文化のゆくえ（河合隼雄著　岩波書店）
文明の生態史観（梅棹忠夫著　中公叢書）
日本人と「日本病」について（岸田秀・山本七平著　文春文庫）
異文化理解の座標軸（淺間正通編著　日本図書センター）

表現文化総合講座Ⅰ

島田修三　清水良典　永井聖剛　馬場伸彦　矢頭 純

【授業の概要】

近現代韻文・近現代散文・現代メディア表現を対象に、主として言語に拠る表現ジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員清水良典教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（島田修三教授）主として近代・現代詩歌や俳句を題材として、定型詩における創造の仕組みを修辞的な側面から学ぶ。

（清水良典教授）主として現代小説とその批評を題材として、ポストモダン情況における新しい文学的創造の試みについて学ぶ。

（永井聖剛専任講師）主として近世の近代小説を題材として、近代日本文学における表現の特色や時代社会との相関性について学ぶ。

（馬場伸彦兼任講師）主として現代の広告コピーや商業表現を題材として、現代の社会的構造の諸問題と上記の表現との関係について学ぶ。

（矢頭純教授）主として新聞記事を題材として、現代社会における政治的・社会的な情報とその表現に関わる諸問題について学ぶ。

【授業計画】

第１回　講座の説明・清水良典教授講義
第２～３回　清水良典教授講義
第４～６回　島田修三教授講義
第７～８回　永井聖剛専任講師講義
第９～10回　馬場伸彦兼任講師講義
第11～12回　矢頭純教授講義

【評価方法】

第１回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に必要に応じて指示する。

表現文化総合講座Ⅱ

川澄未来子　酒井晶代　角田達朗
たかべしげこ　槇村さとる　李 相美

【授業の概要】

演劇・絵本・舞台芸術・映画・コンピュータグラフィックス等を対象に、主として身体・映像表現に拠るジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報、ビジュアルな資料等を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員角田達朗助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（川澄未来子助教授）主としてコンピュータグラフィックスを題材として、電子メディア表現の創造的特質や可能性について学ぶ。

（酒井晶代助教授）主として絵本を題材として、文字と絵画の連動に拠る創造的表現の特質やそれが子供に及ぼす影響の諸問題について学ぶ。

（角田達朗助教授）主として舞台芸術を題材として、演劇空間を創造する多様な意匠や技術の特色や効果について学ぶ。

（たかべしげこ兼任講師）主として演劇を題材として、演技する者における脚本の解釈、役作りの方法といった実践的な諸問題について学ぶ。

（槇村さとる兼任講師）主としてアニメ・コミックを題材として、サブカルチャーとしてのアニメ・コミックが現代文化に果たす役割やその創造的な意味について学ぶ。

（李 相美兼任講師）主として映画を題材として、現代の映像表現における映画の意味や映画的表現の独自性に関わる諸問題について学ぶ。

【授業計画】

※担当者の都合により、順番が変更される場合があるので注意すること。

第１回　講座の説明（角田達朗担当）
第２～３回　角田達朗講義
第４回　予備日
第５～６回　たかべしげこ講義
第７回　予備日
第８～９回　酒井晶代講義
第10回　予備日
第11～12回　李 相美講義
第13回　予備日
第14～15回　川澄未来子講義
集中授業期間　槇村さとる講義（３・４限連続２コマ）

【評価方法】

第１回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化総合講座Ⅰ

榎田勝利　杉本一直　チョ スルソップ
ブイ チ トルン　若松孝司

【授業の概要】

現代日本をとりまくさまざまな文化的事象を対象に、主として、日本と海外との交流や国際理解、現代日本文化などの諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員榎田勝利教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（杉本一直助教授）日本文学とロシア文学とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

（チョ スルソップ講師）日本と韓国・朝鮮、中国とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

（ブイ チトルン教授）日本社会の国際化事業や市民活動の現状、可能性及び今後のあり方について学ぶ。

（若松孝司助教授）日本とラテンアメリカ諸国との関係について、歴史的な観点から検討する。

（榎田勝利教授）国際ボランティア活動や国際協力の立場から、日本が現在直面している課題と、今後のあり方について学ぶ。

【授業計画】

第１講　ロシアの歴史概観
第２講　ロシア芸術紹介（バレエ、映画など）
第３講　ロシアの文学紹介
第４講　食文化と人間　１朝鮮半島の豆腐チゲ
第５講　食文化と人間　２中国大陸の麻婆豆腐
第６講　地域における国際化事業の現状と課題
第７講　NPO活動の現状と課題
第８講　ラテンアメリカの政治風土
第９講　日本とラテンアメリカの関係史
第10講　日本の国際貢献と国際協力
第11講　日本の国際貢献を考える－政府の国際協力（ODA）
第12講　日本の国際貢献を考える－民間の国際協力（NGO）
＊担当講師　第１講～３講　杉本一直　　第４講～５講　チョ スルソップ
第６講～７講　ブイ チトルン　第８講～９講　若松孝司
第10講～12講　榎田勝利

【評価方法】

レポートと授業への参加状況等により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業開講時に指示する。

多元文化総合講座Ⅱ

大野清幸　TOFF, Mika　中郷 慶　中野弘三　平林美都子

【授業の概要】

言語の言語学的・文学的・文化的意味や特徴に関する諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員大野清幸助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。担当者の講義概要は以下の通り。

（大野清幸助教授）主として、日本語と英語を対象に、人間の言語獲得の特徴に関する初歩的な問題を学ぶ。

（中郷　慶助教授）生成文法理論に基づく人間の言語獲得システム、世界の諸言語の体系、日本語と英語の音声特徴などを考察し、言語に対する新しい見方を学ぶ。

（中野弘三教授）英語の文や節、発話などの意味構造を考察し、さまざまな意味機能の分析を通して、発話と場面の関係を学ぶ。

（TOFF, Mika助教授）英語によるさまざまな形式の表現を、ライティングの観点から学ぶ。

（平林美都子教授）英語文学を題材にして、表象に伴う（心理的/政治的要因による）変容について学ぶ。

【授業計画】

第１講	言語科学	大野清幸
第２講	言語獲得研究	大野清幸
第３講	生成文法理論の目標と枠組	中郷　慶
第４講	世界の言語体系	中郷　慶
第５講	日本語と英語の音声の特徴	中郷　慶
第６講	文や発話の意味構造	中野弘三
第７講	発話と場面	中野弘三
第８講	日常を表現する	TOFF,Mika
第９講	オートバイオグラフィーにおける自己表現	TOFF,Mika
第10講	表象とは何か	平林美都子
第11講	ジェンダーの表象	平林美都子
第12講	翻訳とポストコロニアリズム	平林美都子

第１講において、授業計画や課題について、重要な指示を行います。**必ず出席すること!**

【評価方法】

レポートと授業への参加状況により総合的に評価する。

【テキスト】

掲示などで指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

日本語論

森本俊之

【授業の概要】

日本語学的な観点から、日本語の成立や史的展開をたどり、現代日本語の文法や語彙又は音韻の性格について学ぶ。

【授業計画】

音韻・文法・意味分野における従来の日本語研究の成果に触れつつ、コミュニケーション・ツールとしての言語が持つ談話的機能、つまり単なる単語の羅列とその総和に収まらない言語の運用と理解に関する諸理論の概観と検討を行なう。同時に、比喩・皮肉・ユーモアなど、一般には「規範的ではない」表現とみなされる類の事例分析を通じて、「規範的な言語コミュニケーション」に関する理論の妥当性、ひいては言語コミュニケーションにおける「規範」のありかたを問う。

【評価方法】

出席状況と適宜課するレポートとの総合評価

【テキスト】

プリントを配布する

国語学

広瀬英史

【授業の概要】

国語学的な観点から、日本語の語彙の性質について体系的な語彙論のもとに学ぶ。

【授業計画】

第１講　各論１：語の性質１
第２講　各論２：語の性質２
第３講　各論３：語の形
第４講　各論４：語の数
第５講　各論５：語のつながり
第６講　各論６：比喩１
第７講　各論７：比喩２
第８講　各論８：オノマトペ１
第９講　各論９：オノマトペ２
第10講　各論10：語連結・連語・慣用句
第11講　各論11：語種１
第12講　各論12：語種２
第13講　各論13：ことばと社会・辞書

【評価方法】

授業中の確認テストと試験によって評価する。

【テキスト】

よくわかる語彙（アルク）

国文学史概説

早川由美

【授業の概要】

上代から現代にいたる各時代の国文学の代表的文字作品を取り上げ、その国文学的な意味や価値を学ぶとともに、国文学の歴史的変遷を学び、国文学への理解を深める。

【授業計画】

講義形式で行う。講義中適宜プリントを配布する。作品の名前を覚えることが文学史ではない。それぞれの作品が後代の作品にどのような影響を与えているのかなど、享受史の面から意味や価値を考えて行く予定である。

1．上代　記紀万葉の世界について
2．中古　作り物語、勅撰和歌集
3．中世　軍記物語、御伽草子
4．近世　仮名草子、浮世草子、読本、草双紙、合巻など
5．近代　西洋へのまなざし

授業の一環として、能、狂言、歌舞伎などの鑑賞を学外授業として行うこともある。

【評価方法】

成績評価はレポートによって行う。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

プリントを配布する。

中国文学論

チョ スルソップ

【授業の概要】

中国文学の代表的な作家・作品および文学史上の事象を時代別にたどりながら、中国の歴史社会情況を理解し、作家・作品の文学的意味や価値について学ぶ。

【授業計画】

第１講　：オリエンテーション
第２講　：先秦時代の韻文と散文
民間歌謡・朝廷の歌謡『詩経』と作家の作品『楚辞』
孔子と『論語』、諸子百家の著述、史官の記録（映像「論語の世界」から学ぶ）
第３～４講：秦・漢の辞賦、歴史文学、古楽府
作家司馬相如、『史記』と『漢書』、漢武帝と楽府
第５～８講：魏・晋・南北朝の駢文、詩と小説、隋・唐の詩、古文、伝奇
辞賦と駢文、権力者と文学の関係、小説の発生
科挙と詩文、作家李白と杜甫、唐宋八大家たち、夢と恋と：伝奇の世界
第９～11講：宋の詞、元の戯曲、明・清の小説
新しい文学者集団、出版業と文学
古典の大衆化、四大奇書とその展開
第12～14講：近・現代文学
文学革命と５・４運動
人民文学の誕生と展開
映画「北京の55日」「アヘン戦争」から学ぶ
第15講　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして単位認定試験などを総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国文学史（前野直彬　東京大学出版社）
新しい中国文学史（藤井省三・大木康　ミネルヴァ書房）など
中国の哲学・宗教・芸術（福本光司　人文書院）

中国思想史

角田達朗

【授業の概要】

中国思想史の黎明期である春秋戦国時代のいわゆる諸子百家の思想や活動について、その特質や意義を考察する。

【授業計画】

第１～２回　諸子百家概説
第３～５回　孔子
第６回　墨子と墨家
第７回　孟子
第８～10回　荘子・老子
第11回　荀子
第12回　韓非子
＊第１回の授業で受講上の注意事項を詳しく説明する。

【評価方法】

レポート
＊受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

舞台創造基礎

冬頭裕子

【授業の概要】

舞台用語、舞台文化の歴史など、主にバレエ・オペラを中心とした舞台に関する基礎的な知識を学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．劇場空間における舞台用語
2．舞台が実際に出来上がるまでの過程
3．舞台の基本的な制作過程
4．舞台制作の現状
5．舞台文化の歴史
6．大劇場と小劇場
7．観客論と問題点
8．学外教育・・・まずは劇場へ行く
２～４に関しては、一方的な授業ではなく、質問、要望などを随時取り入れ、それに答える形で学生の興味のある方向に内容を膨らませて行く。
８に関しては舞台鑑賞、バックステージツアーという形で考えていますが、スケジュールにより何が出来るかは未定。舞台鑑賞の場合3000円程度必要。

【評価方法】

出席状況（遅刻厳禁）、舞台に対する意欲を反映したレポートの創造力で評価。

【テキスト】

テキストとしては使用しない

漢文学概説

角田達朗

【授業の概要】

『論語』は中国の古典の中でも最もよく読まれた文献であり、したがって、数多くの注釈が存在する。注釈は本文の正しい意味を解き明かすという建前をもつと同時に、注釈者自身の思想を反映する器でもあるから、注釈が正確な本文理解を提示しているとは限らない。しかしながら、本文理解において正確でない注釈であろうと、注釈という形を借りた思想表現と見れば、一定の価値を認めることは十分可能である。むしろ、注釈という形によって思想表現をするのに特に適したテキストであったからこそ、言い換えれば、それだけ多様な解釈が可能な書物であったからこそ、『論語』は時代を超え、地域や民族も越えて読み継がれたのだと言うこともできるであろう。この講義では、『論語』を一つのモデル・ケースとして、古典解釈が思想的営為としてどのような意味を持つかを考えて行く。
『論語』公冶長篇から高等学校の漢文の教科書に採られている章を選び、それぞれにどのような解釈が提起されて来たか、そして、解釈の相違がどこから生じるのかについて検討する。高等学校で学習する章を敢えて選ぶのは、いわゆる教科書的な「正しい解釈」が実は多様な解釈の一つに過ぎないことを、受講者に具体的に認識してほしいからである。

【授業計画】

初めの二～三回の授業で孔子の人生と思想を概説した後、一つの章につき三～五回の講義を当てて検討していく。したがって、全部で二～三の章を扱うことになる。
＊第１回の授業で受講上の注意事項を説明する。

【評価方法】

レポート
＊受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

演出論

角田達朗

【授業の概要】

演劇史においては二十世紀は「演出の時代」と言われる。いわゆる近代劇の成立に伴って近代的戯曲から近代的上演を実現するために、近代的造形理念に基づいて劇作りの過程を監督する者が必要不可欠となったことにより、二十世紀初頭に演出という役割が確立し、現在に至るまで、演出者の指導的地位は揺るぎないものとなっている。しかしながら、演出という役割がいかなる内実を持つかということ、例えば、演出の作業は戯曲創作の作業と連続するべきか、あるいは断絶するべきか、演出者は主に俳優の演技を指導するのか、あるいは様々な舞台効果の総合化に努めるのか。そうした基本的問題も必ずしも明確に規定されていない。
この講義では演劇における演出の役割について、実際の上演に即して考察する。また、映像やマンガにおける演出も参照する。

【授業計画】

ビデオ・静止画等の視聴覚資料も用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、実際の上演を鑑賞課題に指定し、レポートの提出を求め、これに基づいて授業を展開するものとする。（上演鑑賞のため、３～５千円の経費を要する。）
第１～２回　演出とは何か
第３～５回　映画における演出と脚色/視覚的な演出をめぐって
第６～12回　演劇における演出
＊第１回の授業で受講上の注意事項を説明する。

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。
＊鑑賞課題がテキストと同等の意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

写真論

坂倉 守

【授業の概要】

現代における写真表現について、代表的な写真家の作品や主な理論、技法を通して学び、視聴覚表現における映像文化についての知識と感性を身につける。

【授業計画】

各回のテーマに沿った写真作品をスライドで上映しながら、講議をすすめて行く。

1. 写真のはじまりとひろがり
2. 写真の中の身体
3. 人間のかなしみ
4. 移動する目
5. 記録と芸術
6. 報道のリアリティ
7. 現実と表現
8. 私の周辺
9. 周縁の光景
10. 編集　言葉　空間
11. まとめ

【評価方法】

成績は、定期試験（論述）の結果を中心に出席状況なども加味して評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない

【参考文献・資料】

写真の歴史（ナオミ・ローゼンブラム著　美術出版社）

映像文化論

吉村英夫

【授業の概要】

主として映画作品を対象として、映像が作品のストーリーやテーマを具体的に具象化する原理や仕組みについて学ぶ。

【授業計画】

日本映画の魅力の再発見を中心にする。特に黒澤明監督、さらに山田洋次監督作品を参考上映しながら日本映画の魅力をさぐり、映像文化とその表現への理解を深める。同時に、映画と日本映画の21世紀を展望したい。

＊第１回～第８回

黒澤明の映画の魅力は今もまったく色あせていない。毎年、若い人たち（淑大生）が驚くのを真近に見ている。その黒澤ワールドとは何かを、黒澤映画を楽しみながら考えてみる。参考上映は『天国と地獄』『椿三十郎』『生きる』『赤ひげ』『夢』などを予定。

第９回～第12回

山田洋次の世界とその系譜を考える。

『男はつらいよ』を中心に参考上映しながら、山田洋次映画と、その先輩である松竹映画の小津安二郎についても考察したい。『男はつらいよ』のほか、『幸福の黄色いハンカチ』『たそがれ静兵衛』『生れてはみたけれど』などをみる予定

第13回は、テスト

木曜昼食時に「映画雑談」会を有志で実施する。

【評価方法】

テスト、出席、レポート（雑文風感想）などによる。

【その他】

教科書は使用しないが、授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は先輩諸君から引き続いての通信であり、学生諸君が書いたものを収録する。過去４年間、この講座で続いており、受講生の交流の広場となっている。

デザイン文化論

川澄未来子

【授業の概要】

今日の表現全般に大きな影響力をもつデザインについて、その歴史と理論、表現の実際を学び、視聴覚表現に応用できる知識と感性を身につける。

【授業計画】

画像・映像教材、電子的な教材などを利用しながら、次のトピックスについて考察を深める。

（1）表現の歩み
（2）アイディアから形へ
（3）形の表現
（4）動きの表現
（5）グラフィック表現の効果
（6）デザインへの応用
（7）デザインを支える知識

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。

児童文化論

酒井晶代

【授業の概要】

児童文化といわれる具体的な事象を対象として、広く子どもの文化を形成している原理を探り、その価値と意味について学ぶ。

【授業計画】

子どもの文化・文化財をめぐる諸事象のなかで、この講義では特に絵本をはじめとする映像メディアとその周辺の問題を取りあげる。

講義では絵本を中心に、紙芝居、アニメーション等の表現上の特徴を、具体的な作品を通して検討するとともに、多様なメディアが氾濫する現代社会のなかで、子どもたちがそれぞれの表現をどのように受容しているのか、さらには、個々のメディア間をどのように繋ぎあわせながら物語を享受しているのか、受講者の意見交換を通して考えてみたい。

第１回	子ども文化とは何か
第２～７回	絵本の表現をめぐって
第８～９回	紙芝居の表現をめぐって
第10～11回	アニメーションの表現をめぐって
第12回	講義のまとめ

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本づくりトレーニング（長谷川集平著　筑摩書房）
絵本はいかに描かれるか－表現の秘密－　（藤本朝巳著　日本エディタースクール出版部）
絵本の視覚表現－そのひろがりとはたらき－　（中川素子ほか著　日本エディタースクール出版部）
その他の参考文献は、授業時に適宜紹介する。

出版文化論

稲垣喜代志

【授業の概要】

急速に変化する情報社会において、出版が直面する多様な問題を、現代文化との関連や影響関係に即して学ぶ。

【授業計画】

1．出版ジャーナリズムと現代。
2．出版の自由とは？
3．出版の理念。
4．大先達、岩波茂雄・下中彌三郎らのこと。
5．マスメディアとしての書籍と雑誌。
6．出版における中央と地方。
7．プランニング
・文化の核をつくる企画とは？
・ベストセラー
・金儲けと低俗化
8．出版権、著作権。
9．翻訳出版、海外での出版。
10．流通のシステム。
11．編集・製作作業（取材を含む）。
12．宣伝・販売。

【評価方法】

出席状況と積極的発言、講義の中での提出物、出版企画に関するレポート、テストによって、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

ノンフィクション論

藤井誠二

【授業の概要】

教育環境や文化環境としての現代都市・社会の現状をノンフィクション作品（講師の著作等）の手法を通して分析し、その問題点と改善の方途について学ぶ。

【授業計画】

第１講　ガイダンス・ノンフィクション作品の手法を通じて都市文化や社会問題を考察する。
第２講　私はなぜノンフィクションライターになったか
第３講　学校を考える１
第４講　学校を考える２
第５講　少年犯罪から視えてくること
第６講　犯罪被害者から視えてくること
第７講　現代の犯罪をどう考えるのか
第８講　現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える１
第９講　現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える２
第10講　現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える３
第11講　現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える４
第12講　レポート作成についての説明

【評価方法】

レポートの成績によって総合的に評価する。レポートは身近なテーマを取材し、短いノンフィクション作品（2000字以上）を書いてもらう。あるいは、藤井の著作についてのレポートを書いてもらう。詳細については授業中に指示する。

【参考文献・資料】

17歳の殺人者（自著　朝日文庫）
少年の罪と罰論（宮崎哲哉氏と藤井の対談　春秋社）
人を殺してみたかった（自著　双葉社）
少年に奪われた人生（自著　朝日新聞社）
コリアンサッカーブルース（自著　アートン）
いつの日にかきっと（自著　アートン）
他は授業中に指示する。

国際開発

若松孝司

【授業の概要】

多様な環境問題を解決し、地球規模での人間性豊かな生活文化を創造する上で必要性が高まる国際協力の問題を、主に国際開発の観点から学ぶ。

【授業計画】

以下の項目について講義する。
1）国際開発とは何か
2）国際開発におけるキー概念
　貧困
　参加
　環境
　伝統
　近代化
3）日本の開発政策の再検討
4）日本の国際開発協力のあり方

【評価方法】

筆記試験と出席状況により評価する。
詳細は、第１回目の講義にて説明する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義にて随時紹介する。

南北問題

若松孝司

【授業の概要】

先進国・途上国間、途上国相互間の経済格差を生む構造について理解し、それらに対処して、国際的なレベルでの豊かな生活文化を創造するために、各国・国際諸機関の果たす機能について学ぶ。

【授業計画】

開発途上国と先進国、ならびに開発途上国間における経済格差の原因と現状、あるいはそれらに対する国際的な取り組み等について、政治経済学的な論点から以下のような項目について講義する。
（1）　南北問題とは
（2）　南北問題を考える一視座としての世界システム論
（3）　経済的民族主義の台頭と展開
（4）　先進国と発展途上国との相互依存・協力関係

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜プリントを配布してテキストとする。

【参考文献・資料】

国際学Ⅳ　南北問題研究（川田侃著　東京書籍）
現代政治学叢書19　世界システム（田中明彦著　東京大学出版会）
開発危機―自立する思想・自立する世界（S.アミン著　国連大学出版局）
開発の構造―第三世界の開発/発展の政治社会学（佐藤幸男著　同文舘）

国際ボランティア

榎田勝利

【授業の概要】

地域市民社会形成のキーワードとしての国際ボランティアとNGOの理念、目的、役割、さらに日本の現状を具体例を通して学ぶ。

【授業計画】

授業では、国内外のNPO・NGO、ボランティア団体のWeb－siteを検索し、直接情報収集を行い、レポートにまとめる。また、NPO・NGOで活躍している卒業生や専門家をゲストスピーカーとして招き講義を受ける。

1．ガイダンス　用語解説
　・国際協力の仕事とは
　・NGO、ボランティア活動の活発化の背景
2．NGOとは何か?
　（1）国連とNGO
　　・国連会議とNGO
　　・国連とNGOのパートナーシップ
　（2）日本のNGOの現状と課題
3．ボランティアとは何か?
　（1）ボランティアの基本的条件と活動動機
　（2）ボランティアコーディネーター
4．国際ボランティアとは?
　（1）なぜ国際ボランティアをするのか?
　（2）国際ボランティア活動のタイプ
　（3）日本の国際ボランティア団体
　　・スタディツアーを実施している団体
5．国際ボランティアの活動
　（1）開発・人権ボランティア
　（2）開発NGOとボランティア
　（3）難民・災害医療ボランティア
　（4）国連ボランティアと青年海外協力隊
6．海外のボランティア事情
　（1）ヨーロッパ
　（2）アメリカ
　（3）アジア

【評価方法】

課題レポート（50%）、中間レポート（30%）、出席状況と授業への参加度（20%）の総合評価による。

地域協力機構研究

若松孝司

【授業の概要】

国際機関が地球規模での人間的豊かさをもつ文化を創造するために、世界の各地域の開発と発展に果たしてきた政治的、経済的機能と今後の姿について学ぶ。

【授業計画】

地域協力における主要アクターである国際機構について、国際連合を中心として以下のように講義をする。

（1）　地域協力機構とは
（2）　国際機構小史
（3）　事例研究１〈国際連合の構造・機能〉
（4）　事例研究２〈各種の地域的国際機構〉

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末に実施する試験の結果とを総合して評価する。

【テキスト】

国際機構論（最上敏樹著　東京大学出版会）

【参考文献・資料】

国際機構論（横田洋三編　国際書院）
国際組織と国際関係（辰巳浅嗣　成文堂）

日本政治外交論

皆川修吾

【授業の概要】

明治以降の日本外交史を時系列的に考察し、とくに第２次大戦後の日本外交の指向性を日本政治の歴史的・制度的・構造的背景と関連付けて学び、国際的な課題への今後の日本外交のあり方について検討する。

【授業計画】

第１講　外交とは何か
第２講　国民国家の形成：脱亜入欧の時代
第３講　アジア主義と権力外交
第４講　日本外交：戦後冷戦期、冷戦後
第５講　安全保障外交
第６講　通商外交
第７講　資源外交
第８講　経済援助外交
第９講　日本の政治システム
第10講　政治行政構造改革
第11講　グローバル外交：環境、食料、人口問題など
第12講　総括
第13講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

外交（H.ニコルソン著　東大出版）
戦後日本外交史（五百旗頭真著　有斐閣
近代日本外交思想史入門（関静雄編著　ミネルヴァ書房）
日本の外交政策決定要因（外交政策決定要因研究会　PHP）
参照専門誌：
外交フォーラム（外務省編　都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編　有斐閣）
政治学（日本政治学会編　岩波書店）

東南アジア現代史

小座野八光

【授業の概要】

第２次世界大戦後の東南アジアの歴史を振り返り、現状を理解するとともに、この地域の未来について学ぶ。

【授業計画】

第１回　総論：東南アジアの「国民国家」像
第２回　前史：オランダ領東インドの姿
第３回　日本占領の時代
第４回　インドネシアの歩み　50年代
第５回　インドネシアの歩み　60－70年代
第６回　インドネシアの歩み　80－90年代
第７回　インドネシアのエスニックグループ
第８回　前史：英領マラヤの姿
第９回　日本占領の時代・戦後の英領マラヤ
第10回　マレーシア・シンガポールの歩み　60－70年代
第11回　マレーシア・シンガポールの歩み　80－90年代
第12回　マレーシア・シンガポールのエスニックグループ
第13回　国民国家としてのマレーシアとシンガポール

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

異文化コミュニケーション

椿田ジェシカ

【授業の概要】

異文化接触場面の具体的事例を取り上げ、「文化」に対する意識を高める。さらに、異文化間の人間のコミュニケーションで生じる文化差を背景とした問題を、主として言語の特性の相違を分析することを通じて学ぶ。

【授業計画】

第1回　異文化の「文化」：異文化コミュニケーションで問題になる文化差
第2回　「常識」も文化の一部
第3回　コミュニケーションシステムの文化：テーブルマナー
第4回　コミュニケーションシステムの文化：時間概念
第5回　コミュニケーションスタイルの文化差：自己開示
第6回　コミュニケーションスタイルの文化差：対人関係
第7回　「偏見はヘンに見ること、差別は差をつけること」
第8回　在日外国人の実態：法律的な立場から
第9回　在日外国人の実態：心理学的な立場から
第10回　国際結婚：素肌で感じる異文化コミュニケーション
第11～12回　異文化で生きる：カルチャーショック
第13回　学生からの質問やコメントに答える

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

使用せず

意味論

中野弘三

【授業の概要】

英語を中心として、さまざまな文が持つ意味とその用法を言語学的な立場から理論的に学ぶ。

【授業計画】

第1回　意味とは
第2回　意味の種類
第3回　意味と指示
第4回　語の意味論1
第5回　語の意味論2
第6回　語の意味論3
第7回　文の意味分析1
第8回　文の意味分析2
第9回　文の発話の意味1
第10回　文の発話の意味2
第11回　前提
第12回　発話行為
第13回　会話の含意

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

英語の意味［テイクオフ英語学シリーズ3］（1996 池上嘉彦ほか著　大修館書店）
Semantics（2000　Kate Kearns　Macmillan Press）
Semantics（2 nd Edition　2003　John I. Saeed　Blackwell）
Doing Pragmatics（2 nd Edition　2000　Peter Grundy　Arnold）
Pragmatics（1996　George Yule　Oxford University Press）

英語学概論

中野弘三

【授業の概要】

英語のもつさまざまな言語学的特徴を、単語・音・文のそれぞれのレベルから考察する。

【授業計画】

第1回　言語の音声
第2回　語の音声構造1
第3回　語の音声構造2
第4回　語の構造1
第5回　語の構造2
第6回　語形成
第7回　文の統語構造1
第8回　文の統語構造2
第9回　文の統語構造3
第10回　文の意味構造1
第11回　文の意味構造2
第12回　文と談話1
第13回　文と談話2

【評価方法】

主として期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

ファンダメンタル英語学（中島平三著　ひつじ書房）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学

平林美都子

【授業の概要】

さまざまな文学研究方法の具体例とともに、英文学/映画から何をどのように読みとることができるのかについて学ぶ。

【授業計画】

テーマ：ゴシックの系譜- ゴシック小説からSF/ホラー映画
翻訳本を使用するが、部分的に原文も読むこともある。

1．ゴシックの概論
2．初期のゴシック小説
3．Mary Shelley, *Frankenstein*
4．Charlotte Brontë, *Jane Eyre*
5．Edgar Allan Poe, *The Fall of The House of Usher*
6．R.L. Stevenson, *Dr. Jekyll and Mr. Hide*
7．Bram Stoker, *Dracula*
8．映画『レベッカ』
9．映画『ブレードランナー』
10．映画『ミザリー』

【評価方法】

出席状況と授業参加態度・プレゼンテーション及びレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

フランケンシュタイン（M.シェリー著　創元推理文庫）
ジェイン・エア（シャーロット・ブロンテ著　集英社文庫）
ジキル博士とハイド氏（スティーブンソン著　岩波文庫）
アッシャー家の崩壊（エドガー・アラン・ポー著　新潮文庫）
吸血鬼ドラキュラ（ブラム・ストーカー著　創元推理文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学史

子安惠子

【授業の概要】

英米文学の歴史において、さまざまな作家と作品が、英語文化に及ぼした影響について考察し、英語文化をより深く学ぶ。

主としてアメリカの19世紀全体、および20世紀前半を重点的に扱う。知識としての文学史であると同時に、教養としての名作、読書案内を兼ねたものとし、学生の人格形成に厚みを加えたい。

【授業計画】

第１回　アメリカ文学の特質について
第２回　植民地時代
第３回　独立から南北戦争：散文文学の誕生
第４回　　：ニューイングランドの開花
第５回　南北戦争から第一次世界大戦：西部の文学
第６回　　：小説の発達
第７回　　：自然主義文学
第８回　第一次世界大戦後：失われた世代
第９回　　：南部の文学
第10回　　：カリフォルニアの文学
第11回　　：その他の作家
第12回　第二次世界大戦後：ユダヤ系・南部・都会派の文学など
第13回　　：演劇その他
第14回　単位認定試験

【評価方法】

出席（遅刻を含む）10%、レポート60%、単位認定試験30%

【テキスト】

アメリカ文学史（西田実　成美堂）

フェミニズム概論

中島美幸

【授業の概要】

よりよい社会を形成する一助とするために、女性と男性のあり方とさまざまな問題点を学ぶ。

【授業計画】

1．フェミニズムとは
2．フェミニズムの歴史１
3．フェミニズムの歴史２
4．フェミニズムの歴史３
5．日本のフェミニズム１
6．日本のフェミニズム２
7．日本のフェミニズム３
8．フェミニズムの実践１
9．フェミニズムの実践２
10．フェミニズムの実践３
11．フェミニズムの実践４
12．フェミニズムの実践５
13．まとめ

【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート（２～３回）の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中でその都度紹介する。

文化批評

杉本一直

【授業の概要】

芸術作品を分析し批評する方法を学ぶ。文学、映画、バレエなど、さまざまなジャンルの芸術作品に触れつつ、作品への論理的批評を行なうにはどのような視点を持つべきかを考えていく。

【授業計画】

文学だけでなく、ヨーロッパおよびロシアの芸術（美術、映画、音楽、バレエなど）と思想を取り上げる。その主な項目を挙げておく。

・二十世紀初頭のアヴァンギャルド芸術のさまざまな潮流
・「モダニズム」と呼ばれる文学、そして「ポスト・モダニズム」
・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界
・メタフィクションと自己言及的システム
・形而上学的SF小説
・対の構造を持つ作品
・「現代音楽」というジャンル（無調音楽、十二音技法、フリージャズなど）

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示した書籍

表現文化基礎演習Ⅰ

梅田卓夫　佐々木亜紀子　角田達朗　永井聖剛

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の授業であり、表現文化に関する基本的な知識や技術を、各教員の専門分野に題材を取って学ぶ。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション
第2回　表現方法・技術に関する問題提起1
第3回　表現方法・技術に関する問題提起2
第4回　表現方法・技術に関する問題提起3
第5回　文献・資料の調査方法1
第6回　文献・資料の調査方法2
第7回　テーマ研究調査・演習1
第8回　テーマ研究調査・演習2
第9回　テーマ研究調査・演習3
第10回　テーマ研究調査・演習4
第11回　テーマ研究調査・演習5
第12回　テーマ研究調査・演習6
第13回　総　括

授業概要の基本的な構成は上記の通りであるが、対象とする表現ジャンルおよび授業展開の詳細は各担当教員が第1回の授業において説明する。

【評価方法】

各担当教員によって異なるが、基本的には出席状況・平常の授業における調査発表・課題レポートなどに対する総合的な評価による。

【テキスト】

各担当教員から授業中に指示がある。

【参考文献・資料】

各担当教員から授業中に指示がある。

表現文化基礎演習Ⅱa

酒井晶代

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

演習形式の授業を通して、近代日本児童文学の歴史を把握すること、文献探索の基本技術を身に付けること、以上二点を目標とする。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に通史を読み進めていく。本演習では、その際の主軸を作家に置くことにしたい。児童文学は研究の歴史が浅いこともあり、テキスト・研究文献ともに未整備なものが多い。時代順に代表的な作家をとりあげ、個々の作家の基礎調査を試みることを通して、児童文学史の把握とともに文献探索・情報探索の基本を身に付けていきたい。むろん、文献探索は研究の第一歩に過ぎない。調査を通して自らの問題意識を発見し、作品を読み・書く際のヒントをつかんでもらえたら、と思っている。

第1回　半期間の計画提示
第2～3回　文献検索・情報探索の方法
第4～7回　ピックアップした作家に関する発表(基礎編)
第8～12回　ピックアップした作家に関する発表(応用編)
第13回　半期間の演習を終えて

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

はじめて学ぶ日本児童文学史（鳥越信編　ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化基礎演習Ⅱa

川澄未来子

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

メディア表現の研究に活かせる知識とスキルの習得を目的として、次の（1）～（3）を実施する。

（1）テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチするテーマを選定する。

（テーマ例：　インタラクティブアート、ヴァーチャルリアリティ、ペットロボット、ケータイ、似顔絵、デジタルミュージアムなど）

（2）リサーチ

同じテーマをもつ学生でグループを組み、役割分担しながらリサーチを進める。

図書館のデータベースやWWWなども利用して、情報や文献を検索・収集・講読する。

（3）プレゼンテーション

グループ単位でリサーチ成果を発表用スライドにまとめ、効果的にプレゼンテーションする。

なお、発表用スライドはコンピュータ上で作成する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化基礎演習Ⅱa

島田修三

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

第1回　創作としての現代短歌
第2回～3回　現代短歌をどう読むか1
第4回～5回　課題作品の批評1
第6回～7回　現代短歌をどう読むか2
第8回～9回　課題作品の批評2
第10回～11回　現代短歌の流れ
第12回　課題作品の批評3
第13回　総括

【評価方法】

出席状況および授業内の課題作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『歌壇』（本阿弥書店）、『短歌研究』（短歌研究社）

表現文化基礎演習Ⅱa

清水良典

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

第１回　小説の現在
第２回　批評の大切さ
第３～６回　グループによる小説研究発表
第７～11回　創作発表と相互批評
第12～13回　総評

【評価方法】

出席状況と発表、作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

高校生のための小説案内（筑摩書房）

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典　毎日新聞社）

表現文化基礎演習Ⅱa

角田達朗

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

映画と演劇についてビデオ鑑賞に基づいて研究する。授業の一貫したテーマは「正義」である。「正義」という観念がいかに信じられ、いかに疑われるかを、具体的な作品を通して考察する。

第１回　ガイダンス/能『黒塚』鑑賞
第２回　TV映画『故郷は地球』鑑賞
第３回　漫画『教祖物語』分析/民俗芸能VTR鑑賞
第４回　TV映画鑑賞（作品未定）
第５回　TV映画『真珠貝防衛指令』鑑賞
第６回　能『巻絹』鑑賞
第７回　TV映画『まぼろしの雪山』鑑賞
第８回　TV映画『姿なき挑戦者』『地底GO!GO!GO!』鑑賞
第９回　TV映画『超兵器Ｒ１号』『盗まれたウルトラアイ』鑑賞
第10回　TV映画『史上最大の侵略』鑑賞
第11回　TV映画作品についての研究発表
第12回　能『小鍛治』鑑賞
第13回　能についての研究発表

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱa

とりいかずよし

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

1　漫画の周辺研究。
2　ファンタジーの功罪について。
3　漫画を創作してみる。

【評価方法】

好奇心の強弱
洞察力
批評の説得力の有無

【テキスト】

適時用意します。

【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備します。

表現文化基礎演習Ⅱa

永井聖剛

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

近現代文学の短編小説を読みながら、文学作品を読むという行為・方法の対象化を試みる。読むことを自己充足的に解消させてしまうのではなく、他者に語るためには何が必要なのかを考え、学び、実践するための出発点としたい。なお、授業は演習形式とし、報告担当者は必ずレジュメを用意、全員で討議するものとする。資料・参考文献の検索、レジュメやレポートの作成についても学んでもらいたい。

1　ガイダンス（発表の担当者決めなど）
2・3　調査・レジュメのつくり方などに関する講義
4　樋口一葉「十三夜」
5　泉鏡花「夜行巡査」
6　田山花袋「少女病」
7　国木田独歩「窮死」
8　谷崎潤一郎「秘密」
9　志賀直哉「小僧の神様」
10　芥川龍之介「舞踏会」
11　江戸川乱歩「目羅博士」
12　梶井基次郎「檸檬」
13　横光利一「街の底」

【評価方法】

授業（出席・発言・報告）60%、レポート40%

【テキスト】

近代小説〈都市〉を読む（東郷克美ほか編　双文社出版）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱb

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

日本の現代詩が外国からの影響のもとに変遷し獲得してきた遺産を概観して、現代にふさわしい詩的表現の基礎を実作体験を通して習得できるように授業を組み立てる。

第1回　オリエンテーション
第2回　現代詩の歴史1
第3回　現代詩の歴史2
第4回　表現方法・技法の変遷と現状1
第5回　表現方法・技法の変遷と現状2
第6回　作品研究・批評の視点
第7回　演習1（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第8回　演習2（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第9回　演習3（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第10回　演習4（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第11回　演習5（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第12回　演習6（テーマによる実作・研究・発表・相互批評）
第13回　まとめ

【評価方法】

出席状況・平常の授業における取り組み・発表作品（研究）の質、などによる総合評価とする。

【テキスト】

授業の中で指示する。

【参考文献・資料】

現代詩文庫（思潮社）の各冊、ほか授業の中で指示する。

表現文化基礎演習Ⅱb

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

メディア表現の研究に活かせる知識とスキルの習得を目的として、次の（1）～（3）を実施する。

（1）テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチするテーマを選定する。

（テーマ例：　インタラクティブアート、ヴァーチャルリアリティ、ペットロボット、ケータイ、似顔絵、デジタルミュージアムなど）

（2）リサーチ

同じテーマをもつ学生でグループを組み、役割分担しながらリサーチを進める。

図書館のデータベースやWWWなども利用して、情報や文献を検索・収集・講読する。

（3）プレゼンテーション

グループ単位でリサーチ成果を発表用スライドにまとめ、効果的にプレゼンテーションする。

なお、発表用スライドはコンピュータ上で作成する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化基礎演習Ⅱb

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該分野の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

演習形式の授業を通して、近代日本児童文学の歴史を把握すること、文献探索の基本技術を身に付けること、以上二点を目標とする。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に通史を読み進めていく。本演習では、その際の主軸を作家に置くことにしたい。児童文学は研究の歴史が浅いこともあり、テキスト・研究文献ともに未整備なものが多い。時代順に代表的な作家をとりあげ、個々の作家の基礎調査を試みることを通して、児童文学史の把握とともに文献探索・情報探索の基本を身に付けていきたい。むろん、文献探索は研究の第一歩に過ぎない。調査を通して自らの問題意識を発見し、作品を読み・書く際のヒントをつかんでもらえたら、と思っている。

第1回　半期間の計画提示
第2～3回　文献検索・情報探索の方法
第4～7回　ピックアップした作家に関する発表（基礎編）
第8～12回　ピックアップした作家に関する発表（応用編）
第13回　半期間の演習を終えて

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

はじめて学ぶ日本児童文学史（鳥越信編　ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化基礎演習Ⅱb

島田修三

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

第1回　創作としての現代短歌
第2回～3回　現代短歌をどう読むか1
第4回～5回　課題作品の批評1
第6回～7回　現代短歌をどう読むか2
第8回～9回　課題作品の批評2
第10回～11回　現代短歌の流れ
第12回　課題作品の批評3
第13回　総括

【評価方法】

出席状況および授業内の課題作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『歌壇』（本阿弥書店）、『短歌研究』（短歌研究社）

表現文化基礎演習Ⅱb

清水良典

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

第1回　小説の現在
第2回　批評の大切さ
第3～6回　グループによる小説研究発表
第7～11回　創作発表と相互批評
第12～13回　総評

【評価方法】

出席状況と発表、作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

高校生のための小説案内（筑摩書房）

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典　毎日新聞社）

表現文化基礎演習Ⅱb

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

映画と演劇についてビデオ鑑賞に基づいて研究する。授業の一貫したテーマは「正義」である。「正義」という観念がいかに信じられ、いかに疑われるかを、具体的な作品を通して考察する。

第1回　ガイダンス/能『黒塚』鑑賞
第2回　TV映画『故郷は地球』鑑賞
第3回　漫画『教祖物語』分析/民俗芸能VTR鑑賞
第4回　TV映画『ウルトラ作戦第1号』『さらばウルトラマン』鑑賞
第5回　TV映画『真珠貝防衛指令』鑑賞
第6回　能『巻絹』鑑賞
第7回　TV映画『まぼろしの雪山』鑑賞
第8回　TV映画『姿なき挑戦者』『地底GO!GO!GO!』鑑賞
第9回　TV映画『超兵器R1号』『盗まれたウルトラアイ』鑑賞
第10回　TV映画『史上最大の侵略』鑑賞
第11回　TV映画作品についての研究発表
第12回　能『小鍛治』鑑賞
第13回　能についての研究発表

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱb

とりいかずよし

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

1　漫画の周辺研究。
2　ファンタジーの功罪について。
3　漫画を創作してみる。

【評価方法】

好奇心の強弱
洞察力
批評の説得力の有無

【テキスト】

適時用意します。

【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備します。

表現文化基礎演習Ⅱb

永井聖剛

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業計画】

近現代文学の短編小説を読みながら、文学作品を読むという行為・方法の対象化を試みる。読むことを自己充足的に解消させてしまうのではなく、他者に語るためには何が必要なのかを考え、学び、実践するための出発点としたい。なお、授業は演習形式とし、報告担当者は必ずレジュメを用意、全員で討議するものとする。資料・参考文献の検索、レジュメやレポートの作成についても学んでもらいたい。

1　ガイダンス（発表の担当者決めなど）
2・3　調査・レジュメのつくり方などに関する講義
4　樋口一葉「十三夜」
5　泉鏡花「夜行巡査」
6　田山花袋「少女病」
7　国木田独歩「窮死」
8　谷崎潤一郎「秘密」
9　志賀直哉「小僧の神様」
10　芥川龍之介「舞踏会」
11　江戸川乱歩「目羅博士」
12　梶井基次郎「檸檬」
13　横光利一「街の底」

【評価方法】

授業（出席・発言・報告）60%、レポート40%

【テキスト】

近代小説〈都市〉を読む（東郷克美ほか編　双文社出版）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

知的財産権

江森史麻子

【授業の概要】

本講では、知的財産権のうち、表現を保護するものである広義の著作権を中心に概説する。また、その前提となる、法体系についての基礎的知識も紹介し、さらに、権利について争いがある場合などの法律的解決の方法についても見ていく。また、商標も取り上げる。

受講生には特別の準備を求めないが、日々、新聞・テレビ・インターネットなどでニュースに触れ、著作権に関する事件や訴訟等についての報道に興味をもって接してもらいたい。大きなニュースがある場合には、随時、講義でも取り上げる予定である。

【授業計画】

第1回　はじめに－知的財産と知的財産権
第2回　法律入門－法体系の中の著作権法
第3回　著作物〔交通スローガン事件〕
第4回　著作権等の全体像
第5回　著作物の自由な利用－著作権の制限
第6回　著作者人格権〔三島由紀夫書簡事件〕
第7回　財産権としての著作権〔どこまでも行こう事件〕
第8回　著作隣接権
第9回　二次的著作物と編集著作物〔キャンディ・キャンディ事件〕
第10回　インターネットと著作権〔Winny事件（刑事事件）〕
第11回　商標Ⅰ－ブランドの守り方
第12回　商標Ⅱ、知的財産権の今後の課題

【評価方法】

毎回、講義の終わりに、その回の講義で出てきたキーワードを書くミニ・テストを提出してもらい、出席の有無と理解度を確認する。また、期末試験も実施する。成績は、出席回数および出席回のミニ・テストの成績と、期末試験の成績を、50％ずつの割合で評価する。

【テキスト】

未定

なお受講生には、特許庁から「標準テキスト－商標法」および知的財産権副読本が配布される予定である。

【参考文献・資料】

初回講義において紹介する。

言語表現Ⅰ（古典散文）

早川由美

【授業の概要】

近世の古典散文作品を対象として、前代の和歌、物語、随筆といった伝統文学や江戸市民文化との関係を検討しながら、近世散文独特の主題や様式について学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。テキストを利用しながら、関連する文学作品を適宜プリントして配布する。

1．ガイダンス（文学作品の享受のあり方）
2．以下、章ごとに講読、解説を行う。

【評価方法】

成績評価はレポートによって行う。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

吉原徒然草（上野洋三校注　岩波文庫）

【参考文献・資料】

徒然草

言語表現Ⅱ（古典詩歌）

人見恭司

【授業の概要】

『万葉集』の時代から『新古今集』の時代までの約六百年の間の、すぐれた歌人百人の歌を、一人につき一首ずつ集めた秀歌選（アンソロジー）である『百人一首』を取り上げる。和歌史の展開も考えながら、それぞれの歌を解説を加えながら読んで行く。

【授業計画】

1．『百人一首』概説－成立・歌風・影響－
2．『万葉集』時代の歌人と作品－天智天皇、柿本人丸ほか
3．六歌仙とその周辺（1）－安部仲麿、小野小町ほか
4．六歌仙とその周辺（2）－参義篁、僧正遍昭ほか
5．六歌仙とその周辺（3）－在原業平朝臣、藤原敏行朝臣ほか
6．『古今集』撰者時代の歌人と作品- 紀友則、紀貫之ほか
7．『拾遺集』時代の歌人と作品（1）－曾禰好忠、源重之ほか
8．『拾遺集』時代の歌人と作品（2）－右大将道綱母、儀同三司母ほか
9．一条朝の女流歌人とその作品－和泉式部、清少納言ほか
10．院政期の歌人とその周辺－能因法師、源俊頼ほか
11．『千載集』時代の歌人と作品－皇太后宮大夫俊成、藤原清輔ほか
12．『新古今集』時代の歌人と作品（1）－西行法師、式子内親王ほか
13．『新古今集』時代の歌人と作品（2）－権中納言定家、後鳥羽院ほか

【評価方法】

出席状況、小テスト、学期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

新潮古典文学アルバム11　百人一首（井上宗雄編集・執筆　新潮社）

【参考文献・資料】

角川文庫2618　百人一首（島津忠夫訳注　角川書店）
別冊国文学　百人一首必携（久保田淳編　学燈社）

言語表現Ⅲ（近代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

明治・大正文学を代表する小説を史的に展望しながら、日本の近代小説が時代・社会の問題とどのように切り結んだかという問題を検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して学ぶ。

【授業計画】

近代化と文学；近代小説がいかに〈近代〉なるものを表象しているのか、代表的な作品の精読を通じて考察する。

1．問題の所在；近代化と文学
　森鷗外「舞姫」、二葉亭四迷『浮雲』
2．自然の発見；「本当の私」という物語
　二葉亭四迷訳「あひゞき」
　国木田独歩『武蔵野』
3．地方文学青年というアイデンティティ
　田山花袋『田舎教師』
4．近代化と文学の想像力
　泉鏡花『高野聖』
　柳田國男『遠野物語』

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

武蔵野（国木田独歩　新潮文庫）
田舎教師（田山花袋　新潮文庫）
高野聖（泉鏡花　新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

言語表現Ⅳ（現代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように吸収し作品化しているか、あるいはどのように現代という時代を超える試みをしているか、といった点について具体的に学ぶ。

【授業計画】

異界を主題とした文学作品の検討。〈近代〉を相対化する時空としての異界という物語空間の持つ意味を考察する。

1．問題の所在：現代小説の方法と課題
2．佐藤春夫『西班牙犬の家』・萩原朔太郎『猫町』
3．江戸川乱歩「押絵と旅する男」
4．安部公房『壁』『砂の女』
5．村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』
6．池澤夏樹『静かな大地』

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

壁（安部公房　新潮文庫）
世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド（村上春樹　新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

言語表現Ⅴ（現代詩）

梅田卓夫

【授業の概要】

戦後から現在に至る現代詩史を踏まえ、各時代を代表する優れた詩作品を取り上げながら、現代詩における主題や様式や修辞に関する諸問題を学ぶ。

【授業計画】

次のテーマのもと、実際の作品や詩人を取り上げながら講義をすすめる。

第１回　現代詩前史から現代詩へ
第２回　詩とは何か
第３回　現代詩のことば
第４回　現代詩のリズム
第５回　散文詩について
第６回　叙情の質について
第７回　比喩について
第８回　象徴詩について
第９回　モダニズムの系譜
第10回　即物主義と批評精神
第11回　現実のデフォルメについて
第12回　詩は誰のために書くか

【評価方法】

出席状況、課題に対するとり組み、および定期試験による。

【テキスト】

特定のものは使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩文庫（思潮社）の各冊ほか

言語表現Ⅵ（現代短歌）

島田修三

【授業の概要】

主として現代短歌を題材として、「第二芸術論」以降の戦後短歌の革新、前衛短歌の試行、ポスト前衛の多様な展開といったプロセスを史的にたどりながら、短歌の創造と時代・社会との密接な相互関連性を学び、同時に短歌創作の基本を身につける。

【授業計画】

第１回　　現代短歌史概論
第２回～４回　現代短歌の「いま」
第５回～７回　戦後短歌の諸相
第８回～９回　前衛短歌前後
第10回～11回　ポスト前衛の系譜１
第12回～13回　ポスト前衛の系譜２

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート（短歌創作）・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代短歌の鑑賞101（小高賢編著　新書館）

【参考文献・資料】

授業中に適宜、指示する。

言語表現Ⅶ（戯曲・シナリオ）

松本喜臣

【授業の概要】

日本現代戯曲の代表的作品を対象として、現代を劇的に表現する戯曲のさまざまな特質を踏まえ、新しい戯曲表現の創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

No.1　戯曲の本質
No.2　戯曲と演劇
No.3　戯曲と演技
No.4　演劇の歴史
No.5　ギリシア悲劇
No.6　シェイクスピアの戯曲
No.7　フランス古典戯曲
No.8　近代劇の確立　イプセンの戯曲
No.9　日本の新劇と戯曲
No.10　現代劇と戯曲
No.11　戯曲の創作１
No.12　戯曲の創作２
No.13　単位認定に関するレポート作成

【評価方法】

出席状況・学習の態度・レポートなどによる綜合評価

【テキスト】

コトバ・ことば・言葉（本島勲著　桐原書店）

【参考文献・資料】

その都度授業内で紹介する

言語表現Ⅷ（児童文学）

酒井晶代

【授業の概要】

日本を代表する近代・現代の児童文学作品を取り上げ、児童文学のもつ基本的主題の変遷や変容をつぶさに検討し、「子どもの文学」創造の諸問題を学ぶ。

【授業計画】

1980年代以降の作品を中心に、現代児童文学を読む。戦後の児童文学は50～60年代の「童話伝統批判」によって大きく転換し、70年代の「タブーの崩壊」を経て、80年前後に再び分岐点を迎えたと言われる。児童文学はいま、何を描き、どのような課題に直面しているのだろうか。講義では主として短編作品を題材とし、作品に現れた子ども観・児童文学観の検討を通して、現代児童文学の特徴を明らかにしたい。同時に、明治から昭和前期の代表的な作品との比較を通して、現在の到達点と課題を歴史的な視座からも考察する。

第１～２回　現代児童文学の成立まで
第３回　ときありえ「森本えみちゃん」
第４回　那須正幹「六年目のクラス会」
第５回　森忠明「楽しい頃」
第６回　村中李衣「たまごやきとウインナーと」
第７回　岩瀬成子「ダイエットクラブ」
第８回　大石真「光る家」
第９回　薫くみこ「はじめての歯医者さん」
第10回　天澤退二郎「赤い凧」
第11回　牧野節子「赤い靴」
第12回　上野瞭「ぼくらのラブ・コール」

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学―新しい潮流―（宮川健郎編著　双文社出版）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

視聴覚表現Ⅰ（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

戦後の日本映画黄金時代における代表的作品を対象として、ヨーロッパ・アメリカ映画などとの比較の視点を導入しながら、日本映画が編み出した独自の様式と美について学ぶ。

【授業計画】

世界映画形成期（1895～1932）

世界映画史は、1895年12月28日のルミエール兄弟の映画上映会に始まる。1910年代まで「映画」というものは、ほんの５～６分程度の単純なものにすぎなかった。その後次第に、技術的にも「話術」的にも発達を遂げ、本格的な芸術媒体として展開していく。

この授業では、1920年代～30年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。

１．映画以前と映画誕生
２．E.S.ポーターと映画編集
３．D.W.グリフィスと「古典的ハリウッド作法」
４．ドイツ映画の黄金期
５．ロシア映画とモンタージュ論
６．トーキー映画の到来

1.と2.は一週間ずつ、３～６は各二週間予定。

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される。

学期末試験の代わりに、二つの分析的エッセイ（400字詰めの原稿用紙３－４枚ずつ）を提出する

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

視聴覚表現Ⅱ（演劇）

角田達朗

【授業の概要】

私たちが通常目にする「舞台」は、上演を観客よりも一段高い所に置いて見えやすくするための台に過ぎないかのようである。しかし、歴史的に見れば、舞台の形は様々に変化している。そして、その変化は、上演そのものの変化に密接に対応している。この講義では、舞台および劇場の歴史的変化を踏まえながら、舞台の形式や構造が上演とどのようにかかわりあうかを論ずる。また、現代劇については、照明・音響並びに映像による舞台効果についても説明する。

【授業計画】

ビデオ・静止画等の視聴覚資料も用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、鑑賞課題を設定してレポートの提出を求め、これに基づいて授業を展開するものとする。（上演鑑賞のため、３～５千円の経費を要する。）

第１回　演劇とは何か。
第２回　古代ギリシア劇
第３回　能１
第４回　能２
第５回　狂言
第６回　歌舞伎
第７～12回　鑑賞課題をめぐって
＊第１回の授業で受講上の注意事項を説明する。

【評価方法】

鑑賞課題鑑賞ノート・鑑賞課題劇評

【テキスト】

プリントを配布する。
＊鑑賞課題がテキストと同等の意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

視聴覚表現Ⅲ（アニメ・コミック）

小菅健一

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある典型的な現代コミック作品や宮崎駿などのアニメ作品を題材として、アニメ・コミック作品が現代文化の中で果たしている重要な役割やその新しい芸術的性格について学ぶ。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　コミックとアニメーションの基本概念
第３回　手塚治虫論
第４回　手塚治虫のコミック１
第５回　手塚治虫のコミック２
第６回　手塚治虫のアニメーション
第７回　宮崎駿論
第８回　宮崎駿のコミック
第９回　宮崎駿のアニメーション１
第10回　宮崎駿のアニメーション２
第11回　現代文化におけるコミック
第12回　現代文化におけるアニメーション
第13回　授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

視聴覚表現Ⅳ（絵本・イラスト）

近藤文雄

【授業の概要】

絵本やイラストにおける絵画と言語表現との相互補完的な性格を理解し、絵画やイラストにおける想像力の問題や言語とは異なる芸術的特長といった基本的な問題を具体的作品に即しながら学ぶ。

【授業計画】

第１回　授業展開の概要説明・絵本（イラスト）の特色と意義
第２回　絵本（イラスト）の分野と可能性
第３回　絵本（イラスト）の表現の多様性
第４～11回　オリジナル絵本の制作（アイデアから製本まで）
第12回　作品発表・合評会

【評価方法】

出席状況と課題（実作品）提出による。

【テキスト】

授業内でプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で実作品あるいはプリント等で紹介するが、各自、積極的に書店や図書館等で数多くの絵本やイラストに親しむように努めること。

メディア表現Ⅱ（編集・出版）

稲垣喜代志

【授業の概要】

現代メディアを代表する新聞や雑誌・書籍を対象として、それらがどのように編集され、完成した姿として製作されるかという具体的な過程および、その技術や方法に関する実践的な知識を学ぶ。

【授業計画】

1．オピニオンリーダーとしての新聞の理念と役割。
2．新聞に何ができるか。
3．日本の新聞の現実はどうか？　紙面分析。
4．新聞は庶民の味方か？　真実を伝えているか？
5．新聞はどのようにしてつくられるか。
6．映像による意識操作によってどのように世論をつくりあげるか。
7．文化の中央集権とその弊害。
　・合理化と地方の切り捨て。
　・東京に行かなければ何もできない!?
8．出版における中央と地方。地方で何ができるか。
9．アカデミズムと在野
10．出版の理念とは？　出版は文化の砦（とりで）である。
11．編集者の「志」とは？
12．ものを書くという仕事とは？
13．著名であることと人間の価値。
14．出版のシステムとプロセス。

【評価方法】

受講態度（積極的発言など）、テストなどによる。

【テキスト】

文化は地域から発信せよ
（稲垣喜代志著　日本エディタースクール出版部刊　予価1,800円）

【参考文献・資料】

図書新聞
（週刊、図書新聞社刊　定価240円　半年定期講読料・送料共6,240円）

メディア表現Ⅰ（新聞）

岩崎建弥

【授業の概要】

主として現代メディアを代表する新聞を取り上げ、新聞ジャーナリズムが現代社会で果たす機能や課題について検討し、その具体的な紙面作りの知識や技術を実践的な視点を通して学ぶ。

【授業計画】

ジャーナリストの感覚、考え方を新聞紙面や現場体験に基づいて伝え、身につけてもらう。

1．メディアとは何か－生活と情報
2．新聞はなぜ生まれたのか－権力との対決
3．新聞と放送はどこが違う？－記録性と速報性
4．なぜ新聞記者になったのか－戦争と貧困
5．新聞はどう作られる？－新聞社の仕組み
6．新聞作りの現場を知る－新聞記者の生活
7．紙面はどう違う－１面から社会面まで
8．新聞は何を伝えてきたか（A）－戦争と新聞
9．新聞は何を伝えてきたか（B）－公害と新聞
10．新聞は何を伝えてきたか（C）－人権と新聞
11．誤りはなぜ起きるのか－誤・虚報と紙面ミス
12．記事はどう書く？－取材から原稿書きまで
13．記事を書こう－模擬記者会見をし、まとめる
14．単位認定レポートの提出
（希望者は新聞社の見学を予定）

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

ニュース関連のビデオと講師作成のもの

メディア表現Ⅲ（広告・コピー）

馬場伸彦

【授業の概要】

サブカルチャー領域にあるとされてきた広告コピーにおける表現の諸相を実際の作品に触れながら検証し、大衆文化と不可分でありながら、それを超え導く言語表現としての新しい広告コピーの創造について学ぶ。

【授業計画】

広告は私たちの価値観や美意識の形成に大きく作用し、影響を及ぼしている。しかし、広告が表象する「場」は表現者側にあるのではない。広告は、メディアを介して、視覚的あるいは聴覚的に受容されたときにはじめて立ち現れる。つまり広告の表現上の本質は「つくられる意味」にあるのだ。本講義では、まず、広告コミュニケーションの構造を受容論の立場から検討し、次に、実例を参照しながら「広告」「コピー」の読解に対する諸問題を検討していく。

・広告の起源、広告の機能
・文案家（コピーライター）の登場と大衆社会
・近代広告理論の導入期（明治・大正・昭和初年代）
・広告の記号論的分析
・広告コミュニケーションの理論
・広告の公共性
・広告の現状と展望

【評価方法】

期末レポート（課題または小論文）、講義時間内における課題、受講態度等を総合的に評価する。講義形式ではあるが、積極的に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用せず、随時プリントを配布。

【参考文献・資料】

広告コピー概論（上条則夫　宣伝会議）
記号論への招待（池上嘉彦　岩波新書）
現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編　世界思想社）

メディア表現Ⅳ（ヴィジュアル表現）

川澄未来子

【授業の概要】

表現文化を伝達するメディア領域の、主にコンピュータによるヴァーチャル表現の分野について、技術と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

コンピュータ教室で、電子的な教材や映像教材を利用しながら進める。

（1）写真撮影
（2）動画撮影
（3）映像編集
（4）モデリング
（5）マテリアル
（6）アニメーション
（7）シーン構築
（8）プロダクションワーク
（9）数理造形
（10）映像制作を支える技術
（11）知的財産権

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。

表現創造原理Ⅰ（フィクション生成論）

清水良典

【授業の概要】

表現文化においてフィクションの成り立ちを支える文体の発生と構造を原理的に学ぶ。

【授業計画】

第１講　講義内容の説明
第２講　近代文学と〈文〉の関係について
第３～５講　〈文〉の歴史と諸相
第６～10講　谷崎潤一郎『文章読本』講読
第11講　〈文〉と虚構
第12講　書くことの可能性

【評価方法】

出席状況と受講態度、およびレポート内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

文章読本（谷崎潤一郎　中公文庫）
自分づくりの文章術（清水良典　ちくま新書）

表現創造原理Ⅱ（身体美学）

勝部篤美

【授業の概要】

美しい身体と、美しい運動が具現化される道筋を学ぶ。

【授業計画】

1．身体イメージ論
2．身体の静態美（美しいからだ）
3．身体の動態美（美しいからだの動き）
4．動きに内在する美的要素
　すばやさ、加速性、リズム、広さ、高さ、重さ、強さ、激しさ、しぶとさ、器用さ、正確さ、バランス、華やかさ、エロス、スリル、柔らかさ、滑らかさ、上品さ
5．動きの表現

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績および出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。ノート、プリント、VTR を使用する。

表現創造原理Ⅲ（記号論）

担当者未定

【授業の概要】

表現文化における言語と記号の構造を原理的に学んだ上で、記号論的な文化認識を深める。

【授業計画】

1．従来までの書籍（本）を読むこと・語ること・語り合う・書くこと等の、いわゆる文字言語中心の表現文化から、現代は映像・メディア・音声（音楽）・行為（ダンスやファッション）等による表現文化中心に拡大してきている。コンピュータやインターネットが子ども達のゲームレベルにまで浸透する一方、宇宙規模の情報戦略はサイバースペース（架空の電脳空間）と真実の境界を曖昧にもしはじめている。
2．講義内容は次のようなことを予定している。
（1）主として「現代の文学」を記号論的に取り上げる。メディアコミュニケーションの一つの方法・現象として現代の文学・作家作品・方法や構造を扱う。重松清、江國香織、山田詠美等。
（2）表現文化における言語と記号の構造（方法・スタイル・メッセージ・思想）等の原理の理解。メディア・リテラシー論、コミック・アニメ分析等。
（3）記号論的な文化認識のために、映画・演劇・音楽・ファッション・メディア等との関係、時代状況と文化形成（発信と受容・創造）のありかた等を、記号論的な文化認識論として考察する。

【評価方法】

1．出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
2．小レポートの内容等を予定している。

【テキスト】

講義で指示します。その他、配布プリント等による。

表現創造原理Ⅳ（レトリック論）

永井聖剛

【授業の概要】

表現文化の主に言語表現におけるレトリックについて、体系的原理的な知識と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

1．レトリックとは何か
　レトリックの歴史、説得術と修辞
2．直喩（simile）
3．隠喩（metaphor）
4．提喩（synecdoche）
5．換喩（metonymy）
6．さまざまな表現形式におけるレトリック
　文学作品とレトリック、映画とレトリック、マンガとレトリック、など
7．まとめ（表現行為とレトリック）

【評価方法】

授業への出席状況、学期末の試験によって評価する。

【テキスト】

なし（プリントを配付する）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現技術Ⅰ（日本語表現法 A）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

言語による表現文化の要である文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通して身につける。

【授業計画】

第1講　自分にしか書けないものを
第2講　語りの工夫（野坂昭如）
第3講　母語で書く（目取真俊）
第4講　自己の発見（金子光晴）
第5講　引用という技法（水村美苗）
第6講　表記をめぐる試み（水村美苗）
第7講　意識の流れ（V.ウルフ）
第8講　模倣と創造（国木田独歩）
第9講　音としてのことば（森鴎外）
第10講　越境するジェンダー（太宰治）
第11講　一人称の選択（夏目漱石）
第12講　なぜ書くか（村上春樹）
第13講　単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現技術Ⅱ（日本語表現法 B）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通してさらに高める。

【授業計画】

第1講　文章表現の実践のために：メモと推敲
第2講　ことばであそぼう
第3講　まねをしてみよう
第4講　実作と鑑賞
第5講　三人称で書いてみよう
第6講　実作と鑑賞
第7講　続きを書いてみよう
第8講　実作と鑑賞
第9講　観察して表現しよう
第10講　実作と鑑賞
第11講　身体を表現しよう
第12講　実作と鑑賞
第13講　単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現技術Ⅲ（クリエイティブ・ライティング）

梅田卓夫

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1．「書く」とはどういうことか
2．イメージを伝える
　「水の音楽」
　相互批評1
3．文章は「断片」から構成する
4．記憶を“つくる”
　「場所の記憶」
　相互批評2
5．人間を書く
　「私の出会った人物」
　相互批評3
6．ジャンルを超える文章表現～「純文章」へ

【評価方法】

提出作品と授業への取り組みによる。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著　ちくま学芸文庫）

表現技術Ⅲ（クリエイティブ・ライティング）

永井聖剛

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

明治30年代に雑誌「ホトトギス」誌上で展開された〈写生文〉運動に学びながら、創造的な文章表現の方法を学ぶ。夏目漱石の『吾輩は猫である』がそもそも写生文を書くつもりで書かれたものであることはよく知られているが、その写生文がいかなるものであるのかは意外と知られていない。履修者には実際に写生文の課題に取り組んでもらうが、書くことを通して小説のナラティブ（語り）についての基礎的な知識も身につけてもらうつもりである。

1．ガイダンス
2．写生文とはどういう「文」か？
3．写生文課題（1）「眼前のものを写生せよ」
4．写生文課題（2）「言葉を写生せよ」
5．写生文課題（3）「五分間記事」
6．写生文の可能性とその限界
7．小説の語りについて（人称/描写と叙述/時制など）
8．三人称の小品文を書いてみる
9．まとめ

【評価方法】

出席状況、提出作品などによる

【テキスト】

なし（プリントを配布する）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現技術Ⅳ（映像表現法）

吉村英夫

【授業の概要】

映像による表現文化の基礎的な技術と知識を学びながら、創造性と独創性を身につける。

【授業計画】

外国映画を題材にして考察をすすめる。クラシック映画を実際に見て楽しみながら、映像表現の特徴や映画作家について考察する。特に、チャップリン映画を研究するが、オードリー・ヘプバーンとその周辺をさぐりながら、映画表現の特質やハリウッドの歴史についても考察する。

第１回～第７回
　チャップリンの天才はどこに表れているか。無声映画のコメディからトーキー映画で社会的発言をするチャップリン映画を考察する。参考上映は『キッド』『街の灯』『モダン・タイムス』『独裁者』『チャップリンの殺人狂時代』など。また、チャップリンの生涯についても勉強しよう。

第８～第12回
　『ローマの休日』について考えよう。この映画は隠された奥深い意味を持っている。ヘプバーンについてもっと知ろう。監督ウィリアム・ワイラーを見直してみよう。1950年前後のハリウッドの歴史をひもとく。参考上映は、ヘプバーン作品、ないしはワイラー、その他の作品を予定。『麗しのサブリナ』ほか。

第13回
　テストを実施

木曜昼食時に「映画雑談」会を有志で実施する。

【評価方法】

テスト、出席、レポート（雑文風感想）などによる。

【参考文献・資料】

＊誰も書かなかったオードリー（吉村英夫　講談社＋α文庫　定価780円）

【その他】
教科書は使用しないが、授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は受講生の書いた文章を掲載することを原則としており、先輩諸君から引き続いての通信であって、５年目を迎える。受講生の交流の広場になっている。

表現技術Ⅴ（身体表現法）

勝部篤美

【授業の概要】

身体の巧みな動作によって、理念・心情を的確に表現するための知識と技術を学び、個性的表現の創造性を身につける。

【授業計画】

1．体格・体型論（からだつき）
2．姿勢表現論（姿勢が語るもの）
3．動作表現論（身振り、仕草、素振り、動作）
4．心理表現論（彫像に見る）
　高揚、喜び、憧れ、ためらい、嘆き、悲しみ、悔しみ、もだえ、あきらめ、考え。

以上のような心理状態にある場合、それが美術作品、とくに幾多の彫刻にはどのように表現されているかを、スライドやVTRによって詳細に観賞する。

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布。VTRを多用する。

表現技術Ⅵ（コミック・デッサン）

とりいかずよし

【授業の概要】

コミックやイラストレーション制作の入門講座として、コミック・デッサンの基礎的な知識と技術を、主に実習を通して身につける。

【授業計画】

コミックデッサン技法（基礎編）
（1）手、足の画き方　（2）顔の画き方　（3）骨格の画き方　（4）多様なアングルの画き方　（5）デフォルメする画き方
※以上を修了後、ペン、スクリーントーン、色付け等の技法に移る。

【評価方法】

（1）物を多角的に観て的確に画く能力
（2）画くことに創意工夫がある
（3）絵の巧拙

【テキスト】

ジャンル別コミック誌、イラスト集、写真集、ヌード写真集等

【参考文献・資料】

テキストと多分に重複します。

表現技術Ⅶ（静止画編集）

石丸 緑

【授業の概要】

DTPの基礎となるコンピュータによる画像・図形処理及びテキストの編集の基礎を学習し、作品制作までを行う。さらに画面構成の実習により、レイアウトの基本を体得する。

【授業計画】

1　ガイダンス（DTPの概要）
2　画像の編集・加工－写真の取り込み、切り抜き
3　画像の編集・加工－レタッチ
4　テキストの編集・加工- 入力・文字組の知識
5　テキストの編集・加工- ロゴ・マークの作成
6　レイアウト手法－知識
7　レイアウト手法－実践
8　出力（印刷）の知識
9　課題制作－コンセプトとラフスケッチの作成
10　課題制作－素材の制作
11　課題制作－素材の制作
12　課題制作－出力・仕上げ
13　講評

【評価方法】

出席状況と提出課題
（3課題）の評価採点。

【テキスト】

CGデザインの入り口（石丸みどり著　株式会社マナハウス発行）

表現技術Ⅷ（動画編集）

藤原孝幸

【授業の概要】

コンピュータとその周辺機器（ビデオカメラ等）を利用して、デジタル映像の撮影・取り込み・加工・編集の技能を習得する。

【授業計画】

実習などと連動しながら全体を3期に分けて進める。

第1期
　デジタル映像の解説とあわせて、映像コンテンツとしての作成する過程を学ぶ。また、動画を作成するためのリテラシを学ぶ。

第2期
　ソフトウェアでの動画の作成、動画を作成するための素材を取り込む技術を学ぶ。

第3期
　動画の作成実習および、作品紹介と相互評価（総合演習）

【評価方法】

レポートと出席点による総合評価による

【テキスト】

資料を配布する

【参考文献・資料】

特に無し

表現文化研究Ⅰ

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（シナリオ創作）

第1回　脚本の歴史（祭祀からテレビドラマまで）
第2回　脚本家の仕事とその実際
第3回　小説とシナリオの相違（作品を通して）
第4回　ジャンルによる脚本の書き分け方
第5回　シナリオ講読
第6回　シナリオ講読
第7回　シナリオの書き方（基礎技術）
第8回　シナリオの書き方（描写・手法）
第9回　演習（シーンを書く）
第10回　戯曲講読
第11回　戯曲講読
第12回　戯曲の書き方（シナリオとの対比）
第13回　演習（場を書く）

【評価方法】

出席状況と提出された演習課題などによる。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術（新井一著　ダヴィッド社）

【参考文献・資料】

あ・うん（向田邦子　文春文庫）
あ・うん（向田邦子　新潮文庫）
あ・うん（NHKビデオ）

表現文化研究Ⅰ

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（新聞）

メディア表現Ⅰ（新聞）を受けて、より具体的、専門的にメディアの役割と表現について学ぶ。

1．メディアの役割とは何か－時代と人間
2．新聞記者はどう考えるのか－世界を見る目
3．歴史に学ぼう－戦争と日本人
4．歴史に学ぼう－差別と日本人
5．取材の現場から－事件と新聞
6．取材の現場から－生活と新聞
7．取材の現場から－文化と新聞
8．取材の現場から－スポーツと新聞
9．取材を学ぶ－新聞の文章
10．取材を学ぶ－インタビューの仕方
11．取材を学ぶ－原稿の書き方
12．人権とプライバシー－事件報道から
13．人権とプライバシー－映画から
14．単位認定レポートの提出

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

現代ジャーナリズムを学ぶ人のために
（田村紀雄・林利隆編・大井眞二編　世界思想社）と講師作成のもの

表現文化研究Ⅰ

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（現代詩）

現代詩の実作を前提としつつ、各自が「詩とは何か」というとらえどころのない問いに、ただ「形」の上からだけでなく「詩精神（ポエジー）」においても迫ることができるように演習を積み重ねる。

そのために敢えて井上靖などの散文詩を継続的に講読し、「散文の中の詩」「詩の中の散文」を考えていく。

一方、過去の代表的な詩人と作品をとり上げて、グループごとの発表形式と討論で、作品の分析・鑑賞・批評の目を養うとともに、実作への力量をたかめる。

第１回　授業の進め方、グループ分け
第２回　「現代詩」の歴史的位置づけ
第３回　萩原朔太郎の作品
第４回　金子光晴の作品
第５回　丸山薫の作品
第６回　西脇順三郎の作品
第７回　戦後の詩人（１）
第８回　戦後の詩人（２）
第９回　谷川俊太郎の作品
第10回　現代の詩人（１）
第11回　現代の詩人（２）
第12回　詩とは何か～実作へむけて

【評価方法】

授業中とその前後における各人の取り組み、およびレポート（作品）による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

井上靖全詩集（新潮文庫）
詩ってなんだろう（谷川俊太郎著　筑摩書房）

表現文化研究Ⅰ

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（映画研究）

映画を文化及び産業という側面からとらえ、映画がそれぞれの国で果たしている役割を、前期は日本映画、後期はアジア映画を中心に講義する。前期は日本映画の歴史、サイレントからトーキー、白黒からカラーへ変遷する技術の進歩と、政治、経済面から見た映画人の活動を考察する。特に、彼らがそれぞれの時代をどうとらえたか、物の見方（視点）を中心に話を進める。又、撮影所、シネマコンプレックスなどの現場を訪れ、映画の産業的な側面にふれる。

1．日本映画の現状。製作、配給、興行について
2．日本映画の誕生とその展開
3．サイレントからトーキーへ
4．戦時下の日本映画
5．戦後映画の展開
6．黄金時代を築いた監督たち
7．松竹ヌーベルバーグのもたらしたもの
8．80年代から90年代の監督たち
9．撮影所、シネマコンプレックス訪問
10．小津安二郎、今井昌平、大島渚、北野武の監督研究

【評価方法】

日本映画を３本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅰ

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現研究）

ヴィジュアル表現の基本要素である「形」「色」「質感」に関する基礎知識の習得を目的として、次の（１）～（３）を繰り返し実施する。

（１）テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチテーマを選定する。

（２）リサーチ

文献調査（検索・収集・講読）、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。

（３）プレゼンテーション

各種メディア（スライド・ポスター・映像など）を利用して、リサーチ結果について効果的にプレゼンテーションする。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅰ

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（アニメ・コミック研究）

第１回　オリエンテーション（コミックとアニメ）
第２回　大友克洋（１）「童夢」
第３回　大友克洋（２）「MEMORIES」
第４回　大友克洋（３）「AKIRA」
第５回　押井守・士郎正宗「攻殻機動隊」
第６回　押井守（１）「イノセンス」
第７回　押井守（２）「人狼」
第８回　新海誠「ほしのこえ」
第９回　岡崎京子（１）「PINK」
第10回　岡崎京子（２）「リバーズエッジ」
第11回　大島弓子「綿の国星」
第12回　少女漫画
第13回　授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化研究Ⅰ

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（児童文学）

＜日本児童文学の代表作を読む＞

子どもの文学は、近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら変化してきた。近代を中心に代表的な児童文学作品を読みあいながら、日本児童文学史の流れを把握すると同時に、教育や文学、あるいは文化のなかの「子どもの文学」の位相と変容を考察したい。同時に、それぞれの作者たちが子ども読者に向けて「なにを」「どのように」手渡そうとしたのかを探り、子どもの文学の独自性を考える場としたい。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に作品を読み進めていく。テキストと丁寧に向き合い、自らの問題意識を発見すること。問題を解くための手がかりを収集し、分析すること。質疑応答を通して、さらに考察を深めること。これらを通して、作品を主体的かつ創造的に読み解く面白さを発見できたらと思う。

なお、夏休みを利用して児童文学関連施設の見学旅行を実施する予定。

第１回　　半期間の計画提示、文献検索方法など
第２～５回　明治期の作品
第６～９回　大正期の作品
第10～12回　昭和戦前期の作品

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

日本児童文学名作集〈上・下〉（桑原三郎・千葉俊二編　岩波文庫）
はじめて学ぶ日本児童文学史（鳥越信編　ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅰ

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（短歌）

第１回　　授業計画に関する討議
第２回　　前衛短歌に関する基礎講義
第３回　　ポスト前衛短歌に関する基礎講読
第４回～11回　テキスト講読演習と討議
第12回～13回　総括討議

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表・授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代歌人文庫　春日井建歌集（国文社）

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌文庫（砂子屋書房）
現代短歌全集　第１巻～第17巻（筑摩書房）

表現文化研究Ⅰ

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（小説創作）

本講座では、現代文学の代表的な作家、村上春樹、村上龍、笙野頼子、川上弘美、町田康らの代表作品を研究討議することを通して、現代小説の特質と技法を学ぶ。

第１回　概要説明とグループ分け
第２回　村上春樹『羊をめぐる冒険』研究発表
第３回　同　共同討議
第４回　村上龍『69』研究発表
第５回　同　共同討議
第６回　笙野頼子『レストレス・ドリーム』研究発表
第７回　同　共同討議
第８回　川上弘美『物語が、始まる』研究発表
第９回　同　共同討議
第10回　町田康『くっすん大黒』研究発表
第11回　同　共同討議
第12回　現代文学の転換点概説

なお夏期休暇中の９月上旬に宿泊を伴うゼミ合宿をおこなう予定。

【評価方法】

出席状況とレポートの内容、討議への参加態度で総合的に評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険（村上春樹　講談社文庫）
69（村上龍　集英社文庫）
レストレス・ドリーム（笙野頼子　河出文庫）
物語が、始まる（川上弘美　中公文庫）
くっすん大黒（町田康　文春文庫）

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典　毎日新聞社）

表現文化研究Ⅰ

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と演技とがどのように関連するかを知るために、演技することを想定して戯曲を実践的に読む。演技力の向上を第一義とするものではなく、したがって演技の優劣を競うものではないが、演技するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月１～２本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、１万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅰ

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（編集・広告）

私たちは情報消費社会とでもいうべき時代相のなかにいる。多くの事象は、身体的経験に先行し、メディアを媒介に「情報」としてもたらされ、消費されていく。本来、現実と地続きであった出来事は、情報的体験として転倒している。ここにリアリティの混乱が生起する要因がある。「表現」という問題を考えるとき、メッセージが表象化される場（空間・環境）である「メディア」の問題を抜きに語ることはできない。それは編集された構造物なのであるからだ。従って、「表現行為」において重要なのは、第一にメディアの理解であり、次に編集によって方向づけられたメッセージがどのように作用するのか、構造や仕組みを理解し、その方法論を獲得することである。

本授業では「メディア論」の基本文献であるマクルーハンの『メディア論　人間の拡張の諸相』を精読することを通じて、メディア（広告、新聞・雑誌、テレビ、映画）の理解を深めると共に、メディア受容に対する批判能力を養うことを目的とする。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

メディア論　人間の拡張の諸相（M.マクルーハン　栗原裕・河本仲聖訳　みすず書房）

【参考文献・資料】

マクルーハン理論（M.マクルーハン・E.カーペンター　平凡社）
メディアの理論（フレッド・イングス　伊藤誓・磯山甚一訳　法政大学出版局）
メディアと情報化の社会学〈岩波講座現代社会学22〉
（井上俊・上野千鶴子他編　岩波書店）
社会情報学２メディア（東京大学社会情報研究所編　東京大学出版会）

表現文化研究Ⅰ

とりいかずよし

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（マンガ創作）

ストーリー概論（１）
・感性の磨き方
・発想の見つけ方

【評価方法】

感性、発想力の有無

【テキスト】

適時にて用意します。

【参考文献・資料】

授業を進めて行く中で用意

表現文化研究Ⅰ

永井聖剛

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（小説研究）

1910年代の短編小説を読む。1910年代は、明治期の作家たちがそれぞれの活動を継続する一方で、次世代の作家たち（谷崎潤一郎、志賀直哉、佐藤春夫、芥川龍之介など）が、新しい形式・文体、内容の作品を携えて次々と登場・活躍してくる時代である。履修者には、それら新しい作家たちの作品を読解し、それについて論じていくなかで、文学作品を読むための論理を身につけてほしい。

最初の授業でガイダンスとともに、作品リストを配布する。履修者はその中から関心のある作品を選び、担当教員のアドバイスを得ながら、文献に目を通し、レジュメを作成し発表。参加者全員で討議する。

1　ガイダンス（発表の担当者決めなど）
2・3　授業担当者による講義
4～12　演習（発表担当者による報告と討議）
13　まとめ

【評価方法】

授業（出席・発言）50%、発表・レポート50%

【テキスト】

志賀直哉『清兵衛と瓢箪・網走まで』（新潮文庫）
谷崎潤一郎『潤一郎ラビリンスⅠ初期短編集』（中公文庫）
その他の作品については、作品リストを最初の授業時に配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究Ⅱ

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（シナリオ創作）

第１回　オリジナル作品創作に向けて
第２回　講読と演習（テーマの発見）
第３回　講読と演習（アイデアの創出）
第４回　講読と演習（ストーリー作り）
第５回　講読と演習（構成）
第６回　講読と演習（人物描写）
第７回　講読と演習（時代考証・取材）
第８回　講読と演習（シーンとカット）
第９回　講読と演習（ファーストシーン）
第10回　講読と演習（回想と時間処理）
第11回　講読と演習（クライマックス）
第12回　講読と演習（セリフとト書きの間）
第13回　講読と演習（裏切りと沈黙の効果）

【評価方法】

出席状況と提出されたオリジナル作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術（新井一著　ダヴィッド社）

【参考文献・資料】

ふじたあさやの体験的脚本創作法（ふじたあさや著　晩成書房）
映画テレビシナリオの技術（新井一著　ダヴィッド社）

表現文化研究Ⅱ

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（新聞）

表現文化研究Ⅰ学んだことを、より実践的に深め、ジャーナリストのセンスを身につける。

1．新聞を読む－1面から社会面、経済面、生活面、文化面、運動面、地域版までを読み、その性格や記事表現の違いなどを知る。
2．インタビューをする－テーマを与え、受講生同士の取材や模擬記者会見を通じて、事前の準備や応対の態度、質問の仕方、内容などを学ぶ。
3．写真を撮る－人物撮影や季節のスケッチの仕方を学ぶ。
4．原稿を書く－インタビューしたことや模擬事件を限られた時間内に原稿にまとめる。
5．単位認定レポートの提出。

1、2、4は、2～4回続ける。

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

中日新聞ほかの紙面と講師が用意する資料による

表現文化研究Ⅱ

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（現代詩）

受講者が原則として全員、現代詩の実作を継続的に行うものとして、授業を組み立てる。

詩の形式や技法をいくつかの課題（テーマ）として設定した上で、各自が実作を試み、提出された作品を合評形式により分析・批評・評価し合い、さらに優れたものへと練り上げていく。

一方、詩の創作・合評の過程で、各自がとらえた詩作上の問題や、過去の詩人たちの作品についての、自分の考えを深めて初歩的な詩論を試みる。

第1～3回	発想～詩（ポエジー）のとらえ方、描写、韻律、比喩
第4～6回	詩の<一行>、「自由詩」の形、「内在律」という考え方
第7～9回	定型詩、短詩、アフォリズム、定義、論理性と飛躍
第10～12回	散文詩、詩のことば・散文のことばアレゴリー、メタファー

＊　なお上記のブロックごとに作品の実作と合評（相互批評）をおこなう。

【評価方法】

作品（レポート）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

表現文化研究Ⅱ

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現研究）

学術論文の形態に慣れ、読みこなすことを目的として、次の（1）～（3）を繰り返し実施する。

（1）文献選定

提示されたいくつかの学術論文の中から、講読を担当するものを選定する。

（2）文献講読

関連文献の調査（検索・収集・講読）も交えながら、（1）の文献に対する理解を深める。

（3）レジメ作成と報告

（1）の文献の内容を簡潔にまとめ、報告会にて他者にわかりやすく伝える。質疑時間を通じて、参加者全員が理解を深める。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅱ

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（映画研究）

80年代後半よりアジア映画の躍進が目覚ましい。中国語圏では、中国の陳凱歌（チェン・カイコー）、張芸謀（チャン・イーモウ）、香港のジョン・ウー、ウォン・カーウァイそして俳優・監督として活躍するジャッキー・チェン。台湾では侯孝賢（ホウ・シャオシェン）、エドワード・ヤンが活躍する。そしてここ2、3年、驚くべきパワーを発揮しているのが韓国映画。これらの国の映画人は、文化大革命、天安門事件、光州事件など政治に大きな影響を受けながらも、着実に自分たちのメッセージを発信している。その活力の源泉を、歴史、時代背景そして民族的観点から考察する。

1．アジア映画の現状。製作、配給、興行について
2．中国第五世代の誕生
3．香港映画の魅力
4．台湾映画の光と影
5．躍進する韓国映画
6．現代史とアジア映画

各コマ2週間の予定

【評価方法】

アジア映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅱ

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（アニメ・コミック研究）

第１回　　オリエンテーション
第２回　　話題のコミック作品をめぐる共同討議
第３回　　話題のアニメーション作品をめぐる共同討議
第４～12回　受講者の発表演習
第13回　　授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、発表レポートの内容、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント教材とビデオ教材。受講者各人の選択した発表作品。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（児童文学）

＜児童文学の創作と研究・評論＞

子どもの文学は、従来、大人の文学とは異なる特性を持つものとされてきた。子ども文化の多メディア化が進行し、子どもと大人の境界が問われる時代を迎えたいま、子どもの文学とは何か。「なぜ」、「なにを」、子どもに向けて書くのか。「表現文化研究Ⅰ」で学んだ歴史的知識を踏まえながら、作品を読み、書き、相互に批評する営みを通して、子どもの文学をめぐる諸問題や可能性を問う場としたい。

授業は、受講者が執筆した児童文学作品と評論の合評を中心に進めていく。あわせて近年の創作児童文学を批評的に読みあい、一連のプロセスを通して、自作の推敲や、作品を研究・批評する態度を身につけていきたい。

第１回　　半期間の計画提示など
第２回～　創作と評論の執筆・推敲・合評

・前半は課題に沿った作品を、後半は自由テーマでの作品をそれぞれ執筆する。いずれも主に自宅で執筆し、授業では合評が中心になる予定。

【評価方法】

出席状況、提出作品、合評会での発言などにより総合的に行う。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅱ

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（短歌）

第１回　　演習のテーマに関する調整と討議
第２回　　受講者の課題の確認と方向づけ
第３回～12回　創作実習と発表演習
第13回　　総括

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表および課題創作作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌文庫（砂子屋書房）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『短歌研究』（短歌研究社）、『歌壇』（本阿弥書店）

表現文化研究Ⅱ

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（小説創作）

本講座では、小説を主とする散文創作を試み、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を探求する。

あらかじめ夏期休暇中に20枚程度の創作を書いて、第１回の授業で提出すること。

第１回　　作品提出と討議
第２～６回　作品相互批評
第７回　　対物描写とイメージ
第８回　　相互批評
第９回　　対人描写
第10回　　相互批評
第11回　　自然描写
第12回　　相互批評と総括

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって演技やスタッフ・ワークの優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月１～２本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、１万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅱ

とりいかずよし

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（マンガ創作）

ストーリー概論（２）

・テーマの見つけ方

・話の組み立て方

【評価方法】

構成力の有無

説得力があるか

【テキスト】

適時にて用意します。

【参考文献・資料】

授業を進めて行く中で用意

表現文化研究Ⅱ

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（編集・広告）

広告は社会的なコミュニケーション制度のひとつだが、従来「広告論」として扱われる研究領域は商学および経営学の延長上に位置することが多かった。しかし、広告を表現文化という側面から捉え直した場合、そこには「文化」をめぐる様々なコノテーションが重層化していることに気がつくにちがいない。大衆消費社会を迎えた現在、サブカルチャーとしての広告は私たちの生活様式や価値観の形成に多大な影響力を与えている。

本授業では、前授業で得た問題意識を演習を通じて具体化することを目標とする。編集された構造物、すなわち雑誌、広告、映画、webなど、各自の興味に従い課題を決定し、進展に合わせて個人発表を行い、最終的には、論文または作品の制作に結びつけたい。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。その都度指示する。

【参考文献・資料】

現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編　世界思想社）

「広告」への社会学（難波功士　世界思想社）

物の体系（ジャン・ボードリヤール　法政大学出版局）

表現文化研究Ⅱ

永井聖剛

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（小説研究）

「表現文化研究Ⅰ」に引き続き、1910年代およびそれに続く時期の短編小説を精読し、文学作品へのさまざまなアプローチの方法を学習する。履修者は関心のある作品を選び、担当教員のアドバイスを得ながら、文献に目を通し、レジュメを作成し発表。参加者全員で討議する。

学期末までに、ある程度まとまった分量の文章（作品研究あるいは授業で得た問題意識を活かした習作）を書くことが目標。

1　ガイダンス（発表の担当者決めなど）

2～12　演習（発表担当者による報告と討議）

13　まとめ

【評価方法】

授業（出席・発言など）50%、発表・レポート50%

【テキスト】

最初の授業時に作品リストを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究Ⅲ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（シナリオ創作）

第１回　脚色技術と作品分析（映像）
第２回　脚色技術と作品分析（映像）
第３回　脚色技術と作品分析（演劇）
第４回　脚色技術と作品分析（演劇）
第５回　ドキュメンタリー作品分析
第６回　ドキュメンタリー作品分析
第７回　テレビドラマ作品分析
第８回　テレビドラマ作品分析
第９回　映画作品分析
第10回　映画作品分析
第11回　演劇作品分析
第12回　演劇作品分析
第13回　ラジオドラマ作品分析
第14回　ラジオドラマ作品分析

【評価方法】

出席状況と提出レポートなどによる

【テキスト】

テレビドラマ代表作選集1998年版（日本脚本家連盟）
銀河鉄道の夜（宮沢賢治著　角川文庫）

【参考文献・資料】

銀河鉄道の夜（VHS）

表現文化研究Ⅲ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（現代詩）

「表現文化研究Ⅰ」および「表現文化研究Ⅱ」で得た現代詩への問題意識を深めつつ、受講者が自分の興味と個性を確認し、さらに創造的な詩作（研究）へむけて継続的な取り組みができるよう、授業をすすめる。

個別指導を基本としながらも、教室という場を生かして、各自の作品（研究）を他の受講者との相互批評・鑑賞にもゆだね、作品をより客観的・普遍的にするための手がかりを得られるようにする。

第１～３回　現代詩の歴史を概観しつつ、各自の創作テーマを設定して詩作（研究）をすすめる。
第４～６回　習作の提出、発表。テーマ・方法の軌道修正。
第７～８回　特定の優れた先達詩人あるいはエコールをとりあげ各自にその姿勢・思想・技法を研究する。
第９～11回　当初に設定した各自の創作テーマによる作品の発表。合評会を経てさらなる推敲を試みる。
第12回　これまでの創作を振り返り、今後の詩作への手がかりと可能性を探る。

【評価方法】

作品（研究）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅲ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（新聞）

新聞記者になったつもりで、各新聞の主にニュース面を比べて批評しながら、そこに取り上げられている現代の課題の核心に迫り、それぞれの研究テーマを探る。外部講師へのインタビューや学外研修も行う。

第１回　オリエンテーリング
第２～６回　相互の批評と討論、原稿書き
第７回　総合批評と討論
第８～12回　外部講師と学外研修、原稿書き
第13・14回　個別指導
（夏休みにゼミ研修旅行を予定）

【評価方法】

出席の状況と原稿、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

一般紙各紙と講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅲ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現研究）

個別テーマに沿って卒業研究を進める。特に次の（２）～（３）を繰り返しながら、研究内容を洗練していく。

（１）テーマ選定

卒業研究のテーマを選定する。目標を設定した上で、具体的な手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

（２）リサーチ

文献調査（検索・収集・講読）や実験を繰り返しながら研究を進める。結果について整理・分析・考察を加え続ける。

（３）進捗報告

研究の進捗状況を報告し、文献調査や実験の追加・補正、次の作業や展開方向について検討する。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅲ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（映画研究）

卒論及び卒業制作にむけて具体的な準備を始める。卒論は①監督研究②テーマ別研究③映像制作からなる。①の監督研究は、日本及びアジアの監督作品を研究し、その監督の時代とのかかわり、その影響などを考察する。②のテーマ別研究は、広範囲の映画の中から特徴となるものを選び、それを重点に考察する。③映像制作は、自らのシナリオを基に、10分以上の劇映画又は30分程度のドキュメンタリーを制作する。授業はこれらの参考になるための指針を示す。又、各自30分程度の個別発表をする。

1．監督研究　：小津映画における家族のあり方
2．監督研究　：黒澤映画のダイナミズム
3．監督研究　：張芸謀の色彩と思想の関係
4．テーマ別研究：映画の配給・宣伝・興行について
5．テーマ別研究：在日の日本映画との関わり
6．テーマ別研究：戦争映画の視線について
7．映像制作実習（2コマ）
8．個別発表

【評価方法】

個別の研究発表と課題のレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅲ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（アニメ・コミック研究）

第1回　オリエンテーション
第2回　話題作（コミックまたはアニメーション）をめぐる共同討議
第3回　卒業研究・卒業制作の計画発表
第4回　卒業研究・卒業制作の内容構成（目次）の策定
第5～12回　受講者の研究・制作発表
第13回　授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のためのレポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅲ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（児童文学）

＜子ども論を読む（1）＞

私たちが「子ども」を捉えるまなざしは、近代に誕生したとされる。近年、その近代的子ども観が様々な場で問い直され、新たな子ども－大人関係の模索が始まりつつある。近代的子ども観のもとで発展してきた児童文学もまた、内外からの捉え直しが必要であろう。授業では子ども論を主な手がかりとして、子ども観の変遷をたどり、児童文学成立の基盤とその歴史性を探る。合わせて卒業論文・卒業制作執筆に向けて、研究や創作の合評を進めていく。理論書の精読と作品合評とが個々に完結するのではなく、相互に影響しあいながら深化していく授業を目指したい。

第1回　半期間の計画提示など
第2～3回　卒業論文・卒業制作の中間発表（1）
第4～10回　理論書の精読（グループ発表）と研究・創作の合評
第11～12回　卒業論文・卒業制作の中間発表（2）

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

子ども100年のエポック（本田和子著　フレーベル館）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅲ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（短歌）

第1回　オリエンテーション
第2回～6回　課題創作演習1
第7回～8回　研究・創作テーマの中間発表と討議
第9回～11回　課題創作演習2
第12回　研究・創作テーマの最終発表
第13回　まとめ

【評価方法】

出席状況および授業内レポート・課題創作作品・学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌文庫（砂子屋書房）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『短歌研究』（短歌研究社）、『歌壇』（本阿弥書店）

表現文化研究Ⅲ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（小説）

小説を主とする散文創作を試みながら、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を更に高める。

授業に先立ち、20～30枚の短編小説を書き、第１回の授業で提出すること。さらに６月末には卒業予備作品を提出する。

第１～６回　相互批評
第７回　　卒業研究もしくは作品指導
第８～12回　卒業予備作品相互批評

なお夏期休暇中の９月上旬に宿泊を伴うゼミ合宿をおこなう予定。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅲ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月１～２本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

（上演鑑賞のため１万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅲ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（編集・広告）

「表現」とは、作品内容あるいは作者自身の行為を指すのではなく、読者や観察者との関係によって生成するものである。それは常に、何らかのメディアを介した受容とコミュニケーションが前提となる。従って、表現者が最も重視しなければならない点は、作品が「外なる形」として現れる場を想定することであり、それがどのような環境に置かれ、どのような意味作用をもたらすかついて十分な検討を行うことであろう。「編集」とは世界を構造化する技術であると言い換えることができる。

本授業においては、前授業において継続されている問題である「メディアの理解」を踏まえた上で、各自の興味にしたがって具体的な作品制作、または関連領域における論文を作稿することを目標とする。なお、作品の制作は、多様な形式が予想されるため、専門知識ならびに個別的助言が必要となる。そのため積極的な授業態度で臨むことが求められる。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

複製技術時代の芸術作品（ヴァルター・ベンヤミン　晶文社）

【参考文献・資料】

ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読（多木浩二　岩波現代文庫）

表現文化研究Ⅳ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（シナリオ創作）

第１回　卒業創作に向けてジャンルの選択
第２回　講読と個別指導（演劇）
第３回　講読と個別指導（演劇）
第４回　講読と個別指導（テレビドラマ）
第５回　講読と個別指導（テレビドラマ）
第６回　講読と個別指導（ラジオドラマ）
第７回　講読と個別指導（ラジオドラマ）
第８回　講読と個別指導（映画）
第９回　講読と個別指導（映画）
第10回　講読と個別指導（構成もの）
第11回　講読と個別指導（構成もの）
第12回　講読と個別指導（ミュージカル）
第13回　講読と個別指導（歌舞伎・その他）

【評価方法】

出席状況と提出作品などによる

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅳ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（新聞）

卒業論文作成に向け、前期までの蓄積に基づいて各自のテーマごとに調査、報告、討論、作成へと作業を進める。

第１回　　オリエンテーリング
第２～６回　論文作成へのテーマ別討論
第７回　　総合討論
第８～10回　個別指導
第11～14回　新聞作りの指導

【評価方法】

出席の状況、論文、製作した新聞（レポート）などで総合的に評価

【テキスト】

講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅳ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（現代詩）

「表現文化研究Ⅲ」で試みた創作（研究）を推し進めつつ、具体的な作品群を完成させる中で、受講者が自分の個性を一層輝かせ、詩作の手応えと喜びを実感できるよう授業を組み立てる。卒業制作に際しては、作品を各自一冊の詩集として形あるものにして提出する。その過程で、詩的言語と、文化の詩的領域への感性を磨き、生涯にわたって詩作とともにある生活を送ることができるような礎を築くことをめざす。

第１～３回　現代詩創作（研究）の目的・意義の確認。これまでに自分の作った作品を振りかえり、各自の個性を磨きつつ、テーマを継続して詩作（研究）をすすめる。
第４～６回　詩的言語の研究。自分の作品をさらに個性あるものとするために、それぞれにふさわしい語法・文体・形式を追求する。
第７～９回　合評会。作品の批評と鑑賞。一人ひとりがすすめてきた作品とその問題点を交流しあい、創作（研究）の完成へ向けて課題を確認する。
第10～12回　詩集の完成。これまでに創作してきた作品をまとめて、一冊の詩集として提出する。編集・造本・装丁・レイアウト等についても研究し、可能なかぎり自分の作品にふさわしい発表形態を追求する。

【評価方法】

提出された詩集（研究）の質、および創作への意欲、授業への取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅳ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現研究）

次の（1）～（3）の手順で、研究成果をまとめる。

（1）2ページ論文作成

研究成果を短い論文にまとめることにより、卒業論文作成に向けての骨格やストーリを作る。また、学術論文としての主張点やオリジナリティを見出す。

（2）卒業論文作成

「背景」「目的」「方法」「結果」「まとめ」という型の中で自分の研究成果をまとめる。図表や参考文献を駆使して、主張点やオリジナリティを効果的に表現する。

（3）卒業研究報告

各種メディア（スライド・ポスター・映像など）を利用して、研究成果を効果的にプレゼンテーションする。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅳ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（映画研究）

前期の個別テーマ研究をふまえ、さらに深く考察する中から、卒論を完成させる。また、実際の現場で活躍するディレクター、クリエーターを招いて意見を聞き、現場の仕組み、要求される技術、心得などを確認する。

1．デザインディレクター
2．CF制作プロデューサー
3．映画宣伝プランナー

後期は、各自の発表が中心となる。

【評価方法】

卒論と卒業制作作品（シナリオ付）を見て判断する。

【参考文献・資料】

授業中にアドバイスをする。

表現文化研究Ⅳ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（アニメ・コミック研究）

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業研究・卒業制作の内容構成の最終決定
第3～8回　受講者の研究・制作発表
第9～10回　卒業研究・卒業制作のグループ相談
第11～12回　卒業研究・卒業制作の個人相談
第13回　授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む受講態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のための卒業研究レポートや卒業制作レポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅳ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（児童文学）

＜子ども論を読む（2）＞

前期「表現文化研究Ⅲ」に引き続き、子ども論の精読と作品の合評を行う。歴史的事象に言及した前期のテキストに対して、後期は現代の子ども文化や子ども－大人関係を考察した評論を取り上げる。卒業論文・卒業制作の仕上げに向けて、研究・創作の合評のほか、進捗状況の発表会なども随時行っていく予定。

第1～2回　卒業論文・卒業制作の中間発表（3）
※以後も、随時中間発表を行う。
第3～11回　理論書の精読（グループ発表）と研究・創作の合評
第12回　全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、提出論文・提出作品等により総合的に行う。

【テキスト】

「子ども」の消滅（斎藤次郎著　雲母書房）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅳ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（短歌）

第1回　オリエンテーション
第2回～6回　自由創作演習1
第7回～9回　研究・創作テーマの討議
第10回～11回　自由創作演習2
第12回　卒業創作・研究作品の発表と質疑
第13回　まとめ

【評価方法】

出席状況および授業内レポート・課題創作作品・卒業研究創作レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌文庫（砂子屋書房）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『短歌研究』（短歌研究社）、『歌壇』（本阿弥書店）

表現文化研究Ⅳ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究として提出する。

【授業計画】

（小説）

卒業研究もしくは作品を完成するための立案計画、創作、批評、推敲のプロセスを実行する。

あらかじめ「表現文化研究Ⅲ」において提出された卒業予備作品をもとに、第2次予備作品を第1回の授業で提出し、改善点、反省点を探りながら卒業研究もしくは作品として完成に導く。

第1～6回　第2次卒業予備作品の相互批評
第7回　総評と問題点討論
第8～12回　個別指導と討論
第13回～　個別指導

卒業研究もしくは作品は、原則として任意の公募新人賞に応募するものとする。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅳ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月１～２本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

（上演鑑賞のため１万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化卒業プロジェクト

麻創けい子　岩崎建弥　梅田卓夫　川澄未来子　木全純治　小菅健一
酒井晶代　島田修三　清水良典　角田達朗　馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって行う。

【授業計画】

本授業は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって指導される。授業内容は「表現文化研究Ⅳ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「表現文化研究Ⅳ」で指導を受けた卒業論文および制作を、総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

表現文化研究Ⅳ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（編集・広告）

各自の関心領域を再確認し、専門性を深めた上で、最終的な目標である卒業作品の制作、または卒業論文へと結実するよう、個別の指導と助言を行う。

【評価方法】

出席状況、発表の内容、討論への参加態度、具体的な成果（論文または作品）によって総合的に評価する。

多元文化基礎演習

榎田勝利　大野清幸　CURRAN, Beverley　杉本一直　チョ　スルソップ
TOFF, Mika　平林美都子　ブイ チ トルン　若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業である。文献や情報の検索方法、レポートの作成方法などを学ぶとともに、学生各自が設定したり教員が指示したテーマについての口頭発表・プレゼンテーションなどを通して、多元文化専攻における研究の基礎的な知識を身につける。

【授業計画】

授業の概略は下記の通りであるが、具体的な内容については、各担当者が第1回の授業で説明する。

第1回　オリエンテーション
第2回　問題の把握1
第3回　問題の把握2
第4回　文献検索・データ収集法1
第5回　文献検索・データ収集法2
第6回　文献検索・データ収集法3
第7回　テーマ研究演習1
第8回　テーマ研究演習2
第9回　テーマ研究演習3
第10回　テーマ研究演習4
第11回　テーマ研究演習5
第12回　テーマ研究演習6
第13回　まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、プレゼンテーション、課題レポートなどによって総合的に評価する。詳細は各担当者が第1回の授業で説明する。

【テキスト】

各担当者から指示がある。

【参考文献・資料】

各担当者から指示がある。

国際理解Ⅰ（国際関係入門）

若松孝司

【授業の概要】

本講義は「国際理解」系列科目の初歩に位置づけられる。そのため、「国際理解」系列の各講義への橋渡し役となるべく、現代の国際関係のあり方について、理論的あるいは歴史的な観点から学ぶことを目的とする。

【授業計画】

以下の項目について講義する。

（1）国際関係を学ぶとは
（2）国際関係理論概説
（3）第2次世界大戦後の国際関係
（4）現代国際関係の諸断面

【評価方法】

出席状況と筆記試験の結果とを総合して判断する。

【テキスト】

国際関係学講義（原彬久編　有斐閣）

【参考文献・資料】

国際関係論　同時代史への羅針盤（中島嶺雄著　中公新書）
国際関係論　第2版（衛藤瀋吉他著　東京大学出版会）
講座国際政治1国際政治の理論（有賀貞他編　東京大学出版会）

国際理解Ⅱ（国際交流）

榎田勝利

【授業の概要】

日本の国際交流活動が大きな転換期を迎えている。グローバリゼーションの進展とともに、多様性が増し、変化のスピードが加速している。このような現状に立脚した総合的な視座が求められている。戦後から現在までの草の根レベルの国際交流団体の設立の軌跡を検証し、現状分析を試みる。さらに、組織のマネジメント、ボランティアの育成、ネットワークの形成等について、具体的な先進事例に基づき講義する。

【授業計画】

1．ガイダンス（国際交流の学び方、国際交流の仕事等、評価方法等）、アンケート実施
2．国際交流・国際協力の新しい潮流と方向性を探る
3．国際交流・国際協力団体の概況
4．自治体設立の国際交流協会の組織運営
5．ボランティアの育成
6．事業評価の実務
7．ネットワーク形成と活用
8．先進的事例研究（・高崎市国際交流協会、・栃木工業高校国際ボランティアネットワーク、・豊田市国際交流協会、・福島県国際交流協会、・箕面市国際交流協会、・国際ボランティアセンター山形、・とよなか国際交流協会、・関西国際交流団体協議会、・名古屋国際センター）
9．筆記試験

【評価方法】

最終試験60%、レポート20%、出席（授業への参加度）20%

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅱ「国際交流の組織運営とネットワーク」
（榎田勝利編著　明石書店）

【参考文献・資料】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」
（毛受敏弘編著　明石書店）
実践　国際交流（（財）大阪国際交流センター発行）
国際交流史（松村正義著　地人館）
国際交流の理論～交流から協力へ～（高橋直子著　勁草書房）

国際理解Ⅲ（国際体系）

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦時の国際権力政治構造から相互依存の国際体系へ移行するなかで、国家や地域機構、それに国際機構などの存在意義と、民主制や市場経済のグローバル化、国際秩序形成過程などを学ぶ。また、多元・多層化している国際社会のなかでの行動主体間の交流の仕組みを学び、相互依存の管理体制を検証し、グローバリゼーションの意義を問う。

【授業計画】

第1講　国際政治理論：秩序と無秩序
第2講　2つの世界大戦
第3講　冷戦構造とその教訓
第4講　軍縮と安全保障
第5講　国際法
第6講　主権国家のタイポロジー：米国
第7講　ソ連/ロシア、中国
第8講　地域機構の存在意義
第9講　グロバリゼーションの光と陰
第10講　1）IT革命と情報化社会
第11講　2）WTOとNGO
第12講　3）移民・外国人労働者・難民
第13講　4）テロリズム
第14講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

国際紛争（ジョセフ・S.ナイ著　有斐閣）
国際社会論（ヘドリー・ブル著　岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ著　早稲田大学出版部）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著　東大出版）
【参照専門誌：】
外交フォーラム（外務省編　都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編　有斐閣）
政治学（日本政治学会編　岩波書店）

国際理解Ⅳ（多文化共生）

ブイ チ トルン

【授業の概要】

共通の言語・文化などを持つ１つの民族から成り立つ国民国家という概念が消えつつあり、情報・人間活動などさまざまなものがボーダーレス化している。また、社会のグローバル化とともに、１つの国や地域だけでは解決できない問題も生まれている。人種・世代・性別など多様な価値観が混在している多文化社会における共生の問題を考える。

【授業計画】

1．国際間の相互依存時代
2．国際間の人的移動～Transnational的移民の時代
3．地域における国際化事業
　1）国際交流・理解事業
　2）国際協力事業
　3）多文化共生事業
4．在住外国人の動態
5．地域社会における多文化共生への対応
　1）青少年・教育
　2）就労・保健医療
　3）コミュニティ・生活一般
6．地方自治体等の対応
7．市民ボランティア活動の現状・課題と展望
8．NGO/NPOの役割と社会的環境
9．新しい社会・文化の創造へ

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

国際理解Ⅵ（非営利組織）

ブイ チ トルン

【授業の概要】

近年、注目と関心を集めている非営利組織の社会的役割や運営上の問題と課題、企業や行政との関係などについて考える

【授業計画】

1．ボランティア活動、NPO及び市民活動の相違について
2．NPOの社会的役割
　1）アメリカにおけるNPO活動の潮流
　2）イギリスにおける市民活動とCharity Commission
　3）日本における市民活動とNPO法の成立
3．非営利組織の組織運営
　1）アメリカにおけるNPO組織運営と社会環境
　2）イギリスにおけるチャリティ組織運営と支援体制
　3）日本におけるNPO組織運営と人材育成
4．NPOと企業との協働
　1）欧米における企業の社会的貢献活動
　2）企業フィランソロピーと企業財団
　3）日本経団連１％クラブ
　4）企業との協働の現状、課題、展望
5．NPOと行政との協働
　1）イギリスにおける行政の協働文化（Local Compact）
　2）日本の地方自治体による市民活動促進政策
　3）行政との協働の現状、課題、展望
6．日本の代表的なNPO組織運営の現状、課題、展望
7．助成財団の活用
8．寄付文化、社会的理解と支援体制

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

国際理解Ⅴ（国際協力）

榎田勝利

【授業の概要】

日本が経済大国としての地位を確立するにつれて、国際社会から応分の責任（国際貢献）を分担することが求められてくる。国際協力の基本的な概念、定義、活動主体、活動内容と分野、および事業評価等について学ぶ。

【授業計画】

1．ガイダンス（国際協力の学び方、国際協力の仕事）、国際協力の用語に関するQ&A
2．国際協力に関する用語等の解説
3．国際協力の定義　「国際貢献」、「国際協力」、「経済協力」、「政府開発援助」
4．国際協力の主体と活動内容　・　国際連合、国際機関、国連NGO
　国際協力の主体と活動内容　・　政府開発援助（ODA）
　・　政府とNGO
　国際協力の主体と活動内容　・　地方自治体の国際協力とNGO
　国際協力の主体と活動内容　・　国際協力NGO（NGO活動の歴史、日本のNGOの現状と活動実績、政府との関係）
5．開発課題と国際協力　・　「貧困問題ム児童労働とストリートチルドレン」
　開発課題と国際協力　・　「緊急支援と難民問題」
6．アジアのNGO（インド、バングラデシュ、スリランカ、フィリピン、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、韓国、中国）
7．期末試験（国際協力について基礎的な理解ができているかどうかを評価する）

【評価方法】

期末試験（70%）、出席と授業への取り組み（30%）

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献・資料】

・国際連合の基礎知識（国際連合広報局、国際連合広報センター監訳　世界の動き社）
・国連とNGO（馬橋憲男著　有信堂）
・国際協力（下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由起子著　有斐閣選書）
・日本のODAをどうする（渡辺利夫・草野厚著　NHKブックス）
・政府開発援助（ODA）白書（外務省・経済協力局発行）
・国際協力を仕事として―開発・人道援助に飛び立つ女性たち（緒方貞子他）
・ハンドブックNGO（馬橋憲男、斉藤千宏著　明石書店）
・NGOとは何か（伊勢崎賢治著　藤原書店）
・NPO・NGOと国際協力（西川潤、佐藤幸男著　ミネルヴァ書房）
・地方自治体の国際協力―地域住民参加型のODAを目指して」（吉田均著　日本評論社）
・UNDP・人間開発報告書　2003年版（国連開発計画編　国際協力出版会）
・NGOダイレクトリー2004（国際協力NGOセンター編集・発行）

言語文化Ⅰ（言語科学入門）

大野清幸

【授業の概要】

言語データベースの構築や検索・分析を通して、言語獲得の問題を中心に考察することで、言語を科学的に分析することとは何かというテーマに関する基礎を学ぶ。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講－　テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

言語文化Ⅱ（コーパス言語学）

柳 朋宏

【授業の概要】

大規模な電子テキスト（コーパス）を利用した言語分析の方法を実践的に学び、コーパス言語学の可能性を探る。

【授業計画】

この授業では、コーパスに基づいた先行分析の追体験を通して、コーパス言語学の有効性と問題点を理解することを目標とする。また、実際に種々のコーパスを利用し検索を行なうことで、効果的なデータ収集法と、それによって得られたデータに基づいた分析方法を習得してもらう。

※第１回目に授業計画の指示等を行なうので必ず出席すること。
　欠席すると授業についていけなくなるので注意すること。

【評価方法】

発表とレポート、及び授業への貢献度等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜ハンドアウトを配付。

【参考文献・資料】

Corpus Linguistics.（Biber, D. et al. CUP）
英語コーパス言語学（齊藤俊雄他編　研究社出版）

言語文化Ⅲ（言語能力論）

椿田ジェシカ

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、人間固有の性質である体系としての言語の使用にはどのような特徴があるのかについて学ぶ。特に、子供の言語獲得と大人の第２言語習得の事例を取り上げ、人間が生得的に持つ言語能力の本質を学ぶ。

【授業計画】

第１回　「言語」と「言語能力」：この講義の予定
第２回　子どものことば
第３回　ベビーサイン
第４回　言語習得理論の歴史
第５回　意味の習得の問題
第６回　ヴィゴツキーの「思考と言語」- 1
第７回　ヴィゴツキーの「思考と言語」- 2
第８回　ウイトゲンシュテインの「青い本」
第９回　シュピッツの「No and Yes」
第10回　物語る能力
第11回　学生からの質問に答える
第12回　サルの言語習得研究
第13回　文字を作り出す言語能力
第14回　第二言語の習得

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

・言語と思考（L, ヴィゴツキー　新読書社）
・『論考』『青色本』読解（L. ウィトゲンシュタイン　産業図書）
・*No and Yes*（R. Spitz　International Universities Press）

言語文化Ⅳ（生成文法論）

中野弘三

【授業の概要】

人間の言語能力を解明しようとする生成文法の枠組みを学ぶとともに、生成文法理論に基づく構文の分析を通して、統語構造の特徴や規則性を考察する。

【授業計画】

第１回　生成文法の目標
第２回　言語習得、普遍文法
第３回　X-bar理論
第４回　句の構造
第５回　文の構造
第６回　助動詞
第７回　複文の構造
第８回　名詞句移動
第９回　WH 移動
第10回　移動に対する制約
第11回　主要部移動
第12回　束縛理論
第13回　新しい理論の展開

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況も加味して評価する。

【テキスト】

現代の英文法（齋藤興雄・佐藤　寧・佐藤裕美著　金星堂）

【参考文献・資料】

生成文法講義（安藤貞雄・天野政千代・高見健一著　北星堂）
統語論［現代の英語学シリーズ５］（鈴木英一著　開拓社）
チョムスキー理論辞典（原口庄輔・中村　捷編　研究社）
Syntactic Theory and the Structure of English（A. Radford Cambridge University Press）

言語文化Ⅴ（言語解析）

宮田 Susanne

【授業の概要】

日本語・英語の例を使いながら、言語解析の目的と可能性について考える。女性ことば、幼児の言語、母親の言語、第２言語話者の言語などを取り上げ、その特徴（または習得過程）をとらえるさまざまな方法を学ぶ。

【授業計画】

第１回　言語を計る：何を?何のため?；日本語基礎文法：動詞と動作名詞
第２回　第２言語話者の発話データ；日本語基礎文法：動詞の活用
第３回　形態素の概念；日本語基礎文法編：動詞の活用パターン、不規則動詞
第４回　第２言語話者の発達レベルを動詞活用で測る；日本語基礎文法：形容詞と形容名詞
第５回　MLU（平均発話長）入門；日本語獲得データに適用；日本語基礎文法：格助詞
第６～８回　語彙を計る：理解語彙と表出語彙；TTR；VOCD；MCDI；Peabody；BVATの紹介
第９回　数字化の必要性・危険性；結果のプレゼンテーション法；信頼性；Interrater-Reliabilityの問題
第10回　文法能力を計る：MLU；DSS, DSSJ；日本語基礎文法：その他の助詞
第11～12回　プロファイリング；日本語基礎文法：助数詞
第13回　言語運用と会話能力を計る；日本語基礎文法：代名詞
第14回　まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

基礎日本語文法　改訂版（益岡隆志・田窪行則 1995 〈ろしお出版）
言語学が好きになる本（町田健 1999　研究社出版）

言語文化VI（言語獲得論）

大野清幸

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、主として日本語と英語を対象に、「動的文法理論」や認知言語学などの成果に基づいて言語獲得の問題について学ぶ。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講－　テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化Ⅰ（東南アジア）

小座野八光

【授業の概要】

日本との関係がますます重要になる東南アジア地域の現状と、今後の日本との関係を考察し、この地域に対する理解を深める。

【授業計画】

第１回　総論：20世紀国際関係の中での日本・東南アジア関係
第２回　近代日本と「南方」　1
第３回　近代日本と「南方」　2
第４回　戦争と日本占領の時代　1
第５回　戦争と日本占領の時代　2
第６回　戦争と日本占領の時代　3
第７回　戦争と日本占領の時代　4
第８回　「東南アジア」の成立　1
第９回　「東南アジア」の成立　2
第10回　戦後の関係構築　1
第11回　戦後の関係構築　2
第12回　戦後の関係構築　3
第13回　戦後の関係構築　4

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

国際文化Ⅱ（中国）

楊 衛平

【授業の概要】

文化大革命後の中国現代文化に関して、都市および農村部の生活文化の変化や刷新の様相を分析しながら学ぶ。

【授業計画】

1976年（文化大革命後）
1．都市・農村改革と経済構造の変化
2．国民経済の発展と農村経済の改革
3．計画経済と主導文化の役割
4．高雅文化と精英文化の主流
1986年（政治経済変革期）
5．都市・内陸農村・沿海農村の変革
6．農村部過剰労働力の転移と都市化
7．市場経済と消費文化へ転換
8．大衆文化と民間文化の興起
1996年～現在
9．都市農村青年の配偶者選択の変容
10．WTO加盟以来の中国の西部大開発
11．三足鼎立・多様性文化共存
12．伝統文化と外来文化の挑戦
13．都市経済の加速と農村生活

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国当代文学思潮（呉秀明　浙江大学出版社）
中国文化現代化（劉永佶　河北大学出版社）

国際文化Ⅲ（ロシア）

皆川修吾

【授業の概要】

ロシアが体験した国内外の価値体系の連続性、不連続性、断続性に注目し、国際社会でのロシアの自存と共存の視点からこれまでのロシア国家の文明史的意味付けをし、今後のロシア国家の行方を占う。

【授業計画】

第１講　ロシアの大地、多民族国家ロシア
第２講　ロシア帝政時代の特徴
第３講　ロシアの国民性と精神風土
第４講　ロシア革命とレーニン
第５講　スターリン主義
第６講　フルシチョフ体制
第７講　ブレジネフ体制：権威主義体制の末路
第８講　ゴルバチョフとペレストロイカ
第９講　体制移行期の諸問題
第10講　エリツィン時代：略奪資本主義体制
第11講　プーチン体制：管理された民主主義
第12講　プーチン体制：確立した指導体制
第13講　日ロ関係と北方領土問題
第14講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

もっと知りたいロシア（木村汎編　弘文堂）
スラブの政治（皆川修吾編　弘文堂）
移行期のロシア政治（皆川修吾編　渓水社）

国際文化Ⅳ（韓国・朝鮮）

チョ スルソップ

【授業の概要】

第２次世界大戦後の朝鮮半島の文化を、主として韓国現代社会の歴史および社会の動向を通して学ぶ。

【授業計画】

現代社会にとって重要な課題として浮上してきている福祉、教育、環境、女性、市民団体などのことがらを中心に現代の韓国社会を見つめる。

第１回　　：オリエンテーション
第２回～第４回：韓国の素顔
　　歴史からたどる韓国の姿、
　　倭寇と朝鮮通信使
第５回～第７回：韓国人の暮らし
　　経済成長をベースに、福祉と教育
　　食とレクリエーション
　　若者と兵役と社会
第８回～第10回：韓国社会の伝統
　　活きている儒教思想を中心に、
　　占いがある韓国哲学
第11回～第12回：韓国の新世代
　　日本の新世代と比較して（映画「猟奇的な彼女」の世界）
　　都「ソウル」（映像「フリー・タイム・ソウル」から学ぶ）
第13回～第14回：韓国人とスポーツ、芸能界
　　日本文化の開放、韓国の歌謡界と映画界（映像「韓国歌謡の総決算」から学ぶ）
第15回　　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして期末の単位認定試験の総合で評価する。

【テキスト】

自家版プリントなどを用いる。

【参考文献・資料】

現代韓国を知るための55章（石坂浩一他編著　明石書店）
韓国百科（大修館書店　秋月望他編著）
朝鮮を知る事典（平凡社）など

国際文化Ⅵ（ジェンダー）

平林美都子

【授業の概要】

近代主義の終焉によって展望を見失ったといわれる現代社会の諸問題をジェンダー論の視点から分析し、新たな社会的展開の可能性について学ぶ。

【授業計画】

1．ジェンダーとは
2．家庭でつくられるジェンダー
3．母性神話とジェンダー
4．学校でつくられるジェンダー
5．政治とジェンダー
6．身体・セクシュアリティ・ジェンダー
7．女らしさの病・男らしさの病
8．おとぎ話の中のジェンダー
9．文学の中のジェンダー（1）
10．文学の中のジェンダー（2）
11．映画の中のジェンダー
12．ジェンダーは越えられるか

【評価方法】

出席状況・コメントカード・レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

国際文化Ⅴ（北米・英国）

平林美都子

【授業の概要】

北米カナダの歴史や文化の生い立ちと変遷を英国やアメリカ合衆国との関係から学ぶことによって、これらの国々の文化的特質を理解する。

【授業計画】

移民国家であるカナダ文化の独自性を、19世紀の英国との関係から学ぶ。

1．カナダの地理と略史
2．先住民族とその文化
3．19世紀の英国の状況
4．英国からの移民
5．日系移民
6．「カナダ」のメンタリティ
7．現代カナダ文学

授業内の学生のプレゼンテーションも予定している。

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

英語表現法Ⅰ（通訳１）

中村幸子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力を向上させることを授業の目的とする。

通訳とは、話された内容をまず自分が理解し、咀嚼し、それを自分の言葉で第三者に伝えることであり、何よりも正確な理解力が求められるとともに、情報を正確にかつ聞き手にとってわかりやすく聞きやすい形で訳さなければならない。求められる英日通訳は直訳的な英文和訳や原文とはなれた意訳ではない。さらに、通訳はコミュニケーションを成立させることである、との観点から、日英では柔軟な英語表現力を養うことも重視する。

第１回　　通訳訓練法の概要
第２回～４回　身近なトピックに関する通訳演習
第５回～８回　社会問題、時事問題に関する通訳演習
第９回～12回　応用
第13回　　まとめ
第14回　　単位認定試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、課題への取り組み）を50%、単位認定試験の成績を50%として合わせて評価する。グループ活動があるため、出席を特に重要視する。

【テキスト】

Developing Interpreting Skills for Communication（斎藤綾子他　南雲堂）

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅰ（通訳１）

難波豊子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳をする為の英語の表現力強化を目指し、英文を読み、聞き、英文の構成に慣れ、語彙をインプットすることを目的とした口頭練習を中心に授業を行う。

通訳の為の勉強方法概略紹介

・シャドーイング（フォロー）：テープから聞こえて来る英文を、継続的に口頭でリピートすることにより、集中力を高める。

・リプロダクション：聞いた英文を口頭で繰返す事により、頭の記憶維持力を高める。

速読練習

・英文スラッシュ・リーディング：構文把握及び内容理解を正確にする。

・クイック・レスポンスによる語彙力強化。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳２）

中村幸子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。

授業では、リピート練習（同時・逐次）、チャンキング即転換、センテンス通訳、サイトトランスレーションなどの基本技能訓練を行い、即解力、即転換力を養う。ノートテイキングの技能をさらに磨き一般的内容のパラグラフ逐次通訳に取り組む。またビジネスの場で必要とされる日英双方向の商談・交渉通訳の基本についても学んでいく。学習の仕上げとして、学期末に通訳パフォーマンス発表を行う。

第１回	概要説明
第２回～３回	基礎的訓練
第４回～６回	英日通訳法
第７回～９回	日英通訳法
第10回～11回	ダイアログ通訳
第12回～13回	通訳パフォーマンスプレゼンテーション
第14回	単位認定試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、小テスト、課題への取り組み、パフォーマンス発表会）を50％、単位認定試験の成績を50％として合わせて評価する。

【テキスト】

Let's Interpret 通訳実践トレーニング　（水野真木子他　大阪教育図書）

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅱ（通訳２）

難波豊子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳とは単に言葉の置き換えではない。よく聞いて話し手の意図を理解し、分かりやすい表現を使って別の言語で聞き手に伝える、という使命が与えられている。その為には、話し手の言葉を聞く態度、表現力強化、そして明確に話す習慣が最低限不可欠である。期間中出来るだけ多くの通訳練習を行いたい。

第１～６回：英語表現法Ⅰで学習した基礎訓練を基に、簡潔な文章で訳出練習を行う。ダイアローグ形式で、適宜ロールプレイも導入し、訳出表現、通訳のタイミングを検討。

第７～12回：身近な話題を取り上げ、日本を英語で紹介する表現を学習する。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅲ（翻訳）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス翻訳や技術翻訳などの演習を通して、英語を分かりやすい自然な日本語に翻訳する力を向上させるとともに、翻訳を行う際に必要となる資料や情報の収集方法など、翻訳の実際についても学ぶ。

【授業計画】

第１講　授業概要説明（必ず出席すること）

第２講－　講義と演習を通して、実務翻訳の初歩を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

演習用プリントを配布（翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある。）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

CURRAN, Beverley

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

The class will focus on the key features of an effective oral presentation: brevity, interest, clarity, persuasive power, and speaker confidence.

Week 1
Introduction
Week 2
Self Introductions
Weeks 3 − 4
Interesting Storytelling
Weeks 5 − 6
Explaining Effectively
Weeks 7 − 8
Presenting Your Opinion Persuasively
Weeks 9 −11
Free Topic
Week 12
Reflection

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and attendance, as well as the preparation and delivery of oral presentations in class.

【Textbooks】

No text is required.

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

TOFF, Mika

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will learn to make presentations on a variety of topics focusing on their interest, clarity and persuasive power.

Topics：
1）self introductions
2）stories
3）explanations
4）opinions
5）subjects of the student's research and personal interest.

Time will be spent on presentation practice and delivery to increase confidence and establish rapport with the audience.

Students will be encouraged to use visual aids, and learn how to use presentation software.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the presentation made by the student, and on the amount of work a student puts into preparing the presentation.

英語表現法Ⅴ（ビジネス文書）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス文書の作成、プロポーザルライティングなど、ビジネスの場における実践的かつ効果的なコミュニケーションについて学ぶ。

【授業計画】

第１講　授業概要説明（必ず出席すること）
第２講－　講義と演習で、実践的なビジネス/テクニカルライティングの基礎を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリント配布（ライティング関連の書籍をクラスにて指定する場合もある。）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法Ⅵ（映像翻訳）

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

異言語・異文化間の翻訳、小説と映画などといったメディア間の翻訳、映画における字幕翻訳など、翻訳に関する諸問題について、映像を中心に考察する。

【授業計画】

第１回　紹介
第２－３　メディア・トランスレーション
Cinderella（おとぎ話）
Pretty Woman（映画）
第４　ゲスト・スピーカー
第５－６　異言語翻訳/ 翻訳化対脚本化 ：
Harry Potter/ハリー・ポッター
第７－８　異文化翻訳
Easy Rider
Days of Being Wild
第９－11　ジェンダー・トランスレーション
The Tango Lesson (UK)
Happy Together（HK）
第12　創造翻訳

【評価方法】

授業中の参加度、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究Ⅰ

榎田勝利

【授業の概要】
専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】
グローバル化の進展に伴い、日本の国際交流・国際協力活動の新たなる理念と戦略が求められている。
国際交流・国際協力活動の様々なアクター（担い手）である政府、地方自治体、企業、国際NPO、NGOなどにおける国際交流・国際協力活動の現状把握をした上で、総合的な戦略づくりのための理念学習とフィールドワークを実施する。また、各自が研究分野の基礎的知識と理解を深めるための以下の指定図書を購読することが求められる。

【評価方法】
授業への参加態度・プレゼンテーション、レポート等によって評価する。

【テキスト】
国際交流・協力活動入門講座Ⅰ　「草の根の国際交流と国際協力」
（毛受敏弘編著　明石書店）

【参考文献・資料】
<国連・国際機関分野>
国際連合の基礎知識（国際連合広報局　世界の動き社）
国連を問う（川上洋一著　NHKブックス）
<国際交流分野>
国際交流の理論（高橋直子著　勁草書房）
異文化体験入門（毛受敏浩著　明石書店）
国際文化論（平野健一郎著　東京大学出版会）、その他
<国際協力分野>
国際協力（下村・辻・稲田・深川共著　学陽書房）
ハンドブックNGO（馬橋・斉藤著　明石書店）
日本のODAをどうするか（渡辺利夫・草野厚著　NHKブックス）、その他
<国際理解・開発教育分野>
国際理解教育（佐藤郡衛著　明石書店）
世界の開発教育（オードリー・オスラー編　明石書店）、その他
<国際ボランティア分野>
国際ボランティアガイド（バックストン美登利著　The Japan Times）
ボランティア学のすすめ（内海成治著　昭和堂）、その他
<多文化共生社会>
新　在日外国人（田中宏著　岩波新書）
多文化共生のジレンマ（加藤秀俊著　明石書店）、その他

多元文化研究Ⅰ

大野清幸

【授業の概要】
専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】
第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講－　学術論文などを利用して演習

【評価方法】
出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】
学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅰ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】
専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】
第１回　紹介
第２～３回　テーマを選択
第４～５回　研究の計画
第６回　インタービュー
第７～10回　研究中
第11回　レポート
第12回　レポートに関するオーラル・プレゼンテーション

【評価方法】
研究の計画、レポート

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
なし

多元文化研究Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】
専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】
1．下記のテキストを用いてロシア文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
2．文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
3．現代ロシア文学の短編小説を講読する。
なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。

【評価方法】
授業での平常点と期末レポートによる。

【テキスト】
はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編　ミネルヴァ書房）

多元文化研究 I

チョ スルソップ

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

古代以来、日本と特に密接な交流があった朝鮮半島を扱う。そこに住む人々の歴史・生活相・外国との交流など、朝鮮全般を理解し朝鮮文化を一つの異文化として見つめる作業を行う。さらに、日本関連の朝鮮資料を講読することで、日本人や日本文化をよりよく知ることを心がける。

第１回　　：オリエンテーション
第２回～第４回：朝鮮半島の自然環境、地理環境
　　韓国・朝鮮人の形成と民族性
　　生活様式
　　視聴覚資料「韓国人の一生」から学ぶ
第５回～第８回：韓国・朝鮮の民族文化
　　（外国由来のものと独自のもの）
第９回～第12回：歴史と思想史
　　韓国は日本と中国をどう見ているか。
　　映画「JSA」から学ぶ
第13回～第14回：伝統と現代のさなかで
　　分断時代の課題
　　世代の葛藤
　　映画「シュリ」から学ぶ
第15回　　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

韓国百科（秋月望他　大修館書店）
現代韓国を知るための55章（石坂浩一他　明石書店）
日韓文化論（韓国文化通信使フォーラム　学生社）

多元文化研究 I

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。このゼミでは、色々な国の文学作品や映画などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティーをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究 I

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

言語を対象とした研究にはどのような分野やアプローチがあるのかを知るために、言語学の入門書（英文）をテキストとして、オーラルレポートによって輪読する。受講生は担当箇所についての入念な準備が必要となる。

英語を勉強するのではなく、英語を通して勉強をする・新しい情報を得るという姿勢が望まれる。この授業を通して、本の読み方、参考文献の調べ方、分かりやすい発表のしかたなどを学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究 I

中野弘三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

言葉の正しい使い方には、文法的に正しい使い方をするという側面と、場面（状況）や話し相手に見合った適切な使い方をするという側面がある。後者の場面（状況）や話し相手に即した言葉の使い方を学問的に研究する分野として、語用論と呼ばれる分野がある。このクラスでは、その語用論の観点から、英語や日本語のいくつかの表現を取り上げてその用法や問題点を考察する。このクラスでは、主として、

1）丁寧表現―英語の丁寧表現と日本語の敬語の比較、および言葉遣いにおける丁寧さ（politeness）とは何かの考察
2）曖昧表現―話し相手を困らせないよう、また反対に自分が（話し相手から突っ込まれて）困らないよう、話の内容を曖昧にするぼかし言葉（hedge）や間接表現の機能

など、英語や日本語の会話表現に関わる問題を扱う。

【評価方法】

出席状況、授業での発表、レポートなどに基づき評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究 I

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。本授業では、文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「19世紀英国の女性の表象」

1．19世紀の英国女性の歴史的外観
2．家庭の天使と娼婦
3．眠る女
4．救出される女
5．救出されない女

女の文化的表象を英語文学や絵画から分析しながら、併せてジェンダー批評を学ぶ。

・ピグマリオンとガラテア
・蛇（イヴ）
・水死（オフィーリア）
・斬首（サロメ）
・鏡（白雪姫、ナルシシズム）

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究 I

ブイ チ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。そのために、特に国際交流・理解・協力やNPO/NGO活動に関する指定図書の輪読及び資料の整理・発表を学習する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いや発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

「世界」を知れば、「自分」が見える
（「高校生の国際理解」取材班　数研出版2002）
福祉キーワードシリーズ　ボランティア・NPO
（雨宮孝子・小谷直道・和田敏明　中央法規出版2002）

多元文化研究 I

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

グローバル化した国際社会では、国家間の協調共存の維持と国際市民社会発展への貢献を日本は要求されている。国際社会の一員としての日本社会の構造的特徴と欠陥を学び、同時に人類の文明史を概観し、文明のアイデンティティと大きな国益が両立する「日本の選択」のあり方を研究する。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

日本人と「日本病」について（岸田秀・山本七平共著　文春文庫）
他文化世界（青木保著　岩波新書）
現代が受けている挑戦（A.J.トインビー著　新潮文庫）
文明の衝突と21世紀の日本（S.P.ハンチントン著　集英社新書）

多元文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学的な観点から、国際社会にかかわる諸問題を第三世界諸国を中心に検討する。そのため、学期のはじめに社会科学的なものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、民主化や民族問題、経済開発をめぐる諸問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当個所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

国際政治史としての20世紀（石井修　有信堂）
講座国際政治（1）　国際政治の理論（有賀貞編　東京大学出版会）
国際関係学講義（原彬久　有斐閣）

多元文化研究Ⅱ

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰの成果をもとに、多元文化専攻Ⅱでは、
国際交流・国際協力活動団体の総合的な戦略づくりのための組織運営、ネットワーク等の理念と実践事例を学ぶ。国内における先進的地域へのフィールドワークを実施する。フィールドワークの調査結果は、まとめて授業時間内で発表し討論する。引き続き学生は指定図書により学習をすすめる。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅱ 「国際交流の組織運営とネットワーク」
(榎田勝利編著　明石書店)

【参考文献・資料】

<国連・国際機関分野>
国際連合の基礎知識（国際連合広報局　世界の動き社）
国連を問う（川上洋一著　NHKブックス）
<国際交流分野>
国際交流の理論（高橋直子著　勁草書房）
異文化体験入門（毛受敏浩著　明石書店）
国際文化論　（平野健一郎著　東京大学出版会）、その他
<国際協力分野>
国際協力（下村・辻・稲田・深川共著　学陽書房）
ハンドブックNGO（馬橋・斉藤著　明石書店）
日本のODAをどうするか（渡辺利夫・草野厚著　NHKブックス）、その他
<国際理解・開発教育分野>
国際理解教育（佐藤郡衛著　明石書店）
世界の開発教育（オードリー・オスラー編　明石書店）、その他
<国際ボランティア分野>
国際ボランティアガイド（バックストン美登利著　The Japan Times）
ボランティア学のすすめ（内海成治著　昭和堂）、その他
<多文化共生社会>
新　在日外国人（田中宏著　岩波新書）
多文化共生のジレンマ（加藤秀俊著　明石書店）、その他

多元文化研究Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講　学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

第１回　紹介
第２回　レポートの計画
第３～５回　レポート
第６回　Report Check and Edit
第７～10回　レポート
第11回　Final Check and Edit
第12回　研究レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

「研究Ⅰ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。
研究発表に先立ち、ロシア文学・ロシア文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編　ミネルヴァ書房）

多元文化研究Ⅱ

チョ スルソップ

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

21Cの動向が世界的に注目されている中国を扱う。そこに住む人々の歴史・生活相・外国との交流など、中国の全般を理解し中国文化を一つの異文化として見つめる作業を行う。さらに、日本関連の中国資料を講読することで、日本人や日本文化をよりよく知ることを心がける。

第1回　：オリエンテーション
第2回～第4回：中国人の対日本観
　国交樹立からの30年間
第5回～第8回：国家と政治・経済
　改革・開放路線
　独自の政治体制および多極化する自主外交
　映画「正義の行方」から学ぶ
第9回～第10回：歴史と思想史
　近代以前（中華思想と異民族）
　教育および近・現代社会
第11回～第12回：生活と文化
　日常の暮らし、年中行事、社会問題
　言葉と文字、芸能、絵画、スポーツ
　映画「生きる」から学ぶ
第13回～第14回：人と自然
　民族、人口、資源、環境
第15回　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

中国百科（小島眞治ほか　大修館書店）
現代中国を知るための55章（高井潔志　明石書店）
中国学芸大事典（近藤春雄　大修館書店）

多元文化研究Ⅱ

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究を行います。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめ、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

自分の研究テーマを見つけてそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

学生が興味を持った言語に関するテーマについて発表するレポート形式と、受講生全員が共通のテキスト・論文を読み進めていく輪読形式を交互に行う。各自が研究テーマを設定していくことが大きな目標である。

コンピュータを用いたコーパス分析の方法も指導する。受講生は、各自の分析結果もレポートする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井稔編　三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編　三省堂）
［最新］英語構文事典（中島平三編　大修館書店）

多元文化研究Ⅱ

中野弘三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

「研究Ⅰ」に継続して英語・日本語の表現を取り上げ、語用論的な観点からその用法や問題点を考察する。このクラスでは、

1）会話の含意―発言の文字通りの意味とは異なる言外の意味の伝え方
2）発話行為―文の発話によって行われる話し手から聞き手への働きかけ
3）ダイクシス表現―英語のcomeとgo, hereとthere、日本語の「来る」と「行く」、「もらう」と「あげる」などダイクシス表現の用法

などを取り上げ、言語表現と発話の場面や話し手/聞き手との関係を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業での発表、レポートなどに基づき評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：男と女の文化的表象

この授業は前期の発展である。児童文学や映画に現れる男女の文化的表象を探る。

児童文学：

『小公女』

『秘密の花園』

『ピーターパン』

『若草物語』

映画：

『クレーマー・クレーマー』『ミセス・ダウト』『ワーキング・ガール』

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

多元文化研究Ⅱ

ブイ チ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。

多元文化研究Ⅰにおける指定図書の輪読や資料の整理の後、個別に選択したテーマについてレポート作成。また関係機関への訪問、資料収集を行い、レポート提出。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

複雑化する社会現象を理解・把握するため、具体例を挙げ社会科学的思考をみにつける。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

自己学習のため毎週５大新聞の論説を各自選択。

【参考文献・資料】

社会科学入門（猪口孝著　中公新書）

多元文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

本演習では、前期の多元文化研究Ⅰで学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについての諸文献を精読する。

学期の初めは多元文化研究Ⅰと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学的視点から論じた文献を精読する。その後、受講生の関心によって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰおよび多元文化研究Ⅱ、そして、フィールドワーク、指定図書の購読等で取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動をする。

各自の研究分野のテーマをまとめ、授業で発表し討論を行う。また、夏期休暇に実施する東南アジア（今年はタイを予定）への調査研修旅行のための事前学習を行う。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

国際協力のフィールドワーク（庄野護著　南船北馬舎）
アジア太平洋のNGO（日本国際交流センター編　アルク）
もっと知りたいタイ（綾部恒雄・石井米雄編　弘文堂）
アジア読本・タイ（小野澤正喜編　河出書房新社）
タイー開発と民主主義（末廣昭著　岩波新書）
アジアの歩きかた（鶴見良行著　ちくま書房）
アジア・共生・NGO・タイ、カンボジア、ラオス　国際教育協力の現場から（曹洞宗国際ボランティア会編明石書店）、その他

多元文化研究Ⅲ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

第１講　　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講－　学術論文などを利用して演習

その他、「多元文化研究Ⅲ」、または「多元文化研究Ⅳ」において、国内、または海外における学外教育・ゼミ研修などを実施する可能性があります。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅲ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

第１回　　紹介
第２～３回　テーマを選択
第４～５回　研究の計画
第６回　　インタービュー
第７～11回　研究中
第12回　　研究レポート

【評価方法】

研究方法、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

1．下記のテキストを用いてロシア文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
2．文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
3．現代ロシア文学の短編小説を講読する。

なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。
（今年度の３年次学生に対しては「多元文化研究Ⅰ」と同じ授業内容となります。）

【評価方法】

授業時の平常点、および期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編　ミネルヴァ書房）

多元文化研究Ⅲ

チョ スルソップ

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

日本の中にある韓国・朝鮮、日本文化の中に求められる韓国・朝鮮文化を探索することにより、朝鮮と日本間における人と文化の交流様相を把握する。さらに、そのような交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし、如何なる意味合いを持ち合わせているのかについて検討する。

第１回　：オリエンテーション
（文化に主流、亜流の分別は可能であるか。）
第２回～第４回：神話の世界
（創世神話、王朝起源神話など）
第５回～第８回：文字文化の展開
（朝鮮の文字文化の成立と日本の文字文化の成立、朝鮮と日本の金石文字など）
映画「春香伝」から学ぶ言語および視覚芸術
第９回～第10回：村落構造と城郭
（朝鮮の城郭、その性格と日本の城郭およびその性格、朝鮮の村落と日本の村落など）
第11回～第12回：在日コリアンの世界から
（民族教育と社会問題、宗教と祭り、映画「GO」から学ぶ
第13回～第14回：生活の中にある韓国・朝鮮
（高麗神社、茶道の世界においてなど）
第15回　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

古代東アジアの文化交流（井上秀雄　渓水社）
在日コリアンの宗教と祭り（飯田剛史　世界思想史）
日韓異文化交流ウォッチング（石坂浩一　社会評論社）

多元文化研究Ⅲ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。このゼミでは、色々な国の文学作品や映画などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティーをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅲ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、先行研究を分析するとともに、オリジナルな研究を進める足がかりを作る。授業で毎時間行う研究発表に対する質問やコメントなどを通じて、ものごとを批判的・創造的にとらえる視点を養う。

このほか、受講生全員が共通の論文（和文・英文）を輪読形式で読み進めていき、言語学的な思考方法を学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「19世紀英国の女性の表象」

1．19世紀の英国女性の歴史的外観
2．家庭の天使と娼婦
3．眠る女
4．救出される女
5．救出されない女
6．母性の概念

映画における女性の表象も扱う

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究Ⅲ

ブイ チトルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

国際交流・協力活動及びNPO/NGOの組織運営や社会的役割に関する研究を中心に全体的なガイダンスと個別面談により各自の個別研究テーマを仮決定する。

仮テーマ決定後、学生による調査・情報収集や資料整理を行い、発表・討論する。また課題分析はじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

テクノロジーの普及、環境破壊、人口移動、政治の分解、経済の統合などが相互に影響しあい、国際社会に質的にも量的にも大きな変容をもたらしている。これら国際社会変容が国際秩序に与える影響について、各自テーマを設定し、研究方法について討議し、研究活動をする。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・S.ナイ著　有斐閣）

多元文化研究Ⅲ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書にまとめる。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻繁に利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

多元文化研究Ⅳ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰ、多元文化研究Ⅱ、多元文化研究Ⅲ、そして、フィールドワーク、指定図書の購読等で取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動を進展させる。

また、東南アジアでの調査研修旅行は、学生各自あるいはチームで調査研究テーマを決め、その成果をまとめ報告書を作成する。

【評価方法】

授業への参加態度、報告書作成への貢献度、レポート等で評価する。

【参考文献・資料】

フィールドワークの新技法（中村尚司・広岡博之編　日本評論社）
レポート・小論文・卒論の書き方（保坂弘司著　講談社学術文庫）

多元文化研究Ⅳ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講　学術論文などを利用して演習

その他、「多元文化研究Ⅲ」、または「多元文化研究Ⅳ」において、国内、または海外における学外教育・ゼミ研修などを実施する可能性があります。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅳ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

第１回　紹介
第２回　レポートの計画
第３～５回　レポート
第６回　Report Check and Edit
第７～10回　レポート
第11回　Final Check and Edit
第12回　卒業研究レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅳ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

「研究Ⅲ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。

研究発表に先立ち、ロシア文学・ロシア文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

（今年度の３年次学生に対しては「研究Ⅱ」と同じ授業内容となります。）

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編　ミネルヴァ書房）

多元文化研究Ⅳ

チョ スルソップ

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

日本の中にある中国、日本文化の中に求められる中国文化を探索することにより、中国と日本間における人と文化の交流様相を把握する。さらに、そのような交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし、如何なる意味合いを持ち合わせているのかについて検討する。

第１回　：オリエンテーション
　映画「赤いコーリャン」から学ぶ中国人の日本論および日本人の中国論
第２回～第４回：中国の文学・史学・哲学と日本文学・史学・哲学
　儒教と孔子と論語
第５回～第８回：インド仏教と中国仏教と日本仏教
　原始仏教と大乗仏教、そして妻帯
第９回～第10回：中国芸術の世界
　書道・美術と関連して
　庭園様式
　食とお茶・お酒
第11回～第14回：生活の中にある中国
　日中交流30年
　在日本留学生の６割を占める中国人留学生らの様相など
第15回　：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

日本における中国伝統文化（蔡毅　勉誠出版）
西洋近代文明と中華世界（狭間直樹　京都大学学術出版会）
死後の世界（田中純男　東洋書林）

多元文化研究Ⅳ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究を行います。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめ、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

卒業研究に向けて自分の研究テーマを見つけそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅳ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、どのようにすればオリジナルな研究となるかを具体的に考え、授業内で報告・討議する。この授業が終了するまでに、受講生全員が卒業論文のテーマを確定する。

また、受講生全員での共通の論文（和文・英文）の講読を進める。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井稔編　三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編　三省堂）
［最新］英語構文事典（中島平三編　大修館書店）

多元文化研究Ⅳ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「英米文化における母性表象」

母性という制度がどのように誕生し、時代とともにどう変遷したのかを探りながら、母性理論を学びながら文学作品や映画を分析する。

1．母性の概念の誕生と定着
2．母性という制度
3．母娘の葛藤
4．母とフェミニズム
5．母性とテクノロジー
6．妊娠の表象

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究Ⅳ

ブイ チ トルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

個別指導により学生の研究テーマ決定。学生による調査・情報収集、資料整理、発表や討論を指導する。課題分析はじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

また学生がフィールドワークやそれぞれの訪問先についての報告書のまとめや発表を行う。この時、課題整理や提言内容を重視する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

現代国際諸問題の中には、従来の国際政治の枠組みで理解できるものと、地球政治の枠組みでないと理解できないものがある。両枠組みをもう一度学び、グローバリゼーションという多次元的な現象が世界の各地各層に浸透していくプロセスを学ぶために、歴史の視野とリアリズムに加えて、新たな視点・思考を発展的に研究していく。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際政治とは何か（中西寛著　中公新書）
地球政治の構想（猪口孝著　NTT出版）

多元文化研究Ⅳ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書を書く。必要に応じて、観察・面接・調査などを用いて、各自でデータを収集する。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻繁に利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

卒論指導Ⅰ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

個別の卒業研究テーマを決定するための数回にわたるガイダンスと個別面談を行う。

研究テーマの決定過程で、学生による個別研究テーマの発表と討論を行う。

個別の研究テーマを指導する上で、情報収集の方法、調査訪問先やフィールドワーク先等を指導する。

その都度学生からのフィードバックの時間を設け指導する。

【評価方法】

平常点と研究テーマのレポートで評価する。

卒論指導Ⅰ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**
第２講　学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

卒論指導Ⅰ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

第１回　紹介
第２回　研究に関するレポートのテーマを選択
第３回　目次を創る
第４回－８回　レポートを書く
第９回－10回　レポートを編集
第11回　参考文献
第12回　レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

卒論指導Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導Ⅰ

チョ スルソップ

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

毎時間ごとに、卒業論文の作成をめざして各自設定した研究テーマを１人乃至２人が発表し、その内容を土台に「論文のテーマ選定」「構成」「資料入手と利用法」などについて討論を行い、適切な形での卒業論文の完成・提出をめざす。さらに、最終２回の授業は、同ゼミ参加者の卒業論文作成の進展に役立つテーマが存在する現場を訪ねて学習を行うフィールド学習に当てる。

第１回　：オリエンテーション
　　テーマ選定の調査と確認
　　期間授業のコーディネート
第２回～第６回：個人発表および討論
第７回　：中間まとめ
第８回～第12回：個人発表と討論
第13回～第14回：フィールド学習
第15回　：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、卒業研究レポートの進展などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

各自準備したレジュメ、あるいは授業中のプリント教材を用いる。

卒論指導Ⅰ

TOFF, Mika

【Course Content】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【Schedule】

学生が各自で選択したライフ・ライティングに関するテーマについて、論文作成の指導を行う。毎週の授業では、学生が論文の進行状況を発表し、ディスカッションを行う。

【Assessment】

出席状況、授業における発表、ディスカッションへの参加等により総合的に評価する。

【Textbooks】

授業中に指示する。

卒論指導Ⅰ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

学生が各自で設定した言語に関する研究を、論文にまとめる準備を行う。その際、先行研究の整理にとどまらず、独自のデータや資料を収集・整理・分析することを特に心がける。この授業が終了するまでに、卒業論文の中間発表ができるようになるまで研究を進めることを目標とする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒論指導Ⅰ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の指導をする。
個人発表とそれに対するディスカッションを行う。

【評価方法】

出席状況、論文への取り組み、討論への参加などにより総合的に評価する。

卒論指導Ⅰ

ブイ チ トルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自の卒業研究テーマ決定後、さらに文献やフィールドワーク調査企画作成のため数回の個別面談を行う。
情報収集、整理、比較及びリポート作成指導
フィールドワーク調査によるリポート作成指導
個人発表とゼミ全員による討論
中間リポート作成

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、学習態度、積極性などを総合的に評価する。

【テキスト】

研究テーマに沿って指示する。

卒論指導Ⅰ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自、研究テーマ設定、問題提示、諸説の比較検討、情報収集、論点・論拠の提示、研究調査手法を学び、研究テーマにつき報告し、批判をうける。

【評価方法】

卒業論文完成に向けて、研究態度、研究方法などを総合的に評価する。

【参考文献・資料】

研究テーマに応じて指示する。

卒論指導Ⅰ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自の研究テーマについて研究しつづけ、理解を深めていく。既存の日本語および英語などのデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。必要に応じて、観察・面接・調査などを用いて、各自でデータを収集する。先行研究、各自研究結果をまとめる研究報告書を書く。

【評価方法】

研究報告書を元に評価

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

卒論指導Ⅰ

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各受講生が設定したテーマをもとにして卒業論文の作成をおこなう。

授業においては、それぞれの研究あるいは論文執筆の進捗状況を報告し、他の受講生とのディスカッションを通して更にテーマを掘り下げていく。

なお、本授業（前期）終了時までに卒業論文のアウトラインが完成していることを目標とする。

【評価方法】

出席状況と研究報告、レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

別途指示する。

卒論指導Ⅱ

榎田勝利

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業研究レポート（卒業論文またはフィールドワーク調査報告書）を作成する上での個別の指導を行い、卒業レポートを提出する。

【評価方法】

卒業論文またはフィールドワーク報告書をもって評価する。

卒論指導Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

第１講　授業計画指示など。**必ず出席すること！**

第２講－　学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

卒論指導Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

第1回　紹介
第2回　レポートのアウトライン
第3回－8回　レポートを書く
第9回－10回　レポートを編集
第11回　参考文献
第12回　レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

研究に関する資料

卒論指導Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導Ⅱ

チョ スルソップ

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業論文の個人テーマ別個人指導を行い、各自の研究テーマが卒業研究レポートとして完成できるように指導を行う。各授業においては、より良い卒業論文作成に役立つ資料の解読法習得に重点を置き、適切な資料を精読して討議するものにする。

第1回　：オリエンテーション
　　テーマ研究の進行状況の把握
　　期間授業のコーディネート
第2回～第6回：討論および個人指導
第7回　：中間まとめ
第8回～第14回：討論および個人指導
　　卒業論文の提出に向けての最終点検および事後点検
第15回　：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、卒業研究レポートの成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

各自準備したレジュメおよび授業中のプリント

卒論指導Ⅱ

TOFF, Mika

【Course Content】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【Schedule】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各自が選択したライフ・ライティングに関するテーマについて、論文作成の個別指導を行う。

【Assessment】

卒論作成への取り組みも考慮し、提出された卒業論文を評価する。

卒論指導Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

これまでの研究成果に基づき、言語に関するテーマについての研究を卒業論文にまとめる。論旨の起承転結を考え、各章がうまくつながるように構成して、説得力とオリジナリティのある論文の作成を目指す。

卒業論文の作成と平行して、これまでに扱えなかった言語事象についても、討論形式で考察する。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井稔編　三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編　三省堂）
［最新］英語構文事典（中島平三編　大修館書店）

卒論指導Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒論指導Ⅰに引き続き、各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の個別指導をする。

【評価方法】

卒論テーマへの取り組みや提出レポートにより総合的に評価する。

卒論指導Ⅱ

ブイ チ トルン

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業論文（フィールドワーク調査報告書含む）作成のための個別指導を行う。

個人発表とゼミ全員による討論
卒業論文の作成・提出

【評価方法】

卒業論文をもって評価する。

【テキスト】

研究テーマに沿って追加指示する。

卒論指導Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

研究成果の集約や発表などの基礎技術を習得しながら、卒業論文を完成させる。

【評価方法】

卒業論文の完成度を評価する。

卒論指導Ⅱ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業研究レポート（発話データ基づいた研究結果報告書）を作成に向けて、個別指導を行う。

【評価方法】

卒業研究レポート

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

卒論指導Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒論指導Ⅰに引き続き、個別指導を軸にして卒業論文作成の指導をおこなう。

【評価方法】

卒業論文の完成度によって評価する。

卒業論文を提出しない受講生については、単位習得を認めない。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

別途指示する。

文化創造総論

篠 弘

【授業の概要】

伝統文化の継承の問題および現代文化のあるべき姿や方向に関する具体的な問題の検討を踏まえながら、文化創造学部の基本理念「文化創造」の意義やあり方について学ぶ。

【授業計画】

第１講　概論：日本語の現在
第２講　各論：美しい日本語
第３講　各論：詩的表現
第４講　各論：辞典の効用
第５講　概論：四季と風土
第６講　各論：古代人の感性
第７講　各論：日本人の死生観
第８講　概論：知的好奇心
第９講　各論：差別的表現
第10講　各論：組織と人間
第11講　各論：ボーダレスの時代
第12講　各論：プランニング
第13講　単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

集英社新書　疾走する女性歌人（篠弘著　集英社刊　680円＋税）
必要に応じて、プリントを配布する。

環境文化創造Ⅰ（総論）

多田萬里子

【授業の概要】

現代社会が直面している環境問題を、主に生体に及ぼす影響の観点から学び、我々の生活、健康と環境の関わりについて学ぶ。

【授業計画】

1．地球の生物システム
　地球環境と生物の進化
　生物システムの中のヒト
　ヒトから文化・文明を環境とする人間に、生物の共通性と多様性
　ゲノム（DNA）に書き込まれた生命の歴史
2．地球環境と人の生活
　地球規模の環境問題
　酸性雨、温暖化、海洋汚染など
　オゾン層破壊と紫外線障害
　環境汚染物質の人体への影響
　内分泌撹乱物質、発癌物質など
3．科学技術の発展と環境問題
　バイオテクノロジーと生態系
　21世紀の人の生活

【評価方法】

出席状況、授業内の小テスト、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

明日の環境と人間（川合真一郎ら著　化学同人）
環境生物学（松原聡著　裳華房）
岩波講座：科学/技術と人間（岩波書店）
その他授業中に適宜紹介する

環境文化総合講座Ⅰ

杉浦信彦　多田萬里子　楊 衛平

【授業の概要】

現代社会における環境問題を主に「健康と環境」との視点を軸として、健康に生活するための環境のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員多田萬里子教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。
（杉浦信彦教授）日常生活における様々な身体的リスクへの対処法について主として飲料水の安全性から学ぶ。
（多田萬里子教授）環境文化総合講座Ⅰ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙いと問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、外的環境要因が人の健康に及ぼす影響について人体内部環境の維持、感染症、アレルギーなどについて学ぶ。
（楊衛平教授）健康な日常生活のハード、ソフトの整備を主に東洋医学的な観点から学ぶ。

【授業計画】

1．　健康と環境　　多田萬里子
　地球環境と人の生活
　環境化学物質と健康
　現代社会と感染症
　まとめ
2．　環境要因としての水　　杉浦信彦
　地球環境としての水
　生命と水
　水はだれにものか
　まとめ
3．　食生活と健康　　楊　衛平
　伝統医学に見る食養
　生活習慣病に対する伝統食養法
　症状別の生薬の分類と活用法
　まとめ

【評価方法】

各授業内容ごとのレポートまたはテストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化総合講座Ⅱ

高橋啓介　永田忠夫　若松孝司

【授業の概要】

現代社会における環境を１つの文化として捉え、「生活と人間」との視点を軸として、人間性豊かな生活文化のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員永田忠夫教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。
（永田忠夫教授）環境文化総合講座Ⅱ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙い、問題意識を明らかにする。また、本講座の１トピックスを担当し、ストレスがもたらす様々な心理的問題を主に臨床心理学の観点から学ぶ。
（高橋啓介教授）外的環境の知覚・認知処理の様式や特性を心理学の観点から学ぶ。
また、メディアの急速な進歩が、今日の情報社会の環境に及ぼす影響について学ぶ。
（若松孝司講師）開発に伴って生じる多様な生活・文化に関わる環境問題を、国際開発論の視点から学ぶ。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。
1．「人間性豊かな生活文化」を考える視点について
　1）「生活と人間」領域のテーマについて
　2）人間社会における適応について
2．人は、ストレス社会でどのように心理的な適応を保つのか
　1）ストレスを生じさせる環境
　2）ストレスへの対処の仕方
3．人は、外的環境をどのように認知しているのか
　1）われわれは何を見ているのか
　2）われわれはどのように見ているのか
4．情報社会のなかで、マルチメディアの発展がなにをもたらすのか
　1）第３の人権
　2）メディアリテラシーとエンパワーメント
5．国際開発が、生活・文化環境にどのような影響をもたらすのか
　1）都市開発が社会・生活環境にどのような影響をもたらすのか
　2）農村開発が社会・生活環境にどのような影響をもたらすか
　3）国際政治において地球環境問題がどのように扱われているのか
　4）国際開発に対する日本の役割とはどのようなものか

【評価方法】

出席状況、各授業内容ごとのレポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

各担当教員が授業時に指示する。

電子メディア論

LEWIS, Paul

【Course Content】

現代社会の特性である電子メディア社会の側面が我々の生活文化に対して有する問題点と可能性について主として語学教育の場面を対象に学ぶ。

【Schedule】

[This course is given in English]

Lesson 1：An Introduction to Electronic Media
Lessons 2－10: Implementation of Electronic Media
Lessons 11－12: Project work

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and project work.

ファッション・コーディネイト

村松世紀子

【授業の概要】

快適な服装や衣生活の心理的・社会的要因について分析し、服装に関する新しい知識を身につけるとともに、装いに関するコーディネイトの基礎理論を理解し、美的選択眼と構成力を実践的に身につける。

【授業計画】

1．知っているとたのしい話
　・服装史と文化
　・服装史と現代
2．パリコレクション
　・デザイナー
　・流行
　・ブランド
3．創作
　・アクセサリー
　・Tシャツ

【評価方法】

レポートによる評価

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する

※作品を1．2点制作するための材料費が必要です

高齢化社会論

楊 衛平

【授業の概要】

来るべき高齢化社会に向けて、健康で豊かな生活を実現するための方法とその実践を東洋医学の視点から学ぶ。

【授業計画】

1．高齢化社会に伴う医療の問題
2．老人医療における漢方の役割
3．東・西両医学の相違と融合へ
4．高齢者の生理、病理学的な特徴
5．よくみられる老人病と漢方対策
6．体質改善、老化防止と漢方補剤
7．不定愁訴を解消する漢方の活用
8．伝統医学による養生法A. B. C
9．経絡とわかりやすい養生ツボ
10. 身近な動.植.食物と養生薬膳
11. 心身両面バランスを調整する気功術
12. QOLの向上をはかる健康福祉への展望

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

老化を防ぐ漢方治療（広瀬滋之　光雲社）
体系中国老人医学（池上正治訳　エンタプライズ）
長寿精要（天津科学技術出版社編集）

保健福祉論

棚橋昌子

【授業の概要】

保健・医療・福祉の統合を進める最近の動向を踏まえて、地域や職域等における保健福祉の現状を理解する。特に母子保健・高齢者保健は住民の身近な問題として、地域保健法により地域密着型となり、地域福祉との接点が大きくなった。具体例により保健福祉の課題とあり方を学習する。

【授業計画】

第1回　保健福祉サービスの最近の動向
第2回　保健と福祉の接点1　保健からみた福祉
第3回　保健と福祉の接点2　福祉からみた保健
第4回　保健と福祉の接点3　生活の中の保健福祉
第5回　地域保健法
第6回　地域住民のニーズ1　母子の保健福祉
第7回　地域住民のニーズ2　高齢者の保健福祉
第8回　地域住民のニーズ3　職域と地域の連携
第9回　行政の保健福祉対策
第10回　保健福祉統計
第11回　保健と福祉の統合をめざす試み1
第12回　保健と福祉の統合をめざす試み2
第13回　保健と福祉の統合をめざす試み3
第14回　現代の保健福祉の課題
第15回　まとめ

【評価方法】

出席状況及びテストの総合評価とする

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

保健医療福祉の統合（前田信雄著　勁草書房）
これからの地域保健（厚生省健康政策局監修　中央法規出版）
保健福祉学概論（日本保健福祉学会編　川島書店）

家族関係論

永田忠夫

【授業の概要】

家族関係の分析方法と家族内の人間関係査定法とを学び、それによって様々な家族関係を具体的に学ぶ。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。

1．家族とは
2．家族をめぐる社会状況と問題点
3．家族関係をとらえる変数
4．家族ダイナミックス
5．家族の査定（家族マップ）
6．家族内コミュニケーション
7．家族コミュニケーションの査定
8．家族の危機とコミュニケーション

【評価方法】

出席状況、レポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

公衆衛生論

棚橋昌子

【授業の概要】

健康の保持、増進、疾病予防の問題を中心に、公衆衛生の理論と実践について学ぶ。

【授業計画】

第１回　健康の定義
第２回　疾病予防の歴史
第３回　疾病構造の変化
第４回　生活習慣病（1）
第５回　生活習慣病（2）
第６回　人口・出生・死亡
第７回　健康指標の検討（1）
第８回　健康指標の検討（2）
第９回　国際比較　世界のなかの日本
第10回　文明の発展と健康被害（1）
第11回　文明の発展と健康被害（2）
第12回　文明の発展と健康被害（3）
第13回　国民健康づくり対策
第14回　公衆衛生の課題

【評価方法】

出席状況と授業内演習の総合評価

【テキスト】

使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献・資料】

公衆衛生学（渡辺周一編　中央法規出版）
国民衛生の動向（厚生統計協会編）

健康管理論

杉浦信彦

【授業の概要】

健康の維持と増進をめざす生活習慣の確立について、食生活・運動習慣など健康科学の基礎の理解を通して、実践する能力を身につける。

【授業計画】

以下のテーマを中心に講義を行う。

1．オリエンテーション
WHOのMagna Carta of Healthに沿って、健康の意義、現代生活における多様な健康の在り方について言及する。
2．からだのしくみ
人体を構成する元素や成分について学ぶ。特に体の主成分としてのミネラルの重要性について理解する。
3．血液のしくみと働き
血液の性状やその働きを学ぶことにより健康管理の意義を理解する。
4．消化と吸収
生命を支えるエネルギー源の獲得器官である消化管のしくみを理解し、生活習慣病予防に関する基礎知識を習得する。
5．肥満と生活習慣病
肥満と生活習慣病との関わりを理解する。

授業の進め方は講義を主に、テーマによってはVTRの視聴や標本観察、簡単な実験・演習なども行う予定である。
※私語厳禁

【評価方法】

５～６回のメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および実験を含む３～４回の研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する。

東洋医学

楊 衛平

【授業の概要】

東洋医学の特性とその可能性について、特に西洋医学との比較において学ぶ。

【授業計画】

1．東洋医学とは（中国医学と漢方医学）
2．東洋・西洋医学の相違と接点
3．東洋医学の二重構造と疾病観
4．陰陽論・五行説の特徴と応用
5．基礎概念と臨床医学への応用
6．生薬の自然属性と薬名の由来
7．身近な薬用動物と植物の分類
8．医食同源と薬膳の作り方・レシピ
9．健康作りに役立つ簡単なツボ療法
10．生活習慣病に対する東洋医学対策
11．美容と痩身に役立つ伝統的な知恵
12．健康保険にキク漢方と選び方
13．東洋医学の診療情報とＱ＆Ａ

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

漢方の選び方・使い方（広瀬滋之　医学書院）
漢方治療のABC（日本医師会）

映画・演劇史

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

国内・国外の映画および演劇の歴史を実証的にたどり、映画・演劇の現代表現史における役割と意味を学ぶ。

【授業計画】

トーキー映画の発達史（1932～1965）

トーキー映画の到来(1927～31)によって、無声映画時代に高められた映画の「芸術」的な面は、一旦後退したかのように見えた。そのために、映画作家たちは、「映画とは何か」という問題を再検討しなければならなかった。1930年代は、映画において、再出発の時代になったのである。

この授業では、1930年代～60年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから、教室でディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。

1．映画トーキー化による諸問題
2．ルネ・クレール監督とトーキー映画芸術の確立
3．日本映画界のトーキー化
4．ハリウッド映画の発展
5．戦後イタリア映画とネオ・レアリスモ
6．フランス映画とヌーベル・ヴァーグ

1.と2.は一週間ずつ、3.～6.は各二週間予定。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

環境文化基礎演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、環境文化研究の基礎となる文献検索法やレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。

【授業計画】

以下の内容について授業を行う。ただし、本講義は再履修者対象であり、多元文化基礎演習との合併授業を予定している。詳細は授業担当教員の指示に従うこと。

（1）講義活用法
（2）文献検索法
（3）テーマ研究演習
　各自が設定したテーマに関する文献研究を実施し、それをレポートにまとめる。

【評価方法】

出席状況、講義への取り組みおよび各自が設定したテーマに関する文献研究のレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

大学生の学習テクニック（森靖雄著　大月書店）
論文・レポートのまとめ方（古都廷治著　ちくま新書）
理科系の作文技術（木下是雄著　中公新書）

資料収集法

丹下智香子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

以下のような流れに沿って進める。

1．調査計画立案（調査テーマの決定、目的/仮説の明確化）
2．調査票作成・実施（尺度作成、調査票の印刷、調査の実施）
3．データの分析（データの入力と分析）
4．報告書・レジュメ作成、研究発表

【評価方法】

出席状況（遅刻、欠席、早退の有無）、演習に対する取り組みの態度、および報告書の内容などにより評価する。

【参考文献・資料】

心理学マニュアル　質問紙法
（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤編著　北大路書房）

資料分析法入門

西 和久

【授業の概要】

収集した資料を適切に集計・分析し、そこに含まれる複雑な情報を解析する方法を学び、正しく解釈・推論する能力を身につける。

【授業計画】

第1講　イントロダクション
第2講　データの種類と処理、その入力方法
第3講　基本統計量と区間推定
第4講　2つの母平均の差の検定
第5講　対応のある2つの母平均の差の検定
第6講　ウィルコクスンの順位和検定
第7講　ウィルコクスンの符号付順位検定
第8講　1元配置の分散分析と多重比較
第9講　反復測定による1元配置の分散分析
第10講　2元配置の分散分析
第11講　繰り返しのない2元配置の分散分析
第12講　2つの母比率の差の検定

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順　第4版（石村貞夫著　東京図書）

【参考文献・資料】

すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析（内田治著　東京図書）
SPSSによる分散分析と多重比較の手順（石村貞夫著　東京図書）

環境文化創造Ⅲ（環境デザイン）

渡辺 達

【授業の概要】

現代人にとって、より快適な生活環境を創出するために、環境をどのようにデザインし、コーディネイトしてゆくことが好ましいかについて学ぶ。

【授業計画】

第1回　ガイダンス、講義予定、講義概要
第2回　新しい環境計画論（横浜港大桟橋国際客船ターミナル　から）
第3回　モダンデザインについて（日米のデザイナーのコラボレーション：豊田市美術館　から）
第4回　墓地のランドスケープについて（風の丘葬祭場と森の葬祭場の比較を通して）
第5回　屋上庭園について（アクロス福岡の計画案と実施設計の比較を通して）
第6回　建築に自然を取り込む取り組み（落水荘　から）
第7回　ゴミ処理場と環境デザイン（大阪市環境事業局舞洲工場）
第8回　ビオトープ概論1
第9回　ビオトープ概論2
第10回　緑の環境デザインについてのまとめ
第11回　水の環境デザインについてのまとめ
第12回　今後のデザインについて

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし
講義中にプリント配布

環境文化創造Ⅳ（科学技術文明と地球環境）

河宮信郎

【授業の概要】

多様な学問分野や技術を総合的に検討して、今日の環境問題を解決してゆく方途について学ぶ。

【授業計画】

人類は科学技術を利用して社会的なエネルギー代謝、物質代謝を飛躍的に拡大してた。この結果、自然生態系（有機的自然）および地球システム（無機的自然）を大きく変容させ、人類自身もその影響（反作用）を受けるようになった。科学技術文明の特質とその限界を明らかにし、自然環境とて調和していく道を探る。

1．現代科学技術の特性：情報・原発・建設等
2．生物進化と生物的多様性の発展
3．水循環と生命系：砂漠・森林・都市・耕地
4．資源枯渇・技術開発・資源代替：歴史における技術
5．エネルギー技術の歴史的発展と資源利用
6．酸性雨・オゾン層・土壌破壊：大気/水圏/土壌
7．地球生態系の化学汚染：発癌物質と環境ホルモン
8．化石燃料依存と「代替エネルギー」の問題点
9．地球温暖化問題とその対策
10．リサイクルの意義と限界
11．高度成長の終焉と持続可能な社会の構想

【評価方法】

授業中随時小試験を行い、知識の確認と定着を計る。
また出席状況、課題提出を求めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

必然の選択- 地球環境と工業社会（河宮信郎著　海鳴社）

コミュニティー環境Ⅰ（生活環境）

棚橋昌子

【授業の概要】

日常生活を取りまく物理的、社会的、心理的環境の問題について、その地域に生活する人間を主体とする視点から、現代における生活の質の向上の方途について学ぶ。

【授業計画】

1．コミュニティー環境と私たちの生活
2．公害問題から環境問題へ（1）
3．公害問題から環境問題へ（2）
4．環境基準の意義
5．健康からみた生活環境（1）
6．健康からみた生活環境（2）
7．環境配慮行動（1）
8．環境配慮行動（2）
9．環境家計簿の意義
10．消費型生活から循環型生活へ（1）
11．消費型生活から循環型生活へ（2）
12．環境にやさしい生活術
13．21世紀型生活を考える
14．まとめ

【評価方法】

出席状況とレポートの総合評価

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

生活環境論（岩槻紀夫編　南江堂）
生活環境の科学（佐島群巳・横川洋子編著　学文社）
環境白書（環境省編）
国民衛生の動向（厚生統計協会編）

環境文化創造Ⅴ（色彩学）

高橋啓介

【授業の概要】

現代社会の生活空間を構成する1要素である視環境について、特にそれを演出する色彩について、その心理学的側面を中心に学ぶ。

【授業計画】

第1回　光学系1
第2回　光学系2
第3回　色の表示1
第4回　色の表示2
第5回　色の表示3
第6回　色と分光分布1
第7回　色と分光分布2
第8回　測色1
第9回　測色2
第10回　色感覚・色知覚1
第11回　色感覚・色知覚2
第12回　色の心理効果
第13回　色彩調和1
第14回　色彩調和2
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況・授業態度（30点）、レポート課題（10点×2）、単位認定試験（50点）とし、加点法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。
なお、必要に応じて補講を実施することがある。
レポートの提出は、原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

新、基本色表シリーズ（財団法人日本色彩研究所　日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

・入門色彩心理学（滝本孝雄・藤沢英昭　大日本図書）
・色彩心理学入門（大山正　中公新書）

コミュニティー環境Ⅲ（民族文化）

石井祥子

【授業の概要】

民族に固有の文化の特性を、その民族の様々な次元の環境との関係において学ぶ。

【授業計画】

関連科目の「生活民族学」と同様に文化人類学における民族誌（異文化社会のフィールドワークの記録）を基礎とした内容である。「生活民族学」では様々な民族の生活様式や社会の多様性を比較するが、この授業では特に教授者がフィールドワークを行ってきたモンゴルをとりあげ、特定の社会における文化の諸側面を、環境との関わりの中でより深く理解することを目的とする。

1～3回　モンゴルの自然環境と遊牧の生活
4～5回　モンゴルの歴史
6～7回　モンゴルにおける社会主義経済と市場経済化
8～10回　モンゴルにおける都市の形成発展と遊牧社会との関係
11～13回　モンゴルにおけるコミュニティの特性、まとめ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末に行う試験による

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

適宜配布する。

コミュニティー環境Ⅳ（社会システム論）

山口 宏

【授業の概要】

日本の社会システムの構造的本質と、その問題点について学ぶ。

【授業計画】

「社会システム論」などというと、とても難しそうに聞こえますが、内容としては、自己感覚やコミュニケーション、家族、教育、差別など、社会の身近な問題について考えていきます。考え方として少し抽象的なところもありますが、分かりやすくお話しするつもりです。

1．戦後文化の流れと共同感覚
2．「こころ」の強調と自己感覚の変容
3．現代家族の困難と、家族像の変化
4．宗教の機能と現代宗教の特徴
5．教育・学校をとりまく状況の変化
6．情報社会とメディア
・・・など

【評価方法】

毎回、出席確認も兼ねた感想を書いていただいて、定期試験はなしで評価します。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

授業のなかで紹介していきますが、まず例えば、『図解　社会学のことが面白いほどわかる本』（浅野智彦編　中経出版　2002）などは読みやすいでしょう。

コミュニティー環境Ⅴ（コミュニティー福祉論）

永田 祐

【授業の概要】

本講義では、日本と海外におけるさまざまなコミュニティレベルのイニシアティブの事例の紹介と検討を通じて、コミュニティレベルにおける福祉実践の理論と実際を検討することを目的とする。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　コミュニティとは何か。
第３回　福祉概念の検討
第４回　コミュニティ福祉の主体①　政府
第５回　コミュニティ福祉の主体②　NPO
第６回　コミュニティ福祉の主体③　ボランティア
第７回　コミュニティ福祉の主体④　社会福祉協議会
第８回　コミュニティ福祉を支える仕組み①
第９回　コミュニティ福祉を支える仕組み②
第10回　コミュニティ福祉の実践例①
第11回　コミュニティ福祉の実践例②
第12回　まとめ

【評価方法】

出席、試験、数回の感想文などの提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。参考書は授業時に随時指示する。

【参考文献・資料】

講座地域福祉①地域福祉の広がり（栃元一三郎編著　ぎょうせい）

環境アメニティーⅠ（食環境）

楊 衛平

【授業の概要】

生活環境の基礎的要素のひとつである「食」について、東洋医学の側面から学ぶ。

【授業計画】

1．伝統食生活と食文化
2．近代食の変遷と現状
3．栄養学と伝統の認識
4．薬食同源の薬膳思想
5．食物素材の五味五性
6．春夏秋冬の変化と食
7．生活習慣病と食関係
8．精神的健康と食生活
9．疾病予防の養生飲食
10．症状別の食療と処方
11．美容とダイエット食
12．寒温別の食素材一覧

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典（楊衛平他編集　MEK出版局）
FOOD AND HEALING（Annemarie Colbin　世界文物出版社）
栄養療病（中央編訳出版社）

環境アメニティーⅡ（モード環境）

加藤國男

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「衣」について理解を深め、より豊かで快適な衣生活のあり方を実践的に学ぶ。

【授業計画】

第１講　衣生活の今―環境の重要性が言われる現在 私たちの衣を中心とした生活の現状
第２講　人は何を着てきたのか?
（１）木綿・麻
第３講　（２）ウール・獣毛
第４講　（３）絹
第５講　（４）化学繊維
第６講　絹織の歴史―中国からパリモードまで
（１）中国・西アジア
第７講　（２）ビザンチン・スペイン・イタリア
第８講　（３）フランス・ヨーロッパ・パリモード
第９講　小袖とTシャツ―和装の歴史とTシャツとの関連
第10講　洗濯と環境汚染
第11講　衣類の加工とアレルギー
第12講　パリ―江戸　循環の暮らしを考える
第13講　環境アメニティーと暮らし資源浪費の上に成り立つ豊かさの今、未来へ向けた環境循環、サスティナブルな暮らしと衣生活の為に

【評価方法】

出席状況と随時行うレポートの成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

カラー版　世界服飾史（深井晃子監修　美術出版社）
日本服装史（佐藤泰子著　建帛社）
織りと染めの歴史　西洋編（佐野敬彦著　昭和堂）
織りと染めの歴史　日本編（河上繁樹他著　昭和堂）
衣生活論―装いを科学する（小林茂雄編　弘学出版）
被服材料・整理学（弓削治編著　朝倉書店）
おしゃれの社会史（北山晴一著　朝日新聞社）

環境アメニティーⅢ（住居環境）

西 和久

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「住」について理解を深め、主として人間の快適で健康的な生活を保障する住居機能について学ぶ。

【授業計画】

第１講　イントロダクション：「住まう」とは何か?
第２講　環境心理学とは何か?：環境心理学のアプローチ
第３講　アメニティとは何か?：住環境アメニティにおける心理学的問題
第４講　「気持ちいい」を科学する：人間におけるプレザントネス（積極的快）
第５～８講　人間の認知・感情・行動の緊密な相互作用に関する心理学的アプローチと住環境アメニティへの援用可能性
（理論的背景、環境因子が人間に及ぼすネガティブな影響、物理的住居環境の改変、住環境のプレザントネスを高める積極的試み）
第９講　私たちが住居環境に求めるものとは何か?：快適環境に及ぼす「音楽」の心理学的効果
第10講　学期末レポートの説明
第11講　学習・医療福祉施設での住環境アメニティ：児童福祉施設の環境改善と子供の発達
第12講　環境アメニティと環境文化の創造：Change Agentとしての人間

【評価方法】

平常点30点（出席率および受講態度）、授業内レポート・学期末レポート70点により総合的に評価します。

【テキスト】

毎回レジュメを配布します。

【参考文献・資料】

環境心理学による生活のデザイン（A.メーラビアン著、岩下豊彦・森川尚子訳 川島書店）
その他、適宜紹介いたします。

環境アメニティーⅣ（都市環境）

渡辺 達

【授業の概要】

健康被害や安全危機をもたらす都市型公害をはじめとする現代都市の諸問題を明らかにし、より快適で健康的な生活環境としての都市のあり方について学ぶ。

【授業計画】

第１回　ガイダンス、講義予定、都市環境に於ける現状の問題点
第２回　住まいの健康問題の具体例１
第３回　住まいの健康問題の具体例２
第４回　環境に配慮した建築材料について
第５回　温熱環境計画１
第６回　温熱環境計画２
第７回　自然との共生
第８回　環境に配慮した地域計画
第９回　都市防災と防災計画の基本
第10回　都市防災計画の実例１
第11回　都市防災計画の実例１
第12回　都市環境における今後の課題

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし
講義中にプリントを配付

環境アメニティーⅤ（健康科学）

楊 衛平

【授業の概要】

健康な日常生活を営むために必要な生活活動条件の追求および快適な暮らしを営むための生活環境条件の整備について、主に医学的な視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

1．医療と未病医学
2．養生と道教思想
3．「天人合一」論
4．自然環境と健康
5．心身両面の調節
6．ストレス解消法
7．米と茶の食文化
8．春夏秋冬の養生
9．運動と予防治療
10．太極拳及び気功
11．身近な生薬紹介
12．滋養剤の活用法
13．健康生活の秘訣

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

今日の診療（医学書院）
中国医学百科全書（上海科学技術出版社）

環境アセスメントⅠ（生活衛生）

杉浦信彦

【授業の概要】

日常生活において生命や健康を脅かす眼に見えない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力を実践的に身につける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．生活の安全（１）
食品表示・添加物・農薬の功罪を中心に食生活の化学的安全について学ぶ。
3．生活の安全（２）
生活廃水等による水質汚染の現状と対策を中心に飲料水の生物・化学的安全について学ぶ。

授業の進め方は講義を主にテーマによってはVTRの視聴、資料供覧や課題レポートの作製などを行う予定である。

【評価方法】

授業において提示される課題についての研究レポート提出およびメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）提出

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する

環境アセスメントII（人体環境）

多田萬里子

【授業の概要】

人間の生命を支える人体の仕組みと働きについて学び、様々な外的環境要因と人体内部環境との関わりを、ホメオスタシスの視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

外的要因に対して人体がいかに反応するかを学び、健康を維持して行くためには多様な環境変化にどのように対応すればよいかを考える。

1．生体を維持する機構
　　からだのホメオスタシス
2．内分泌系による生体調節機構
　　ホルモンの働き
　　生活環境と内分泌系
3．刺激の受容と反応
　　神経系の情報伝達
　　ヒトの知覚作用
4．生体防御機構
　　免疫のしくみ
　　環境要因とアレルギー

【評価方法】

出席状況・授業内小テスト・期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

免疫の意味論（多田富雄著　青土社）
人体の構造と機能（エレイン・マリーブ著　医学書院）
その他授業中に適宜紹介する

環境アセスメントIV（情報環境）

LEWIS, Paul

【Course Content】

マルチメディア技術の確立に伴う高度情報化社会の問題点と可能性について主として語学習得の場面を対象として学ぶ。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。
Lesson 1：Analyzing hyperMedia environments.
Lessons 2－12：Learning & the www：Individual case studies.

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

環境アセスメントIII（心理環境）

永田忠夫

【授業の概要】

現代社会の特性となっている、ストレス社会の問題をメンタルヘルスの観点から学ぶ。

【授業計画】

1．環境と人間のかかわり
2．人と環境との調和（適応過程）
3．ストレスという考え方からとらえた適応
　1）ストレッサー
　2）ストレス反応
　3）ストレス対処
4．心理アセスメント過程について
5．ストレスのアセスメント
　1）ストレス反応のアセスメント
　2）ストレス対処法のアセスメント
6．欲求という考え方からとらえた適応
　1）欲求とは
　2）欲求不満・葛藤
　3）心理的問題の解決過程
7．欲求および欲求不満反応に関するアセスメント
　1）欲求の強さのバランスについてのアセスメント
　2）欲求不満反応のアセスメント

各テーマの中で、「心の健康」に関与する原因・結果（反応）・対処法をアセスメントできる測定尺度や心理検査を実施し、それに基づいて報告するレポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況を含む受講態度、アセスメントレポート、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に示す。

環境文化創造原理I（生命科学）

多田萬里子

【授業の概要】

現代の生命科学における最先端の研究成果を紹介し、生命現象の科学的な考察によって現代の生活環境が抱える根源的な諸問題を学ぶ。

【授業計画】

生物に共通に見られる生命現象を科学的に理解し、日々進展する科学技術が人の生活にどう貢献できるか、人との新たな関係をいかに築いて行くかを探っていく。

1．人体のなりたち
2．ゲノム・DNA・遺伝子
3．ヒトの遺伝
4．がん
5．DNA技術：遺伝子診断など医学への応用
6．ヒトの生殖と発生
7．生殖工学技術：クローン技術など
8．ヒトの寿命と老化
9．生命科学と人間の社会：新しい研究成果と人の生活

【評価方法】

出席状況・授業内小テストと学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

現代生物学（ウォーレス著　東京化学同人）
生命科学（中村　運著　化学同人）
分子生物学（田沼靖一編　丸善）
生命の意味論（多田富雄著　新潮社）
その他、授業中に適宜指示する。

環境文化創造原理Ⅱ（心理学）

高橋啓介

【授業の概要】

外的環境の評価の基礎となる人間の認知情報処理および外的環境への対処様式の問題を心理学の観点から学ぶ。

【授業計画】

第１回　科学的に人間を理解するということ
第２回　環境の認知１：ゲシタルト
第３回　環境の認知２：錯視
第４回　環境の認知３：恒常現象
第５回　環境の認知４：知覚の生態学的姿当性１
第６回　環境の認知５：知覚の生態学的姿当性２
第７回　環境の認知６：知覚の生態学的姿当性３
第８回　情動的適応１：情動のメカニズム
第９回　情動的適応２：防衛機制１
第10回　情動的適応３：防衛機制２
第11回　心理学の応用１：高度情報化社会１
第12回　心理学の応用２：高度情報化社会２
第13回　心理学の応用３：高度情報化社会３
第14回　単位認定試験１
第15回　単位認定試験２

なお、進度に応じて補講を実施することがある。また講座の途中で４回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況・授業態度（30点）、レポート課題（10点×２）、単位認点試験（50点）とし、加点法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、レポートの提出は、原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

人間行動の心理学（原岡一馬　ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

・サブリミナル・マインド（下條信輔　中公新書）
・「成熟」へのレッスン（高橋啓介　ナカニシヤ出版）

環境文化創造原理Ⅲ（人間工学）

向井希宏

【授業の概要】

「人間工学」とは、人間と人間をとりまく環境との最適な関係を実現するための科学である。授業では、現代社会における生活の快適性を追求した研究例やその方法論について概説するとともに、人間重視の立場から労働生活をながめ、日常生活を考え、環境条件についても考察する。

【授業計画】

第１回　人間工学とは
第２回　人間工学の展開
第３回　労働と人間（１）
第４回　労働と人間（２）
第５回　マン・マシン・インターフェイス（１）
第６回　マン・マシン・インターフェイス（２）
第７回　環境と人間（１）
第８回　環境と人間（２）
第９回　事故とヒューマンエラー（１）
第10回　事故とヒューマンエラー（２）
第11回　情報化社会と人間（１）
第12回　情報化社会と人間（２）
第13回　総括
第14回　単位認定試験

【評価方法】

主として、単位認定試験の成績をもとに評価する。

【テキスト】

現代社会の産業心理学（向井・蓮花（編著）　福村出版）

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜、プリントも配布する。

資料分析法特論

西 和久

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

第１講　イントロダクション
第２講　因子分析（１）-主成分分析
第３講　因子分析（２）-その他の因子分析
第４講　共分散分析
第５講　相関分析
第６講　単回帰分析
第７講　重回帰分析
第８講　判別分析
第９講　独立性の検定
第10講　同等性の検定
第11講　適合度検定
第12講　まとめ

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順　第４版（石村貞夫著　東京図書）

【参考文献・資料】

実践心理データ解析（田中敏著　新曜社）

プレゼンテーション演習

前田正三

【授業の概要】

パーソナルコンピュータ及び視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

1．プレゼンテーションの基礎、ワードで自己紹介１
2．ワードで自己紹介２
3．ポスター作成１
4．ポスター作成２
5．個人課題の発表
6．スライドの作成１
7．スライドの作成２
8．スライドの作成３（発表用）
9．個人課題発表
10．グループを作り、発表課題を決める
11．グループ課題の作成１
12．グループ課題の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、制作課題の総合により評価を決める。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。

ゲーム・シミュレーション演習

垂澤由美子

【授業の概要】

教育ゲームの体験を通して、環境問題の構造を理解し、その有効な対策の方法について学ぶ。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．廃棄物ゲームの体験
3．廃棄物ゲームの解説（地球環境問題とその解決策）
4．BAFA BAFAゲームの体験
5．BAFA BAFAゲームの体験
6．BAFA BAFAゲームの解説（異文化理解）
7．仮想世界ゲームのルール説明
8．仮想世界ゲームの体験
9．仮想世界ゲームの体験
10．仮想世界ゲームの体験
11．仮想世界ゲームの体験
12．仮想世界ゲームの解説（貧富の差に起因する認識の違い）
13．仮想世界ゲームの解説（外集団への偏見とその解決策）

仮想世界ゲームは1日間集中で行う（日程：6/11、6/18）。詳細は授業の中で知らせる。

【評価方法】

ゲームへの参加と、単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

シミュレーション世界の社会心理学（広瀬幸雄編著　ナカニシヤ出版）

環境文化講読演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康科学、生活衛生学領域に関するやさしい科学論文（和文・英文）の講読を通して、文献読解力を養い受講生各自が関心をもっている専門分野の研究内容やその学問的水準の概要を理解する。

1．オリエンテーション
2．授業担当者が提示する教材資料の輪読および要旨のレポート作成
3．受講生が選択したテーマに関する講読文献の検索および収集
4．講読要旨の作成および発表
5．研究結果報告書の作成および提出

上記の基礎的トレーニングを通して各自が獲得した知識や技術を次年度以後に予定されている卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

講読レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

配布プリントを使用し、参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化講読演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

第1回　　オリエンテーション
第2回～第8回　和書講読
第9回～第15回　論文講読

いずれの回も、指名された複数のレポーターのサマリーに基づいて、議論する。レポーターは「和書講読」で各自1回、「論文講読」で各自1回となるよう割り当てる。

「和書講読」には、指定テキストを用い、「論文講読」は、教員が各自に学術論文を割り当てる。

【評価方法】

出席状況（30点）、レポーター（口頭報告とレジュメ）（15点）×2、単位認定レポート（40点）で評価し、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

開講期前の適切な時期に掲示などによってゼミ生個別に指示する。

環境文化講読演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

生命科学分野の論文を講読し、資料の収集・整理・分析・評価するための手法を習得する。

取り上げる課題

1．ヒトゲノム
2．遺伝子組換え食品などバイオテクノロジー
3．突然変異の誘発と疾患（がん）
4．環境破壊因子　環境ホルモンと生殖
5．環境改善策
6．その他、各自の興味ある課題を取り上げる

【評価方法】

論文講読・レポートなど総合的に評価する

【テキスト】

特に定めませんが、日経サイエンス・遺伝・科学・NEWTONなど生命科学領域の雑誌、学術雑誌（邦文・英文）を講読する予定。

環境文化講読演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康を保持増進する視点から生活環境を見直す。関心をもったテーマに関連する文献を探し出し、講読し発表し意見交換を行う。

1．関心のあるテーマに関する総説を講読し、発表する
2．文献検索演習
3．関心のあるテーマに関する学術論文を講読し、発表する
4．関心のあるテーマに関する図書を読んでレポートを作成する

【評価方法】

レポートと発表等の受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

随時指定する。

環境文化講読演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

まず、対人行動や家族関係に関する専門書を講読し、心理学的用語・概念や心理学的研究方法を理解する。それにより、心理学的研究の対象となるこの分野のテーマを概観する。各自の研究関心領域を絞っていく。

次に、講読した書籍の引用・参考文献あるいは、絞られた領域の文献検索によって選択された研究論文の講読をおこなう。この段階で、質問紙調査法を中心とするデータ収集法やデータ分析の技法を習得することになる。

最終的には、各自が卒業研究のおおまかな企画を立てることが目標になる。

レポーターを決め、レジュメに基づく課題発表を行い、参加者全員で討論することによって、お互に専門的知識や研究技法を習得し、心理学的研究の基礎を学ばせたい。

【評価方法】

授業に出席し、与えられた課題・レポートを提出し、レポーターの役割を果すことは、単位取得として必須のことである。参加態度や成果が評価の対象となる。

環境文化講読演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、広い意味での「福祉」に関わる文献を購読する。その中でも、地域における福祉問題、ジェンダーと福祉の問題、国内外における福祉政策の国際比較、非営利組織やボランティアの活動に関わる理論、社会保障政策などに関心のある学生を歓迎する。初回の講義で学生の関心を聞き、購読する文献を決定する。授業は、同様の関心のある学生のグループもしくは個人が毎講、担当した文献について発表し、受講生の議論によって進める。

【評価方法】

出席、授業への貢献度により総合的に評価する。

【テキスト】

初回授業時に決定する。

【参考文献・資料】

福祉に関する基本的な文献として、ウェルビーイング・タウン社会福祉入門（岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著　有斐閣）の一読を薦める。

環境文化講読演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

前期は薬膳の基礎知識に関するの文献を講読し、その歴史背景及び理論構成を学ぶ。さらに、薬膳に用いる素材を調べ、それぞれの配合についての資料を収集・分類・整理するための能力を養成する。

1．飲食と健康
2．未病と予防
3．薬膳の歴史
4．医薬食同源
5．薬膳の素材
6．薬膳の処方
7．その他、各自の興味ある課題を取り上げる。

【評価方法】

文献資料講読・レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

中国薬膳大辞典を中心に抜粋したプリントを配布する予定。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典（楊衛平他編集　MEK出版局）
医心方（丹波康頼　筑摩書房）

環境文化講読演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学的な観点から、さまざまな意味の「環境」にかかわる諸問題を検討する。

学期のはじめに、社会科学的なものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、地球環境問題や経済開発をめぐる諸問題といった「環境」にかかわる問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当個所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

環境政治への視点（賀来健輔・丸山仁編　信山社）
国際政治史としての20世紀（石井修　有信堂）
講座国際政治（1）　国際政治の理論（有賀貞編　東京大学出版会）

環境文化特殊演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

既に獲得した当該専門領域に関する学問的知識をもとに各自の設定する研究テーマについて教育指導を行う。

1．オリエンテーション
2．研究テーマの検討および研究計画の作成（要旨の提出）
3．文献資料等の検索および収集。測定機器等の操作に必要な訓練指導についても併せて行う。
4．研究結果の要旨作成および発表
5．研究結果報告書の作成および提出

上記の学習を通して、その成果を次年度以後の卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

研究レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

使用せず。参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化特殊演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

第１回　　オリエンテーション
第２回～第４回　研究テーマの決定
第５回～第８回　研究報告１（文献研究報告１）
第９回～第12回　研究報告２（文献研究報告２）
第13回～第15回　卒業研究の研究計画報告

各自に４回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況、授業態度（30点）、各報告（レジュメと口頭発表）（５点×４）、卒業研究計画書（単位認定課題レポート）（50点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化特殊演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した知識をもとに生命科学の分野から各自テーマを選びレポートを作成する。

1．テーマの設定
2．資料の収集、関連文献の検索
3．資料の整理、分析、評価
4．論文にするための方法の検討
5．口頭発表するための方法の検討
6．論文の作成と口頭発表

【評価方法】

テーマについての進捗状況（随時行う）・レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化特殊演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「講読演習」によって明確になった各自の関心を研究テーマに纏め上げ、論文に仕上げていく過程で必要となる調査法・測定法・実験法を習得する。

1．オリエンテーション
　前期に提出したレポートの講評
2．文献検索を行い、仮アウトラインを作成する
3．主要文献を入手する
4．本アウトラインを作成し、レポートを提出する
　個別指導により調査法・実験法を明確にする

【評価方法】

「特殊演習」では研究を進める過程が大切であるので、受講態度・発表・レポートの総合評価とする。

【テキスト】

特に指定しない。

環境文化特殊演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「環境文化講読演習」によって絞り込まれた自分の研究テーマを仮説・検証する研究計画として発展させていく。そのために文献研究を進め、研究目的を明確にし、仮説をうち立てる。さらにその仮説を検証するための資料収集が可能な段階（観察記録票や質問紙の作成など）まで進める。予備調査できる状態、あるいは予備調査を実施し、それなりの結果の分析ができるまでをこの演習の目標とする。

ゼミ形式［司会者が、レポーター、コメンテーター（発表者の研究が発展するように報告内容や質問・問題点を指摘する役）の発表を中心に、参加者全員で討論させるような授業運営方式］で実施する。

【評価方法】

与えられた課題の達成度、参加態度、出席率等を総合的に評価する。

環境文化特殊演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で学んだ知識をもとに広い意味での福祉に関わる問題の中から各自がテーマを選び、レポートを作成する。各自の研究テーマの設定、問題を探求するための方法、結果のまとめ方と発表の方法について学ぶ。（1）研究の目的と概要、（2）中間（経過）報告、（3）結果についてそれぞれ学生が発表し、受講生全員で討議する。

【評価方法】

出席、授業への貢献度、レポートの完成度により総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じて各自に指示する。

環境文化特殊演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した薬膳の知識に基づいて、後期は病気別症状別の薬膳内容を纏め、現代社会の日常生活にどのように活用していけるかを、健康づくりの視野から各自のテーマを選びレポートを作成する。

1．各自テーマを設定する
2．資料と関連文献の収集
3．資料の分析・評価整理
4．論文を作成する方法論
5．口頭発表の方法を検討
6．現代社会の健康づくりに活用できる薬膳の知識を習得する。

【評価方法】

各自のテーマについての進展状況を把握し、具体的な内容については、レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

特に使用せず。

環境文化特殊演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

本演習では、前期の環境文化講読演習で学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについて調査する。

学期の初めは環境文化講読演習と同様に社会科学的視点から「環境」を論じた文献を精読する。その後、受講生の調査・研究の進捗状況により、個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究 I

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

健康科学および衛生学に関連する分野から、各自が学問的関心に基いて選定した研究テーマを、卒業研究の準備学習課題として位置づけ、綿密な教育指導を行う。

1．オリエンテーション。
2．研究テーマの検討および選定。
3．研究計画の検討（予備実験・調査法等の立案）。
4．文献検索および資料収集。
5．文献・資料の整理および分析。
6．予備実験・調査の実施及び結果の整理。
7．研究結果の中間報告書レポートの提出。

【評価方法】

授業への出席、受講姿勢、レポートにより総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究 I

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

第１回　　オリエンテーション
第２回～第６回　研究計画の報告
第７回～第10回　予備実験、予備調査の報告
第11回～第15回　「序論」の作成

各自に３回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

なお、９月に実施されるゼミ合宿への出席は必須である。

【評価方法】

出席状況・授業態度（30点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×３）、「序論」下書き（単位認定課題レポート）（40点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化研究 I

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自が設定した研究課題について指導する。

1．テーマの設定　研究目的の明確化と研究計画
2．関連文献の調査と整理
3．実験、調査など研究方法の検討
　実験技術の習得
4．データーの収集、結果の分析と評価
5．論文の構成要素、アウトラインの作成
6．口頭発表による研究報告

【評価方法】

随時進捗状況を報告する
研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究Ⅰ

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次の成果をもとに、研究テーマに関する文献検索・文献講読を進める。さらに研究テーマについて、科学的仮説を明確にして、調査および実験計画をたて、パイロットスタディを経て、本調査および本実験を行う。

1．オリエンテーション
2．個別指導により、科学的仮説を明確にする
3．パイロットスタディによるレポート作成
4．本調査および本実験
5．データ解析
6．レポート提出および発表（ゼミ合宿）

【評価方法】

論文に仕上げていく大切な時期である。
レポートと発表等受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

特に使用しない。

環境文化研究Ⅰ

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

文献研究に基づく各自の研究目的の明確化と仮説を検証する資料収集と実施する段階の授業である。予備調査・予備実験・予備観察等の経過をふまえて、仮説を検証するにふさわしい本調査・実験等を行う。

ゼミ形式で各自の研究が進展するように相互に討論しあう授業形態と、各自の研究指導をする個別指導の形態とミックスさせる。

後期の「環境文化研究Ⅱ」で卒業研究レポートで完成させるために、収集したデータを分析する段階でもあるので、授業時間外の自己学習時間が多く必要とされる。

【評価方法】

ゼミ形式の授業における討論参加の積極性と、自己学習における成果によって評価する。

環境文化研究Ⅰ

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

卒業論文作成に向けた指導を行う。3年次に決定したテーマ及び仮説に基づいて調査を行い、各自の成果を発表し、進捗状況に応じて個別に指導する。

【評価方法】

出席、研究内容、授業への貢献を総合的に評価する。

【テキスト】

個別に指定する。

【参考文献・資料】

個別に指定する。

環境文化研究Ⅰ

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

前期の勉強・講読に基づいて、研究・調査の成果をまとめ、研究計画を立てる。

1．テーマの設定に従い、更に、研究目的を明確させる。
2．文献の収集・整理・分析・分類を実施する。
3．論文の構造及び書き方・参考文献の引用法を習得する。
4．プレゼンテーションのための資料を作成する。
5．口頭発表などによる討論・評価を繰り返して行う。

【評価方法】

レポートなどのプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究Ⅰ

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

３年次に履修した「環境文化購読演習」「環境文化特殊演習」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、３年次と同様、個人あるいはグループで与えられた文献の担当個所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行う。その上で関連事項や参考文献を調べてレジュメを作成し、それを用いながら発表を行う。また、それと同時に、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する指導教員のアドバイスを軸に進めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究Ⅱ

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

前期開講の「環境文化研究１」において習得した学習成果をもとに、最終目標である「卒業研究レポート」の作成に向けて研究活動を継続する。

1．予備実験・調査研究結果の問題点の整理および検討。
2．資料および文献の補足収集・検索。
3．本実験・調査の実施および結果考察。
4．研究結果報告書（卒業研究レポート）の作成。
5．研究要旨の作成および発表。
6．卒業研究レポート提出。

【評価方法】

提出された卒業研究レポートおよび発表により総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究Ⅱ

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

第１回	オリエンテーション
第２回～第６回	「方法」「結果」の報告
第７回～第10回	「考察」「討論」の報告
第11回～第13回	個別指導
第14回・第15回	レジュメの作成

各自に２回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

全員「卒業論文」あるいは「卒業制作」を提出し、「卒業プロジェクト」の単位を取得することを義務づける。さらに、「卒業論文」「卒業制作」の概要をレジュメにまとめ公刊されるレジュメ集に投稿することを義務づける。

【評価方法】

出席状況、授業態度（30点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×２）、卒論、卒制レジュメ（50点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間内で指示する。

環境文化研究Ⅱ

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

1．データーの整理、分析、評価、考察
2．論文の書き方、参考文献の引用法
3．論文の要旨の作成
4．プレゼンテーションのための資料の作成
5．口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究Ⅱ

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究テーマに関する文献考察を行い、不備な部分を補う。研究テーマに関する本調査および本実験の解析結果をみて、補足調査および補足実験を行い、論文を完成させる。

1．オリエンテーション
2．実験および調査結果の解析
3．個別指導により論文を完成させる
4．卒業論文提出
5．卒論集のためのレジュメ作成

【評価方法】

論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない

環境文化研究Ⅱ

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究を卒業研究レポートとして提出する段階である。

科学的な実証方法で、仮説を証明する流れをきちんと守り、実行して、報告する。

個別指導が中心となる。

【評価方法】

卒業研究レポートの良否が評価対象となる。

環境文化研究Ⅱ

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の進捗状況に応じて問題の設定、調査、調査結果のまとめについて毎回発表し、議論する。問題設定の方法、調査の方法、調査結果のまとめ方について個別に指導する。

【評価方法】

従業への出席、貢献度及び卒業レポートの内容で評価する。

【テキスト】

各自個別に指定する。

【参考文献・資料】

各自個別に指定する。

環境文化研究Ⅱ

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の設定したテーマによって、研究内容・卒論の作成についての指導を行う。

1．関連文献の検索・収集・整理を行う。
2．薬膳の資料を症状別に分類し、薬膳の実際を検討する。
3．収集したデータの整理・分析・評価・選択を実施する。
4．論文の構成要素を纏める。
5．口頭発表などによる研究報告を行う。

【評価方法】

随時に進展状況をチェック、レポートの形で研究結果を発表する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

3年次の「環境文化購読演習」「環境文化特殊演習」、4年前期の「環境文化研究Ⅰ」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する受講生による討論を基本とする。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化卒業プロジェクト

杉浦信彦　高橋啓介　多田萬里子　棚橋昌子
永田忠夫　楊 衛平　若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の全専任教員によって行う。

【授業計画】

本授業は「環境文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「環境文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「環境文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「環境文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1　教育現場はいま
2　教師像の変遷
3　現代の理想的教師像
（1）　教科指導者としての教師
（2）　特別活動の指導者としての教師
（3）　教師とカウンセリング
（4）　学級経営者としての教師
（5）　教師と校務
（6）　共生社会における教師の仕事
4　市民としての教師
5　子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
6　まとめ

【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本おける明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1．日本における教員養成の制度
（1）教員養成の歴史と現在（2）教職課程の仕組（3）教員の採用
2．教師について考える
（1）教科指導（2）生徒指導（3）教員の研修
3．種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1．教育とは何か
2．人間と教育
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3．教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4．教育の目的
教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5．現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

1．教育思想史を勉強することの意義
2．教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3．コメニウス
4．ルソー
5．ペスタロッチ
6．ヘルバルト
7．フレーベル
8．デューイ
9．教育思想と教育実践

【評価方法】

評価はリポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業計画】

1．欧米教育文化史の視点と課題
2．中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3．近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4．大学の誕生と展開
5．西洋的教養と学校制度の確立
6．欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編　名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子　日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和　学文社）
教養の復権（沼田裕之他　東信堂）

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1．教育心理学を学ぶということ
　・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．発達について考える
　・生涯発達の視点
　・障害の意味と発達可能性
　・発達段階と発達課題
　・認知の発達
3．学習の過程を考える
　・学習の成立過程
　・学習における知識の役割
　・学習意欲を育てる
　　外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

1．発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2．青年期の意味
3．発達と教育
4．「自分」の諸相
5．「自分でない」世界の認識から
6．第一「反抗」期の意味
7．自我と他我
8．他律的規範への順応
9．第二の誕生
10．アイデンティティの確立
11．生涯発達の視点と生き方
12．自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解
2 心身障害児の種類と程度
　心身障害児とは
　学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
　視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
　言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
　なぜ早期発見、早期教育が必要か
　社会自立に向けた後期中等教育の重要性
4 心身障害児の就学指導の仕組み
5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1．教育制度の意義
2．現代学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．日本の学校教育の変遷
5．現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6．外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1．比較教育学の基礎理論
2．社会発展論と教育
3．近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4．「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5．近現代日本の教育制度の成立と特徴
6．文化と教育、異文化交流としての教育
7．人権としての教育
8．比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著　ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著　東信堂）
世界の学校（二宮晧編著　福村出版）
多文化教育（中島智子編著　明石書店）
学歴社会　新しい文明病（ドーア著　岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著　亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著　中公新書）
世界の教育開発（米村明夫　明石書店）

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業計画】

1．教育課程とは
（1）教育課程の原理と理論
（2）教育課程の構造と種類
（3）教育課程の歴史的変遷
2．諸外国の教育課程の概観
3．わが国の教育課程
（1）戦前の教育課程の構造
（2）戦後の教育課程の構造
（3）現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
（4）現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4．総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5．まとめ
（1）教育課程研究と教師
（2）望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1．教育課程とは
（1）教育課程の原理と理論
（2）教育課程の構造と種類
（3）教育課程の歴史的変遷
2．諸外国の教育課程の概観
3．わが国の教育課程
（1）戦前の教育課程の構造
（2）戦後の教育課程の構造
（3）現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
（4）現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4．総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5．まとめ
（1）教育課程研究と教師
（2）望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

国語科教育法Ⅰ

永井聖剛

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかに教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

「教育法Ⅰ」では、教材価値を見極め、それを伝達する力の習得を第一の目標としたい。よって授業の中心的な内容は教材の精読となる。作品（小説・評論など）の「教材」としてのきめ細かな読解・分析こそが、もっとも有効かつ重要な教材研究の方法であることを学んでもらいたい。

1講　導入・国語科とはどういう教科か
2講　新学習指導要領について
3～4講　教材価値とは何か
　　教材をどう読み、どう伝えればよいのか
5～10講　教材研究の方法
11～12講　学習指導案の作成
13講　まとめ

【評価方法】

出席状況・授業への参加態度とレポートなどを総合して、評価する。

【テキスト】

新版　中学校高等学校国語科学習指導の研究（大田勝司他編　双文社出版）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説　国語編
中学校学習指導要領解説　国語編
その他、講義中に指示する。

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1講　導入　新・学習指導要領における中学校の国語科教育
2・3講　「説明文」「俳句」教材の学習指導
　（教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究）
4～7講　「評論」「ルポルタージュ」「随想」教材の学習指導
　（教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業）
8～10講　「小説」教材の学習指導
　（同上）
11～12講　「漢詩」教材の学習指導
　（同上）
13講　「言語活動例」を用いた学習指導
　（同上）

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版　中学校高等学校国語科学習指導の研究
（大田勝司他編　双文社）

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説　国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1講　導入
　新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
2～3講　『国語総合』「小説」の学習指導
　（教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究）
4～7講　『国語総合』古文教材の学習指導
　（教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業）
8～11講　『古典』漢文教材の学習指導
　（同上）
12～13講　「総合的な学習」と国語科
　（同上）

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版　中学校高等学校国語科学習指導の研究
（大田勝司他編　双文社）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説　国語編

英語科教育法Ⅰ

大野清幸

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領に準拠し、英語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、日本における英語教育の歴史、諸外国における言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育等の話題を含めて、英語教育の在り方を考察する。

【授業計画】

1　授業計画指示など　**必ず出席すること!**
2　日本の英語教育の目的と現状、日本における英語教育の歴史
3　言語習得の原理と各種教授法
4　学習指導要領と英語科教育法
5　諸外国の言語政策と英語教育
6　マルチメディア活用の可能性と課題
7　ListeningとSpeakingの指導
8　ReadingとWritingの指導
9　Team-teaching
10　英語評価
11　学習指導案における指導課程の構成
12　中学校の英語授業と学習指導案の書き方
13　高等学校の英語授業と学習指導案の書き方
14　教育実習の意義

【評価方法】

出席状況、授業態度を厳しく評価する。
模擬研究授業を実施する。

【テキスト】

英語教師編　授業の「つかみ」は最初の5分：
英語に興味を持たせるアイデアウォームアップ集（前田和彦　燃焼社）
中学校学習指導要領解説：外国語編（文部省）
高等学校学習指導要領解説：外国語（英語）編（文部省）

【参考文献・資料】

※授業・課題などにおいて、電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
本学が実施する学内におけるインターネット利用のための講習会を適切な時期に受講し、学内におけるインターネットの利用許可を得ている学生のみ、受講可能です。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

英語科教育法Ⅱ

古井雅子

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的 コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業計画】

1．オリエンテーション：入門期の英語教育について
2．英語教授法と現在の英語教育
3．学習指導要領と英語教育
4．英語教科書（中学校）の分析と検討
5．英語教科書（高校）の分析と検討
6．情報通信ネットワークと英語教育
7．教材研究とティーチングプラン作成
8．模擬授業（1）
9．模擬授業（2）
10．模擬授業（3）
11．模擬授業（4）
12．英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業参加態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック
（米山朝二・杉山敏・多田茂　大修館書店）

英語科教育法Ⅲ

古井雅子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、特に必要性が高まっている国際理解とコミュニケーション能力を育成するためには、中学校において、どのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1　学習指導要領と英語科教育法
2　中学校英語教育と高等学校英語教育の展開
3　英語Ⅰ・Ⅱの指導
4　オーラルコミュニケーションの指導
5　ライティング、リーディングの指導
6　国際理解教育と英語教育
7　マルチメディアと情報通信ネットワークの活用
8　英語教科書と言語活動
9　高等学校英語授業と学習指導案
10　授業の観察と分析
11　教育実習に向けて
12　英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

出席状況、授業参加態度と課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック
（米山朝二・杉山敏・多田茂　大修館書店）

英語科教育法Ⅳ

影戸 誠

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した高等学校において英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

第1回　英語の授業、海外では？（ESL）
第2回　ある生徒の英語プレゼンテーション
第3回　教員とインターネットリテラシ
第4回　コミュニケーションとしての英語
第5回　国際交流と英語
第6回　総合学習と英語教育，高校・大学との連携
第7回　生徒になってプレゼンテーション
第8回　他大学英語科教員養成課程との
　　オンラインプレゼンテーション
第8回　授業でのインタラクション
第9回　模擬授業　ロールプレイ1
第10回　模擬授業　ロールプレイ2
第11回　教師としてのプレゼンテーション1
第12回　教師としてのプレゼンテーション2

【評価方法】

ネットワークを通して情報共有を行い、提出された「まとめ・作品」を日常点として評価する。ネットワークに蓄積される学生相互の評価も参考とする。

【テキスト】

実践・プレゼンテーション（影戸 誠・渡辺浩行著　日本文教出版）

【参考文献・資料】

よりよい英語授業を目指して（斎藤英二・鈴木寿一編著　大修館書店）
翼をもったインターネット（影戸誠著　日本文教出版）
国際交流マニュアル（影戸誠編著　日本文教出版）

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

1　道徳と道徳教育
2　児童・生徒を生かす道徳教育
3　公教育における道徳教育の歴史
　・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
　・戦後の道徳教育の変遷
4　道徳性の発達理論と学校道徳教育
5　学校における道徳教育の実際
　・道徳教育の目標
　・道徳教育の内容
　・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
　・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
　・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1．自由度の高い特別活動の可能性
2．特別活動の歴史的変遷
3．学級活動
4．生徒会活動
5．学校行事
（1）儀式的行事　（2）学芸的行事　（3）健康安全・体育的行事
（4）遠足・集団宿泊的行事　（5）勤労生産・奉仕的行事　等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫　新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著　ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編　労働旬報社）
<教育>の誕生
（フィリップ・アリエス　中内敏夫・森田伸子訳　新評社、藤原書店）
<子供>の誕生
（フィリップ・アリエス　杉山光信・杉山恵美子訳　みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋　中公新書）
立身出世主義（竹内洋　NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋　講談社現代新書）
日本の近代12　学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋　中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子　行路社）
学級経営の歴史（志村廣明　三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎　平凡社）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編　青弓社）
教育には何ができないか（広田照幸　春秋社）
近代日本の公民教育（松野修　名古屋大学出版会）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由　新風舎）

他

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校、・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

（1）学級づくりと学級こわしの関係
（2）生徒理解と学級担任の役割
（3）共感的学級経営の実践
（4）成就型教育観と参加型教育観
（5）学級担任と言葉の問題
（6）カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
（1）多様化した生徒への対応の仕方
（2）中学校における個を生かす学習集団
（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著　明治図書　2,370円）

教育方法

東浦信博

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
（1）多様化した生徒への対応の仕方
（2）中学校における個を生かす学習集団
（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

資料持込可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。（福村出版 ¥1,700）

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業計画】

1．生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

（1）社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
（2）青少年非行と矯正教育
（3）中学校における生徒指導の在り方と留意点
（4）高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2．進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

（1）進路指導における教員の在り方と留意点
（2）進路に関する情報伝達と進路相談
（3）中学校における進路指導の在り方と留意点
（4）高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1．生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

（1）社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
（2）青少年非行と矯正教育
（3）中学校における生徒指導の在り方と留意点
（4）高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2．進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

（1）進路指導における教員の在り方と留意点
（2）進路に関する情報伝達と進路相談
（3）中学校における進路指導の在り方と留意点
（4）高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．「自分」は他者との関係の中で育つ
3．教師- 生徒の相互影響過程
4．生徒理解
5．学校における教育相談
6．教育相談の進め方
7．相談とカウンセリング
8．適応と不適応
9．問題行動のとらえ方とその対応
10．不登校を考える
11．いじめを考える
12．非行を考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．教師と生徒の人間関係
　・「自分」は他者との関係の中で育つ
　・教師－生徒の相互影響過程
　・生徒理解
3．教育相談
　・学校における教育相談
　　教育相談の位置づけ
　　教育相談の特質
　・教育相談の進め方
　　カウンセリングの基礎
4．学校という生活環境と適応
　・適応と不適応
　・問題行動のとらえ方とその対応
　・学校への不適応を考える
　・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

冨安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解し、傾聴について学んでいく。ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が置かれてきたように思われるので、自己一致の重要性についても考えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実際例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦　後口伊志樹　加藤文子　佐藤実芳
霜田一敏　冨安玲子　渡辺かよ子　羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の７テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

（１）学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
（２）みんなの学校問題（小栗正彦）
（３）福祉－障害のある人も健常な人も共に生きるコミュニティについて－（加藤文子）
（４）社会と子育て（佐藤実芳）
（５）高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
（６）ジェンダーと教育（冨安玲子）
（７）生涯学習における学校（渡辺かよ子）
（８）国際化を考える

【授業計画】

※印は後期日程（於　星ヶ丘）

1. 全体、各テーマ別　８月５日　※１月10日
   （１）総合演習とは、これからのすすめ方
   （２）各テーマの概要説明（各担当者）
   （３）希望テーマ提出、テーマ別編成
   （４）各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日　※２月10日
   課題レポートの提出（必要部数の印刷）
3. 各テーマ別　９月２日　※２月17日
   （１）課題レポートについて報告（１人10～15分）
   （２）質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別　９月９日　※２月24日
   （１）問題点について分析検討
   （２）グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体　９月16日　※３月３日
   （１）グループ代表者の発表（１名15～20分）
   （２）担当教員の指導
   （３）感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
   ・前年度実習者からのアンケート結果
   ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
   ・教育実習の領域
   ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
   ・実習記録の意義
   ・実習記録の方法
4. 授業研究
   ・教材研究、教具の意義
   ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
   ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
   ・特別支援教育諸学校教育の理解
   ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。

介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著　ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅰ

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での３週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（１）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
　また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

（２）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

（３）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での２週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1．生涯教育の理念～推移を含めて～
　ユネスコ以降わが国における推移
　生涯教育のめざすもの
　生涯教育と生涯学習の関係
2．生涯教育と社会教育・学校教育との関係
　生涯教育と社会教育
　生涯教育と学校教育
3．社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関
　行政社会教育の主要領域
　社会教育の内容・方法・形態
4．生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性
　生涯学習関連施設の範囲
　社会教育施設の種類と現状
5．生涯学習指導者：学校教師を越えて
　生涯学習指導者の範囲
　生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

授業中に紹介する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業計画】

1．学校図書館の理念と教育的意義
　（1）学校教育における学校図書館の役割
　（2）館種別にみた図書館の世界
2．学校図書館の発展と課題
　（1）学校図書館法の成立と展開
　（2）国内外の先進事例
　（3）レファレンスサービスの実践
3．教育行政と学校図書館
4．学校図書館の経営
　（1）学校図書館の経営組織のあり方
5．司書教諭の役割とその問題点
6．学校図書館メディアの内容と構成
7．学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1．教育課程と学校図書館
2．学習活動を促進する学校図書館――実践例
3．学校図書館の現状と問題点――蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4．各教科・科目の学習指導と図書館――実践例
5．「総合学習」における図書館利用
6．図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7．図書館実習――テーマ学習における司書教諭の指導について
8．討論――中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1．児童生徒が喜んで利用するメディア構成
　（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
　（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
　（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2．教育課程にマッチしたメディア構成
　（1）教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
　（2）「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
　（3）「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3．情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
　（1）ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
　（2）FD、CD－ROM等の活字メディアに代わるもの
　（3）Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4．学校図書館メディアの組織化
　（1）分類の意義と分類作業の基本
　（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第3版　第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1．読書のよろこび
　（1）人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
　（2）代表的な先人の読書経験から学ぶもの
　（3）受講者自身の学校図書館での本との出会い
2．人間形成と読書
　（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
　（2）少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
　（3）読書における、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
　（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
　（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
　（1）家庭での読書についての親子の対話
　（2）友達同士の読書グループ、読書会
　（3）学区図書館を利用した共同研究
5．読書の技術
　（1）情報化時代の読書のあり方
　（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1．生涯教育の理念～推移を含めて～
　ユネスコ以降わが国における推移
　生涯教育のめざすもの
　生涯教育と生涯学習の関係
2．生涯教育と社会教育・学校教育との関係
　生涯教育と社会教育
　生涯教育と学校教育
3．社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関
　行政社会教育の主要領域
　社会教育の内容・方法・形態
4．生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性
　生涯学習関連施設の範囲
　社会教育施設の種類と現状
5．生涯学習指導者：学校教師を越えて
　生涯学習指導者の範囲
　生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1．情報と知識の研究と実務に関わる分野
　図書館学/情報学/図書館情報学
　図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2．情報の概念
　概念・考え方・観点・立場
　定義の多様性と現象の多面性
　情報概念の歴史/情報・知識・データ
　定義の整理のための枠組み/構造的な理解
　認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3．情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1．情報の流通過程
　情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2．図書館・情報サービスの世界
　構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3．協力と競合
　図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4．図書館員と情報専門職の世界
5．図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館経営論

松下 鈞

【授業の概要】

図書館の技術的な面―分類・目録等―資料組織とは別に図書館運営上の諸問題―司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

0．オリエンテーション・図書館の経営論の意義　1回
1．図書館館種別の経営上の問題点と管理原則　1回
2．行政と図書館経営　1回
3．図書館学の五法則と図書館員の関わり　1回
4．図書館の自由に関する宣言　1回
5．図書館員の倫理綱領　1回
6．図書館員と労働基準法解説　1回
7．図書館関係法規と図書館のサービス基準解説　1回
8．図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出）　1回
9．図書館計画の立案と実例解説　2回
10．ネットワーク、コンソーシアム　1回
11．図書館建築・施設及び設備　1回
12．生涯学習と図書館及び利用者教育　2回
13．情報専門職の養成、アウトソーシング　1回
※講義の中から関心のある事項についてレポート提出　2回

【評価方法】

期末テスト実施―記述式、前期全体の講義の中から問題を２～３問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1．イントロダクション「図書館のフロアデザイン」
2．自分の好きな図書館のコーナー
3．図書館を設置する環境
4．情報を求める人たち
5．こどもと情報
6．高齢者と情報
7．ビジネスマンと情報
8．大学生と情報
9．研究者と情報
10．機能と機器（什器）
11．情報、資料
12．スタッフ

情報サービスを、環境、施設・設備、機能などの観点から検討してみたいと思います。皆さんがこれまで使ってきた図書館の目的、対象、機能などについて、建築プラン、フロアデザイン、家具、機器などハードウェアの面と、蔵書構築や目録作成、もろもろのサービスなどソフトウェアの面から見直し、理想とする図書館建築プランを構想してみましょう。
授業は、講義とグループ研究によって行ないます。
受講に先立って、さまざまなタイプの図書館を見学しておくことを望みます。

【評価方法】

小レポート、グループ研究、最終レポートによるほか、授業への積極的な参加態度を加味して評価します。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と肥大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業計画】

1．イントロダクション「自分史のなかの図書館」
2．さまざまな情報サービス
3．情報環境の変化
4．こどもと図書館、老人と図書館
5．情報環境のデザイン
6．情報の連環
7．情報源
8．情報評価法
9．コミュニケーション・スキル
10．ネットワーク、コンソーシアム
11．指定管理者制度、アウトソーシング
12．求められる情報専門家

皆さんの生まれた1985年前後から2005年までの、およそ20年の間に急速に発達した電子情報技術は、私たちの日常生活や大学生活に大きな変化をもたらしています。この授業では、人々と情報との関わりの大きな節目に置かれている図書館の諸問題を、グローバル化、多様化する情報社会という視点と、私たちの日々の暮らしにおける図書館との関わり、という二つの視点から概観してみたいと思います。

授業は講義を中心としますが、グループ研究、研究発表を課します。受講に先立って以下のことをしておくこと。
a）「インタネット講習会」を受講しておくこと。
b）インタネット検索エンジンを使いこなせるようにしておくこと。
c）近隣の複数の公共図書館を訪問し、そこの施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
d）愛知淑徳大学図書館のレファレンス・カウンターに相談のうえ、近隣の大学図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
e）自分史における本やAV資料との出会い、図書館の利用などについて思い出しておくこと。

【評価方法】

小レポート、グループ研究、期末レポートに授業への積極的な参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1．レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2．レファレンスプロセス
　・質問の受付から内容の確認へ
　・質問内容の分析から探索の実行へ
　・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3．レファレンスサービスのための情報源

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD－ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、情報検索での用語の理解とともに、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

中島玲子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
　出版流通過程と制度
　オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
　学術雑誌の機能、査読制度
　雑誌論文の構成
　抄録作成法、引用法、
　プレプリント、e－print
　レター、editorial comment
（3）新聞
　新聞の流通制度
　新聞記事の構成
（4）会議資料
　学会、会議録
（5）特許資料
　特許制度
　パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
　規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
　情報検索システムの歴史
　検索技術、シソーラス
（8）インターネット
　ネットワーク情報資源の特徴
　WWWの評価
　Web citation、メタデータ
　ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
　出版流通過程と制度
　オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
　学術雑誌の機能、査読制度
　雑誌論文の構成
　抄録作成法、引用法、
　プレプリント、e－print
　レター、editorial comment
（3）新聞
　新聞の流通制度
　新聞記事の構成
（4）会議資料
　学会、会議録
（5）特許資料
　特許制度
　パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
　規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
　情報検索システムの歴史
　検索技術、シソーラス
（8）インターネット
　ネットワーク情報資源の特徴
　WWWの評価
　Web citation、メタデータ
　ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から，学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

1　学問分野と情報メディア
2　自然科学分野と人文・社会科学分野
3　人文・社会情報メディア
　3．1　美術分野
　3．2　音楽分野
　3．3　文学
　3．4　ビジネス分野
　3．5　法律分野
　3．6　心理学
　3．7　図書館情報学
4　情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

平常点およびレポートよって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

第１回　情報の組織化
第２回　目録
第３回　書誌コントロール
第４回　書誌ユーティリティ
第５回　目録規則
第６回　記述目録（１）AACR２r、NCR
第７回　記述目録（２）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
第８回　記述目録（３）各種記述フォーマット
第９回　メタデータ
第10回　主題目録（１）概要
第11回　主題目録（２）分類法
第12回　主題目録（３）主要分類法
第13回　主題目録（４）主要件名標目表
第14回　期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編　日本図書館協会、2002）
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著　勁草書房、1998）
図書館ネットワーク―書誌ユーティリティの世界―（宮澤彰　丸善、2002）

資料組織演習

松井美紀

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の２部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

・目録作業の概要
・主題目録法
　分類：NDC、UDC
　主題件名標目表：BSH
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイント
　典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A,2003年）

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の２部で構成される。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

・目録作業の概要
・主題目録法
　分類：NDC、UDC
　主題件名標目表：BSH
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイント
　典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.　2003年）

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業計画】

１公立図書館の児童サービス
　（１）子どもの読書と児童図書館
　（２）児童図書館の意義と歴史
　（３）児童用資料の種類と特性（１）絵本・文学
　（４）児童用資料の種類と特性（２）ノンフィクション・その他
２児童サービスの実際
　（５）児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
　（６）資料収集・蔵書構成、選書、貸出
　（７）予約・レファレンス、ブックトーク
　（８）よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
３　児童サービスの対象
　（９）乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
４　類縁機関との連携
　（10）学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
５　児童図書館員の専門性
　（11）養成と採用　ボランティア
６（12）児童サービスの現在と今後　見学レポートによる
７（13）実習・ストーリーテリング

【評価方法】

出席状況　平常点　図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論（中多泰子編著　樹村房）

【参考文献・資料】

児童サービス論（佐藤涼子編　教育史料出版会）
クシュラの奇跡（ドロシー・バトラー著　のら社）
児童図書館のあゆみ（児童図書館研究会編　教育史料出版会）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業計画】

1．古代文明のメディアと情報・知識活動
2．ギリシア・ローマにおける進展
3．中世の学術と書物・図書館
4．印刷革命

【評価方法】

定期試験　※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1）ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
2）メディアとは何か
3）情報機器の発展経緯と種類、機能
4）情報メディアの発展経緯と特性
5）視聴覚メディアの種類と特性
6）コンピュータの基本的な仕組み
7）図書館の機械化
8）データベースと情報検索
9）メディアの多様化と情報技術
10）インターネットについての基礎知識
11）インターネットによる情報発信
12）電子情報と知的所有権

【評価方法】

（1）出席状況（2）定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業計画】

1．印刷のもたらした近代
　学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2．図書館の世紀
3．書誌とドキュメンテーション
4．情報メディア技術の発達
5．20世紀の情報流通システムと情報検索
6．図書館学と情報学
7．未来を索めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験　※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

博物館概論

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業計画】

ア　はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
イ　博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
ウ　博物館の始原… 博物館の始原をたずねてみる。
エ　博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
オ　近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
カ　近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
キ　ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
ク　アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
ケ　博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
コ　日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
　・幕末から明治期にかけての博物館の出発
　・国威の宣揚と博物館
　・通俗教育による教化と博物館
　・十五年戦争と博物館

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

【授業計画】

ア　博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
イ　博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
ウ　博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
エ　博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
オ　学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
カ　予算など…博物館のマネージメントについて考える。
キ　博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
ク　博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
ケ　博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
コ　文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1．博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2．資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3．資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
　やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4．資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5．資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6．資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7．資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
　また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1．展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2．展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3．展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4．展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5．展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、
●土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
●夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

教育学概論

梅村敏郎

【授業の概要】

教育学の各分野の研究成果を可能な限り視野に納めながら、教育の実践活動がどのように行われるべきかを考える。

【授業計画】

1．教育とは何か
2．教育学の発展
3．教育と「子ども観」
4．家庭教育
5．学校制度
6．社会教育

【評価方法】

学期末の筆答試験による。

【テキスト】

教科書は使用しない。

【参考文献・資料】

参考書等は授業中に適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

高橋啓介

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

上記の教育目標を達成するために、特に「メディア・リテラシー」の問題に焦点を当て、実践的な分析をも含めて、「メディア・リテラシー」教育について検討する。

第１回　メディア・リテラシーとは
第２回　メディア・リテラシーの基本概念
第３回　メディア・リテラシーの枠組み
第４回　テレビ報道の分析１（事例研究）
第５回　テレビ報道の分析２（事例研究）
第６回　メディアの技術
第７回　テレビCMの分析１
第８回　テレビCMの分析２
第９回　テレビCMの分析３
第10回　テレビCMの分析４
第11回　テレビCMの分析５
第12回　テレビCMの分析６
第13回　まとめ

なお、必要に応じて受講者の発表を含む演習形式を取ることがある。また３回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況（30点）、授業態度（20点）、自由課題研究レポート（50点）とし、加点法によって60点以上を取得の場合、合格とする。

レポートの提出は原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

メディア・リテラシーを学ぶ人のために（鈴木みどり　世界思想社）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1．民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

学外教育としてフィールドワークを行う。

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

美術史

四辻秀紀

【授業の概要】

平安時代には、和歌の心映えや情趣を絵にあらわした“歌絵”やつくり物語のなかの興趣ある場面を選んで絵画化した“物語絵”が愛好された。これ以降、和歌や物語を絵画化したり意匠化して享受することは各時代を通じおこなわれてきた。本講座では、平安時代から江戸時代に至る“歌絵”や“物語絵”の系譜について現存遺品を中心に、文献資料をまじえながら考察し、各作品の制作・享受の背景や問題点について言及したい。

【授業計画】

1．やまと絵の成立と展開。物語絵と屏風絵・歌絵
2．和歌とかな
3．源氏物語絵巻
4．源氏物語絵巻
5．鎌倉時代以降の源氏絵の系譜
6．紫式部日記絵巻
7．伊勢物語絵巻
8．さまざまな歌仙絵
9．鎌倉時代の白描絵巻
10．お伽草子と小絵
11．近世初期の古浄瑠璃絵巻群について
12．工芸品にみる歌絵・物語絵の意匠
※スライド使用。学外授業として展覧会の見学を行う。

【評価方法】

レポートおよび出席状況により総合的におこなう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際の道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業計画】

1　考古学の理念と方法論
2　日本考古学の発展　ア　原始
3　　〃　　イ　古代・中世
4　　〃　　ウ　近世以降
5　文化財としての遺跡・遺物
随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業計画】

1．履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2．歴史地理学概説
3．中国と日本のの自然地理を知る
4．自然地理と歴史の関係概説　史前期から近代まで
　ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
　中国歴代王朝と都の位置
5．中国人の地域概念
　『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6．古代中国の地域と現状
　夏殷周三代の歴史とその遺跡
7．中国の気候変遷と歴史の関係
8．地形図にみる地域と歴史
　中国地形図の種類と現状

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化　中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修　新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約３週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は２月中旬から３月中旬の約１ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2004年度実施研修プログラムにおける１日（９:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

午前　少人数制英会話クラスと総合英語の授業

午後　アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

１．南京師範大学において４週間の中国語研修を行う。

◎　月曜～金曜の午前中は８：00～11：30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。

◎　午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。

◎　夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。

◎　土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!

◎　風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。

２．言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した５日間ほどの研修旅行。

３．定員は20名程度。

４．今年度の２月中旬から３月中旬にかけて実地する。

５．終了者に２単位を認定する。

【授業計画】

４月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。９月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を２回ほど、オリエンテーションを１回実施する。詳しくは掲示を見る。２月中旬に出発し、３月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ（韓国）

チョ スルソップ

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる２泊３日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の８月中の３～４週間
内容：
1．韓国語研修
　a．梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
　b．実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
　c．入門の１段階から最上級の６段階に分けられたクラス編成
　d．専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2．韓国文化研修
　a．芝居鑑賞
　b．板門店の訪問
　c．ホームステイ（２泊３日）
3．日韓学生共同プログラム
　a．毎週１回程度の頻度
　b．テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
　c．テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪（文化財踏査）」、「韓国の民俗と礼節」など
4．その他の課外活動

【授業計画】

４～５月：ガイダンス、参加者の募集および決定
６～７月：数回の事前研修
８月：現地研修
９～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」（梨花女子大学校出版部）中
その他は特になし

Japan's Global Interface

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　石橋善弘

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	JOLLY, James	Developing International Business Practices
11	JOLLY, James	Developing International Business Practices
12	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences
13	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences

【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕
1．期日
　実習　平成17年９月７日（水）・８日（木）・９日（金）
　　12日（月）・13日（火）・14日（水）
　　計６日間　午前中のみ
2．説明会　平成17年７月６日（水）12：30～13：15
　　実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3．場所　星ヶ丘ボウル
4．実習費　6,000円（平成16年度のものですので変更する場合があります。）
5．定員　60名
6．内容
　１日目　開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
　２日目　ボウリングの歴史、基本動作
　３日目　ボールのコントロール、軌道調整
　４日目　アジャスティングの基本と実践、３－２－１理論
　５日目　レーンコンディションとボールの曲がり
　　ストライクアングルの実践練習
　６日目　競技会説明、競技会（アメリカン方式３ゲーム）、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕
1．期日
　実習　平成18年２月８日（水）・９日（木）
　　10日（金）・13日（月）
　　14日（火）・15日（水）
　　計６日間　午前中のみ
2．説明会　平成18年１月11日（水）12：30～13：15
　　実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3．場所　名古屋スポーツセンター　（大須）
4．実習費　7,200円（平成16年度のものですので変更する場合があります。）
5．定員　40名
6．内容
　１日目　開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
　２日目　自然滑走、正しい押し出し
　３日目　フォアスケーティング・カーブ滑走
　４日目　ストップ、バックスケーティングの基本
　５日目　クロスステップ、フォアからバックへのターン
　６日目　総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活（英語）、言活（中国語）、言活（韓国・朝鮮語）、コン活のページを参照ください。